

男女共同参画社会づくりのための市民意識調査

第1 調査概要

1 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識の変化と実態を把握し、令和3年度に策定する「第3次のべおか男女共同参画プラン」（「配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援計画」「女性活躍推進法に基づく推進計画」を含む）の施策の充実に図るための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の方法

- (1)調査地域：延岡市全域
- (2)調査対象：延岡市に居住する18歳以上の男女各1,000人 計2,000人
(年齢別人口構成比により、6階層に按分)
- (3)抽出方法：延岡市住民基本台帳より無作為抽出
- (4)調査方法：郵送による調査票の配布及び回収
- (5)調査期間：令和元年11月1日～令和元年11月30日

3 調査の内容

(1)属性項目

項目選択方式により、次の7項目とします

- ①居住地区 ②性別 ③年齢 ④家族構成 ⑤既婚・未婚
- ⑥本人の雇用形態(就業の有無) ⑦配偶者の雇用形態(就業の有無)

(2)調査項目

- ①男女平等意識について
- ②家庭生活及び結婚・家庭観について
- ③仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について
- ④就業について
- ⑤地域活動について
- ⑥政策決定への参画について
- ⑦人権への配慮について
- ⑧男女共同参画センターについて
- ⑨男女共同参画施策について
- ⑩自由意見

4 回収結果

- (1)発送数：2,000人
- (2)有効回答数：551人(女性307人、男性244人)
- (3)有効回収率：27.6%

5 報告書の見方

- (1) 調査結果の数値は回答率(%)で示している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者総数、あるいは分類別の回答者数であり、その数はNで示している。
- (2) 百分率は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示した。よって、単一回答(答えが1つだけのもの)の回答率の合計値は100.0%にならない場合がある。

第2 回答者の属性

問1 住んでいる地区

旧延岡市地区	北方町・北浦町・北川町	未記載	計
504人	29人	18人	551人
91.4%	5.3%	3.3%	100%

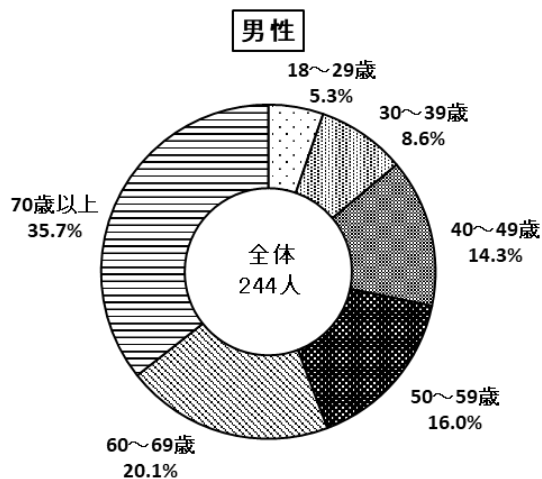
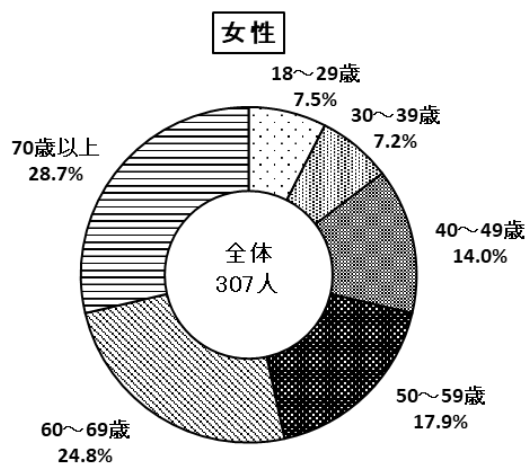
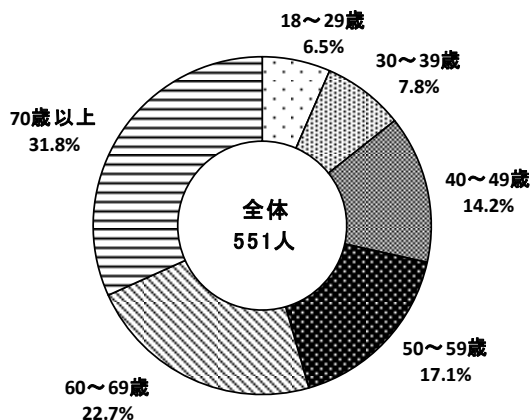
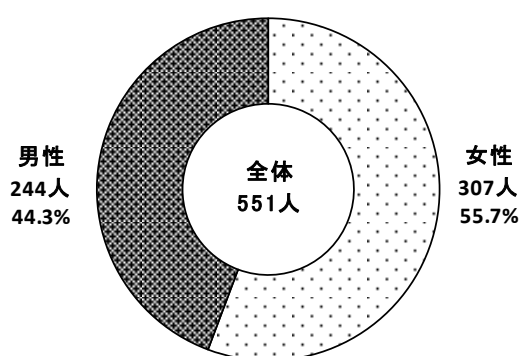
問2 性別

問3 年齢

回答者の性別割合は、女性 55.7%、男性 44.3%となっています。

回答者の年齢割合は、70歳以上が31.8%と最も高く、50歳以上が全体の7割以上を占めています。男女別にみても、同様の割合となっています。

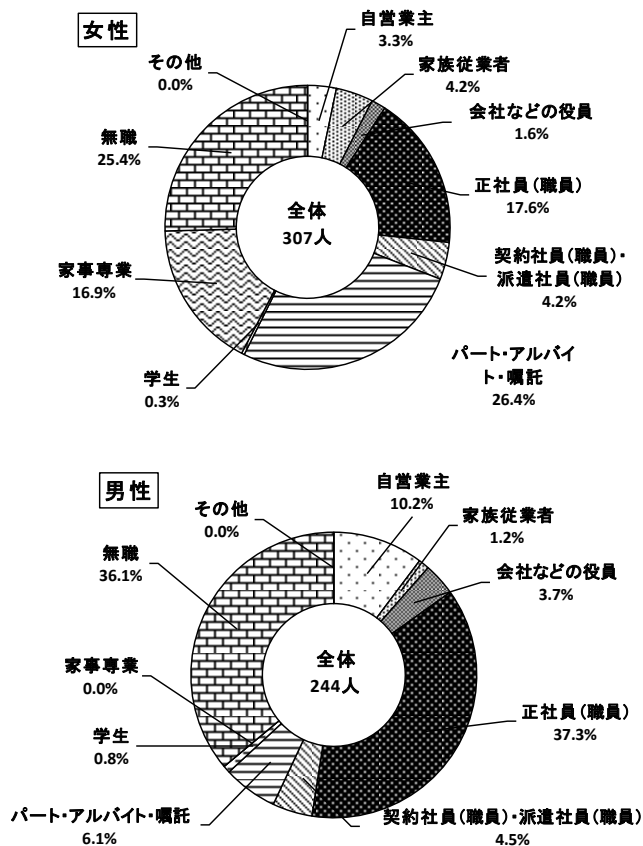
上段:人数 下段:%	女性	男性	全体
18～29歳	23 7.5%	13 5.3%	36 6.5%
30～39歳	22 7.2%	21 8.6%	43 7.8%
40～49歳	43 14.0%	35 14.3%	78 14.2%
50～59歳	55 17.9%	39 16.0%	94 17.1%
60～69歳	76 24.8%	49 20.1%	125 22.7%
70歳以上	88 28.7%	87 35.7%	175 31.8%
合計	307 100.0%	244 100.0%	551 100.0%



問4 雇用形態

女性では、「パート・アルバイト・嘱託」が26.4%と最も多く、次いで「無職」が25.4%、「家事専業」が16.9%の順で、仕事をしている人の割合は57.3%となっています。

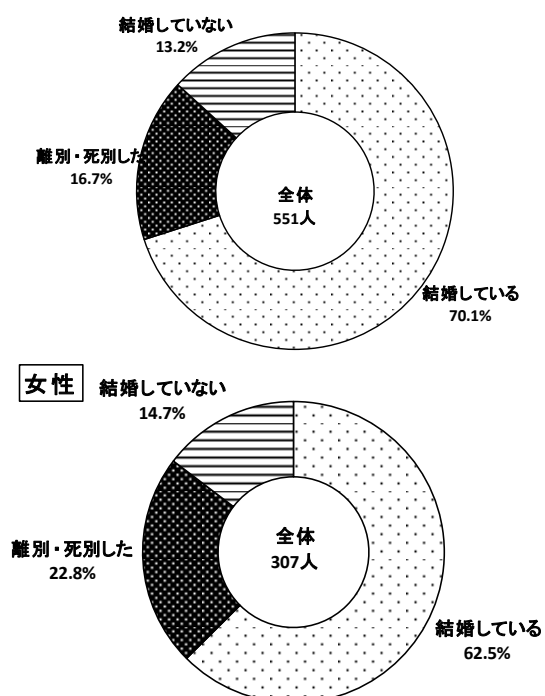
男性では、「正社員」が37.3%と最も多く、次いで「無職」が36.1%で、仕事をしている人の割合は63.1%となっています。



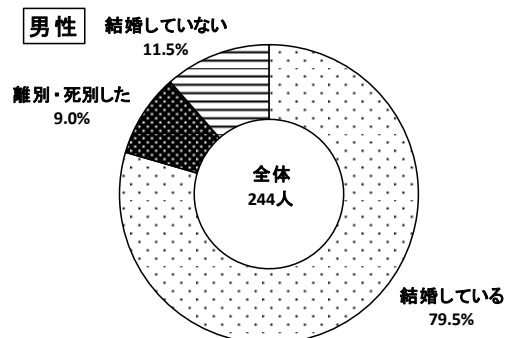
上段:人数 下段:%	女性	男性	全体
自営業主	10 3.3%	25 10.2%	35 6.4%
家族従業者	13 4.2%	3 1.2%	16 2.9%
会社などの役員	5 1.6%	9 3.7%	14 2.5%
正社員(職員)	54 17.6%	91 37.3%	145 26.3%
契約社員(職員)・派遣社員(職員)	13 4.2%	11 4.5%	24 4.4%
パート・アルバイト・嘱託	81 26.4%	15 6.1%	96 17.4%
学生	1 0.3%	2 0.8%	3 0.5%
家事専業	52 16.9%	0 0.0%	52 9.4%
無職	78 25.4%	88 36.1%	166 30.1%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	307 100.0%	244 100.0%	551 100.0%

問5 結婚の有無(事実婚も含む)

結婚している人は、全体の7割を占めています。



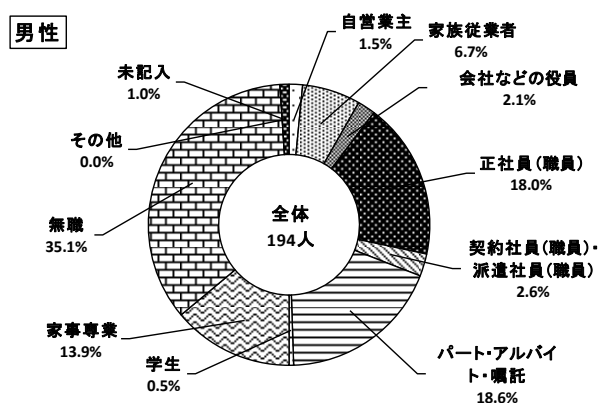
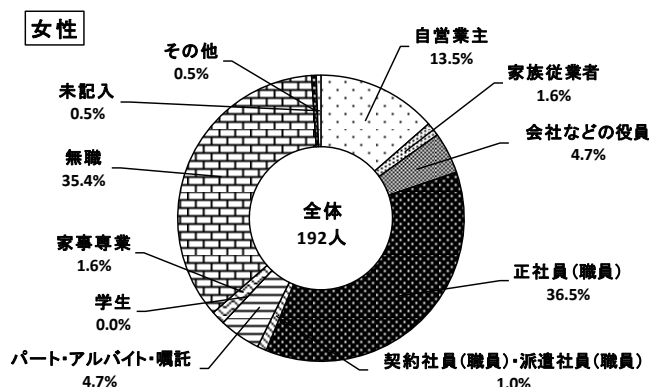
上段:人数 下段:%	女性	男性	全体
結婚している	192 62.5%	194 79.5%	386 70.1%
離婚・死別した	70 22.8%	22 9.0%	92 16.7%
結婚していない	45 14.7%	28 11.5%	73 13.2%
合計	307 100%	244 100%	551 100%



問6 配偶者(パートナー)の雇用形態

女性の場合、配偶者（パートナー）の雇用形態は、「正社員（職員）」が 36.5%と最も多く、次いで「無職」が 35.4%、「自営業主」が 13.5%で、仕事をしている人の割合は 62.0%となっています。

男性の場合、配偶者（パートナー）の雇用形態は、「無職」が 35.1%と最も多く、次いで「パート・アルバイト・嘱託」が 18.6%、「正社員（職員）」が 18.0%で、仕事をしている人の割合は 49.5%となっています。



上段: 人数 下段: %	女性	男性	全体
自営業主	26 13.5%	3 1.5%	29 7.5%
家族従業者	3 1.6%	13 6.7%	16 4.1%
会社などの役員	9 4.7%	4 2.1%	13 3.4%
正社員(職員)	70 36.5%	35 18.0%	105 27.2%
契約社員(職員)・派遣社員(職員)	2 1.0%	5 2.6%	7 1.8%
パート・アルバイト・嘱託	9 4.7%	36 18.6%	45 11.7%
学生	0 0.0%	1 0.5%	1 0.3%
家事専業	3 1.6%	27 13.9%	30 7.8%
無職	68 35.4%	68 35.1%	136 35.2%
その他	1 0.5%	0 0.0%	1 0.3%
未記入	1 0.5%	2 1.0%	3 0.8%
合計	192 100.0%	194 100.0%	386 100.0%

問7 家族構成

「夫婦のみ」が 33.6%で最も多く、次いで「二世世代世帯（自分と子ども）」が 30.3%となっています。

年代別にみると、18～29 歳では「二世世代世帯（自分と親）」、30 歳代から 50 歳代までは「二世世代世帯（自分と子ども）」、60 歳以上では「夫婦のみ」の占める割合が多くなっています。

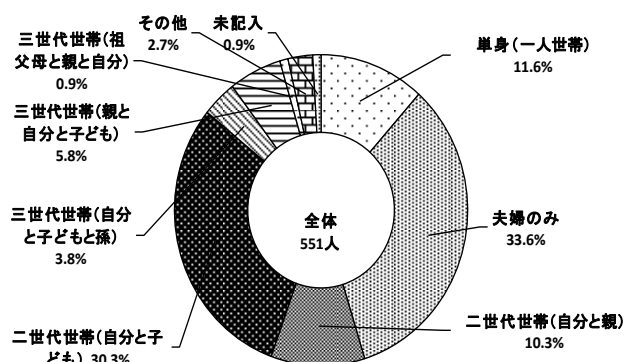


表 問 7 家族構成

家族構成／男女・年代別の詳細

上段：人数 下段：%	女性							男性							全体
	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	女性計	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	男性計	
単身（一人世帯）	1 4.3%	2 9.1%	3 7.0%	3 5.5%	15 19.7%	19 21.6%	43 14.0%	2 15.4%	1 4.8%	4 11.4%	2 5.1%	4 8.2%	8 9.2%	21 8.6%	64 11.6%
夫婦のみ	0 0.0%	0 0.0%	4 9.3%	17 30.9%	28 36.8%	41 46.6%	90 29.3%	3 23.1%	3 14.3%	5 14.3%	6 15.4%	26 53.1%	52 59.8%	95 38.9%	185 33.6%
二世代世帯（自分と親）	14 60.9%	4 18.2%	9 20.9%	7 12.7%	2 2.6%	1 1.1%	37 12.1%	4 30.8%	2 9.5%	4 11.4%	6 15.4%	2 4.1%	2 2.3%	20 8.2%	57 10.3%
二世代世帯（自分と子供）	5 21.7%	13 59.1%	20 46.5%	19 34.5%	18 23.7%	18 20.5%	93 30.3%	0 0.0%	12 57.1%	16 45.7%	18 46.2%	12 24.5%	16 18.4%	74 30.3%	167 30.3%
三世代世帯（自分と子供と孫）	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	8 10.5%	4 4.5%	13 4.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	1 2.0%	6 6.9%	8 3.3%	21 3.8%
三世代世帯（親と自分と子供）	1 4.3%	3 13.6%	5 11.6%	7 12.7%	1 1.3%	1 1.1%	18 5.9%	2 15.4%	2 9.5%	4 11.4%	5 12.8%	1 2.0%	0 0.0%	14 5.7%	32 5.8%
三世代世帯（祖父母と親と自分）	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	2 0.7%	2 15.4%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.2%	5 0.9%
その他	1 4.3%	0 0.0%	2 4.7%	1 1.8%	3 3.9%	2 2.3%	9 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.7%	1 2.6%	2 4.1%	1 1.1%	6 2.5%	15 2.7%
未記入	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.3%	2 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	2 2.3%	3 1.2%	5 0.9%
合計	23 100.0%	22 100.0%	43 100.0%	55 100.0%	76 100.0%	88 100.0%	307 100.0%	13 100.0%	21 100.0%	35 100.0%	39 100.0%	49 100.0%	87 100.0%	244 100.0%	551 100.0%

第3 調査結果の概要

1. 男女平等意識について

◆ 男女の平等感

分野別で平等であると感じる割合が高いのは「学校教育の場」であり、53.4%となっています。一方で、「社会全体で平等である」と回答した人の割合は、16.3%にとどまっています。

男性優遇感を持つ割合は、「社会通念・慣習・しきたり」で71.6%、「政治の場」で71.5%と高くなっており、特に、「社会通念・慣習・しきたり」の分野では、50歳代女性が男性優遇感を持つ割合が92.7%と高くなっています。

◆ 男女平等になるために重要なこと

男女ともに、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や公的な社会通念、慣習、しきたりを改める」との回答が最も多く、次いで、女性では、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得する」、男性では「法律や制度の面で男女差別につながるものを改める」との回答が多くなっています。

◆ 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」というような、性別によって役割を決めつける考え方について、賛成派（「賛成」および「どちらかといえば賛成」の計）は18.0%、反対派（「反対」および「どちらかといえば反対」の計）は54.1%となっています。

女性の反対派（61.2%）は男性の反対派（45.1%）を16.1ポイント上回っています。

2. 家庭生活及び結婚・家庭観について

◆ 家庭生活での夫婦の役割分担の理想と現状

「家計を支える」ことについては、理想・現状ともに「主に夫」の分担とする割合が高く、6割を超えています。「育児・子どものしつけ」「学校の行事に参加」「地域の行事に参加」「親の世話・介護」については、同程度分担することを理想と考える回答が7割前後と高くなっていますが、現状では妻が分担している割合が高くなっています。

◆ 日常的な時間の使い方

「炊事、洗濯、掃除等」について、30分未満と答えた人が、女性7.2%に対して男性43.9%となっていますが、その他の項目については、男女の差はほとんどありませんでした。

◆ 出生率について

出生率低下の原因としては、女性男性ともに「出産や養育、教育費の経済負担が大きいから」の回答が多くなっています。「家事や育児に女性の負担がかかりすぎるから」の回答数は女性が80、男性が35と女性と男性の意識の差がうかがえます。

◆ 子どものしつけや教育について

「女の子も男の子も同様の経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」、「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」との考え方については賛成派の割合が9割前後と高くなっています。「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」との考えについては、賛成が半数近くに達しており、特に男性で賛成派が多くなっています。「女の子は文科系、男の子は理科系に進んだ方がよい」との考え方に対しては、30代女性の81.8%が反対と回答しています。

◆ 結婚・家庭観

「結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい」については、全体で36.8%、女性42.3%、男性29.9%が賛成しています。「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」については全体で39%が「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答しており、婚姻状況別にみると、男女とも「結婚していない」場合に「賛成」と回答した人の割合が高くなっています。

3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

◆ 仕事と生活のバランスの希望と現状

「仕事、家庭生活、地域・個人の生活をともに大切にしたい」と希望している人は3割を超えますが、現状で大切にできている人は1割強にとどまっています。仕事を優先したいと希望している人は4.0%ですが、現状では仕事を優先させている人が17.2%になっています。

◆ 仕事と生活の調和のために必要なこと

女性の最も多い回答は「給与等の男女間格差の解消」、男性の最も多い回答は「労働時間の短縮・休暇制度の充実・普及」となっています。次いで、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備（代替要員の確保など）」となっており、職場環境に関するものが上位を占めています。

4. 就業について

◆ 就業している理由

「生計を維持するため」が最も多く、全回答者の70.6%となっています。男性では「働くのが当然だから」、女性では「家計の足しにするため」が上位に入っています。

◆ 職場での男女差

「賃金」「昇進・昇格」では男性優遇感を持つ人の割合が高く、女性優遇感を持つ人はほとんどいません。一方、「育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ」は女性優遇感を持つ人の割合が高くなっています。

◆ 就業していない理由

男女ともに「高齢だから」が最も多く、次いで「健康上または体力的な理由のため」となっています。「家族の介護や世話をするため」や「家事や育児に専念したいから」を理由にしている割合は女性が高く、男性ではほとんどみられません。

◆ 女性の就業についての意義

『就業継続型』（子どもができて仕事が続ける方がよい）は46.5%で、『中断再就職型』（子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい）の34.8%を上回っています。

特に、18～29歳の男性では、『就業継続型』が69.2%で『中断再就職型』15.4%を大きく上回っています。

◆ 女性の就業継続について

男女ともに、「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」との回答が最も高く、次いで、「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する」、「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」となっています。

◆ 男性の育児休業取得について

男性の育児休業取得率が低い理由としては、男女ともに、「職場に取りやすい雰囲気がないから」「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」、「休業補償が十分でなく、経済的に困るから」が多くなっています。

5. 地域活動について

◆ 地域活動への参加

地域活動については、「参加していない」との回答が全体の44.8%を占めています。参加している活動では、男女ともに、「町内会・自治会等の活動」が最も多くなっています。

◆ 地域社会での慣習等

男女とも、「集会でのお茶くみ、調理等は女性がする」が最も多く、次いで、「役員や催し物の決定は主に男性がする」となっています。

6. 政策決定への参画について

◆ 政策の企画・方針決定に関する意識

女性の参画が少ない理由としては、男女ともに「男性優位の組織運営」との回答が最も多く、次いで、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」、「女性の側の積極性が十分でない」となっています。

◆ 女性の社会参画

女性の社会参画のために必要なのは、男女ともに「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」、「都道府県知事・市町村長」の順で多くなっています。また、次に男性が多く回答したのは、「町内会長・自治会長」となっています。

◆ 女性の社会進出のために必要な措置

女性の社会進出のためには、「企業などが自主的に、女子社員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性社員（職員）の進出を促す計画を策定する」との回答が最も多くなっており、次いで、「国や地方自治体が自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する」となっています。

7. 人権への配慮について

◆ 女性の人権への意識

「職場におけるセクシャル・ハラスメント」、「家庭内での夫から妻への暴力」、「女性に対するストーカー」、「痴漢行為」、「売春」といった主に身体に及ぶ行為に対しては男女ともにどの年代も人権が尊重されていないと感じる割合が高くなっています。一方、「女性の容ぼうを競うミス・コンテスト」など言葉や視覚的な表現をしているものに関しては、人権が尊重されていないと感じる人の割合は低くなっています。

◆ 配偶者等からの暴力に対する意識

配偶者等からの暴力について、暴行や性的行為の強要など、直接身体におよぶ行為については、どんな場合も暴力にあたると考える人の割合が非常に高くなっています。また、「生活費を渡さない」についても7割強が、どんな場合も暴力にあたると考えています。

◆ 配偶者等からの暴力を受けた経験

配偶者等からの暴力を全く受けた経験がないと答えた人は67.9%になっています。また、何らかの暴力を受けたことがあると回答した人のうち、一番多い経験は、「大声でどなられる」となっています。

◆ 配偶者等からの暴力を受けたときの相談先

配偶者等から暴力を受けたときの相談先については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」人が回答者の59.3%と最も多く、次いで「友人知人に相談した」と「家族に相談した」の順となっています。

◆ 配偶者等からの暴力を受けたときに相談しなかった理由

どこ（だれ）にも相談しなかった理由としては、「相談するほどのことでもないと思ったから」が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから」となっています。

◆ 配偶者等に対して暴力を行った経験

女性の約 20%、男性の 39%が配偶者に対して何らかの暴力を行った経験があると答えており、行った暴力の種類では、「大声でどなる」が最も多くなっています。

◆ メディアにおける性・暴力表現についての意識

メディアにおける性・暴力表現については、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も多く、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」となっています。

◆ 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために必要なこと

『女性専門外来』の充実や、女性の心や心身の健康の問題に関する専門窓口の整備を必要とする意見が多く、次いで、「学校教育の場で、男女平等の精神を基にした性教育を行う」となっています。

8. 男女共同参画センターについて

◆ 延岡市男女共同参画センターの認知度

延岡市の男女共同参画社会づくりの拠点である「延岡市男女共同参画センター」について「知らない」と回答した人が 36.9%、「内容まで詳しく知っている」と答えた人はわずか 0.8%にとどまっています。

◆ 延岡市男女共同参画センターの利用の有無

「利用したことがない」と回答した人が 89.3%と高くなっており、「2 度以上利用したことがある」、「1 度だけ利用したことがある」と回答した人は合わせて 6.7%となっています。

◆ 延岡市男女共同参画センターに期待すること

「男女共同参画を推進するための広報啓発等の作成と配布」、「男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催」、「男女共同参画社会づくりに取り組む個人やグループの支援及び交流の場の提供」等啓発や情報提供を期待する回答が多くなっています。

9. 男女共同参画施策について

◆ 男女共同参画に関する言葉の認知度

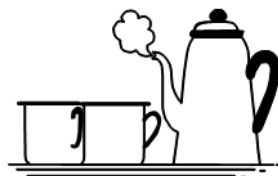
「育児・介護休暇法」、「男女雇用機会均等法」、「ストーカー行為の規制や、被害者に対する援助措置等を定めた法律（ストーカー規制法）」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」については、「よく知っている」、「聞いたことがある」人の合計が 8 割前後で認知度が高くなっています。一方で、「固定的性別役割分担意識」、「リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）」については、「よく知っている」人の割合は 1 割程度となっています。

◆ 男女共同参画に関する言葉を見聞きした場所

男女共同参画に関する言葉を見聞きした場所としては、「新聞、雑誌、テレビ等のメディア」が最も多くなっています。一方、約 1 割の方は「見たり聞いたりしたことはない」と回答しています。

◆ 市が推進すべき男女共同参画施策について

男女共同参画社会を形成していくために、市が力を入れるべき施策としては、男女ともに「働きやすい職場環境の整備」との回答が最も高くなっています。次いで、女性は、「保育・介護に関する福祉の充実」、男性は「学校教育における男女平等教育の推進」と回答した人が多くなっています。



第4 調査結果

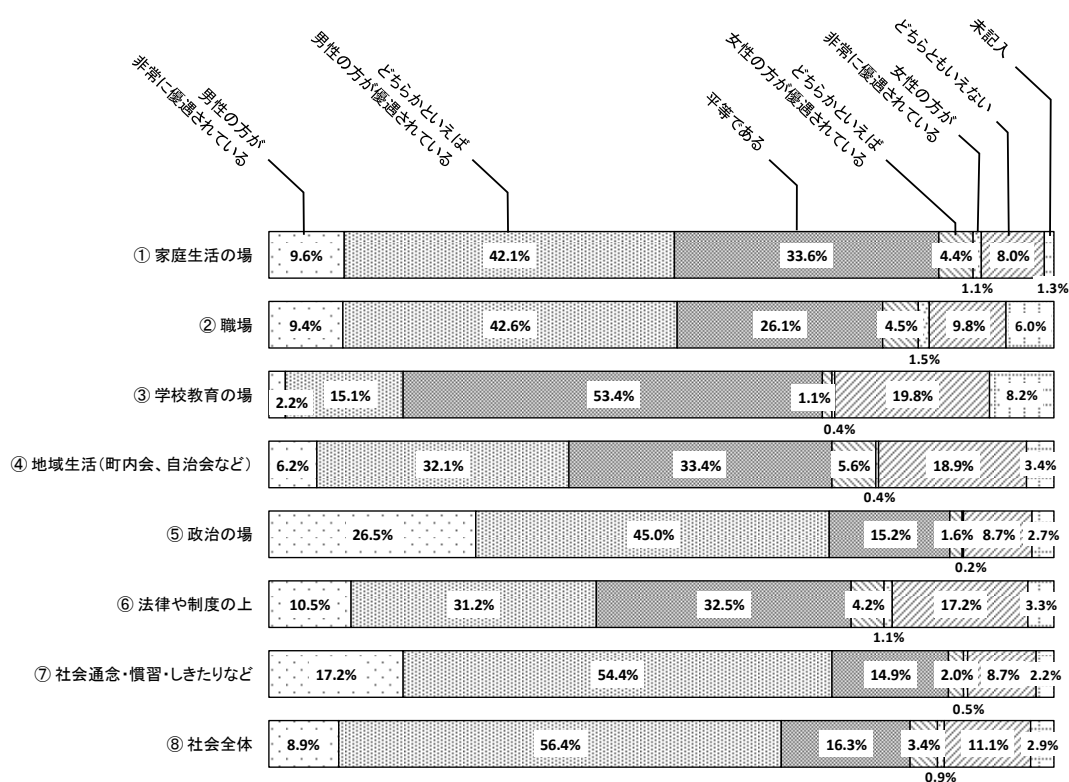
1 男女平等意識について

問8 男女の平等感

あなたは、次の①～⑧にあげるような分野で、男女は平等になっていると思いますか？

(○はそれぞれひとつずつ)

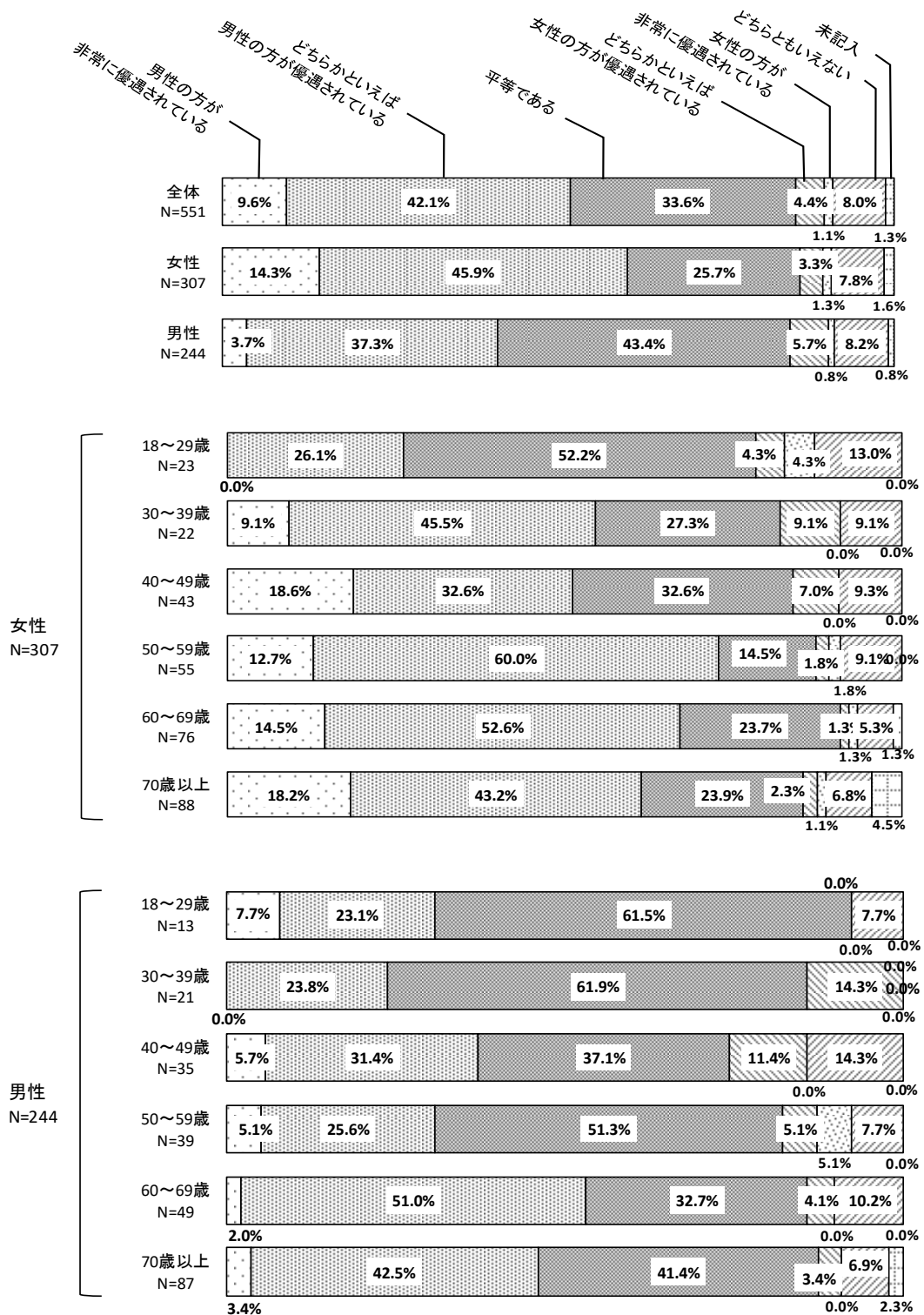
- 「社会全体」で「平等である」と回答した人の割合は、16.3%にとどまっています。
- 最も「平等である」と回答したのは、「学校教育の場」であり、53.4%となっています。
- 「学校教育の場」以外では全て、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が大きくなっています。



上段:人数 下段:%	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	どちらともいえない	未記入	計
① 家庭生活の場	53 9.6%	232 42.1%	185 33.6%	24 4.4%	6 1.1%	44 8.0%	7 1.3%	551 100.0%
② 職場	52 9.4%	235 42.6%	144 26.1%	25 4.5%	8 1.5%	54 9.8%	33 6.0%	551 100.0%
③ 学校教育の場	12 2.2%	83 15.1%	294 53.4%	6 1.1%	2 0.4%	109 19.8%	45 8.2%	551 100.0%
④ 地域生活(町内会、自治会など)	34 6.2%	177 32.1%	184 33.4%	31 5.6%	2 0.4%	104 18.9%	19 3.4%	551 100.0%
⑤ 政治の場	146 26.5%	248 45.0%	84 15.2%	9 1.6%	1 0.2%	48 8.7%	15 2.7%	551 100.0%
⑥ 法律や制度の上	58 10.5%	172 31.2%	179 32.5%	23 4.2%	6 1.1%	95 17.2%	18 3.3%	551 100.0%
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど	95 17.2%	300 54.4%	82 14.9%	11 2.0%	3 0.5%	48 8.7%	12 2.2%	551 100.0%
⑧ 社会全体	49 8.9%	311 56.4%	90 16.3%	19 3.4%	5 0.9%	61 11.1%	16 2.9%	551 100.0%

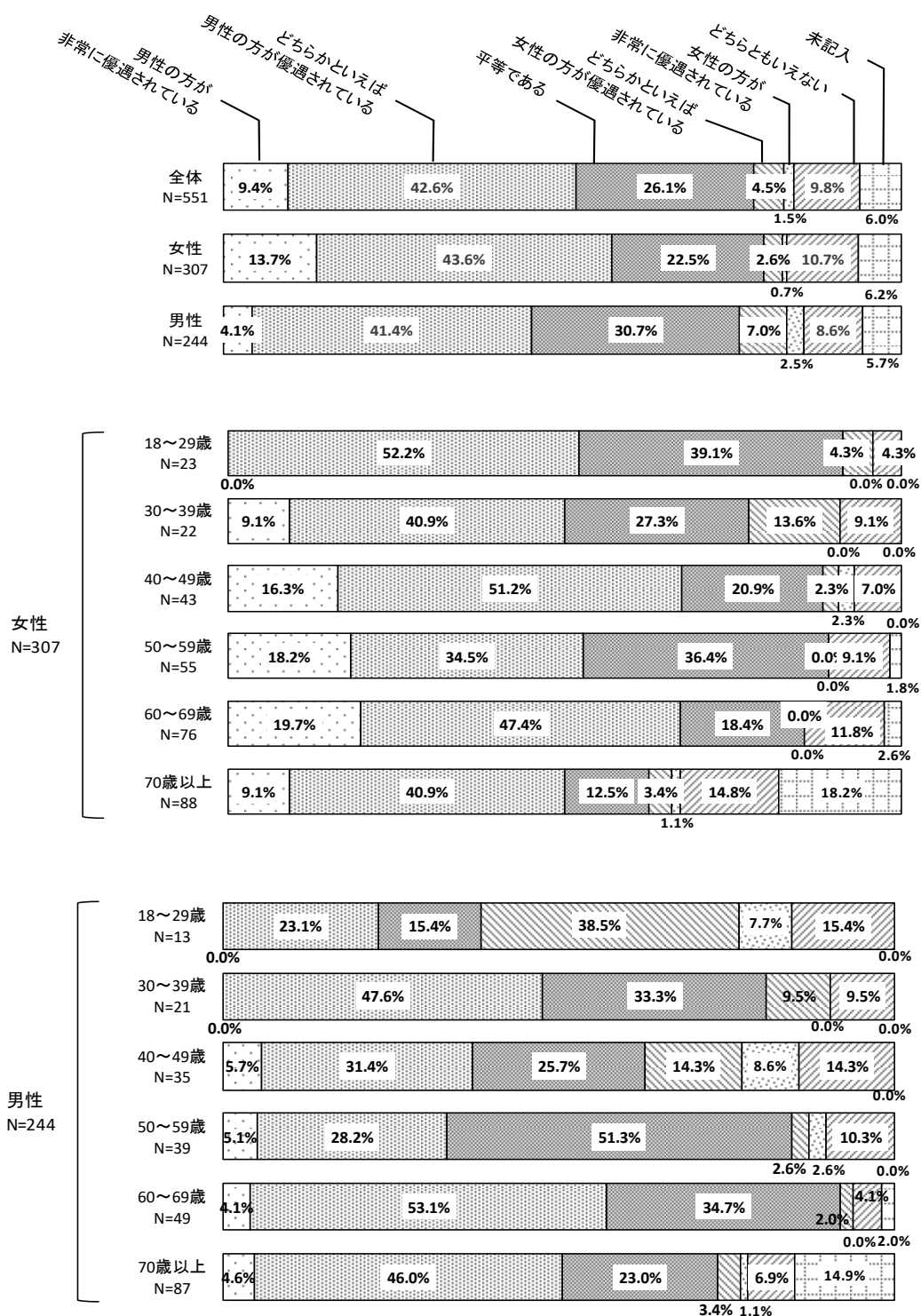
① 家庭生活の場

- 「平等である」と回答した人の割合は、女性が25.7%、男性が43.4%となっており、男性が17.7ポイント高くなっています。
- 特に30歳代から50歳の女性は、同年代の男性と比べて、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が大きくなっています。



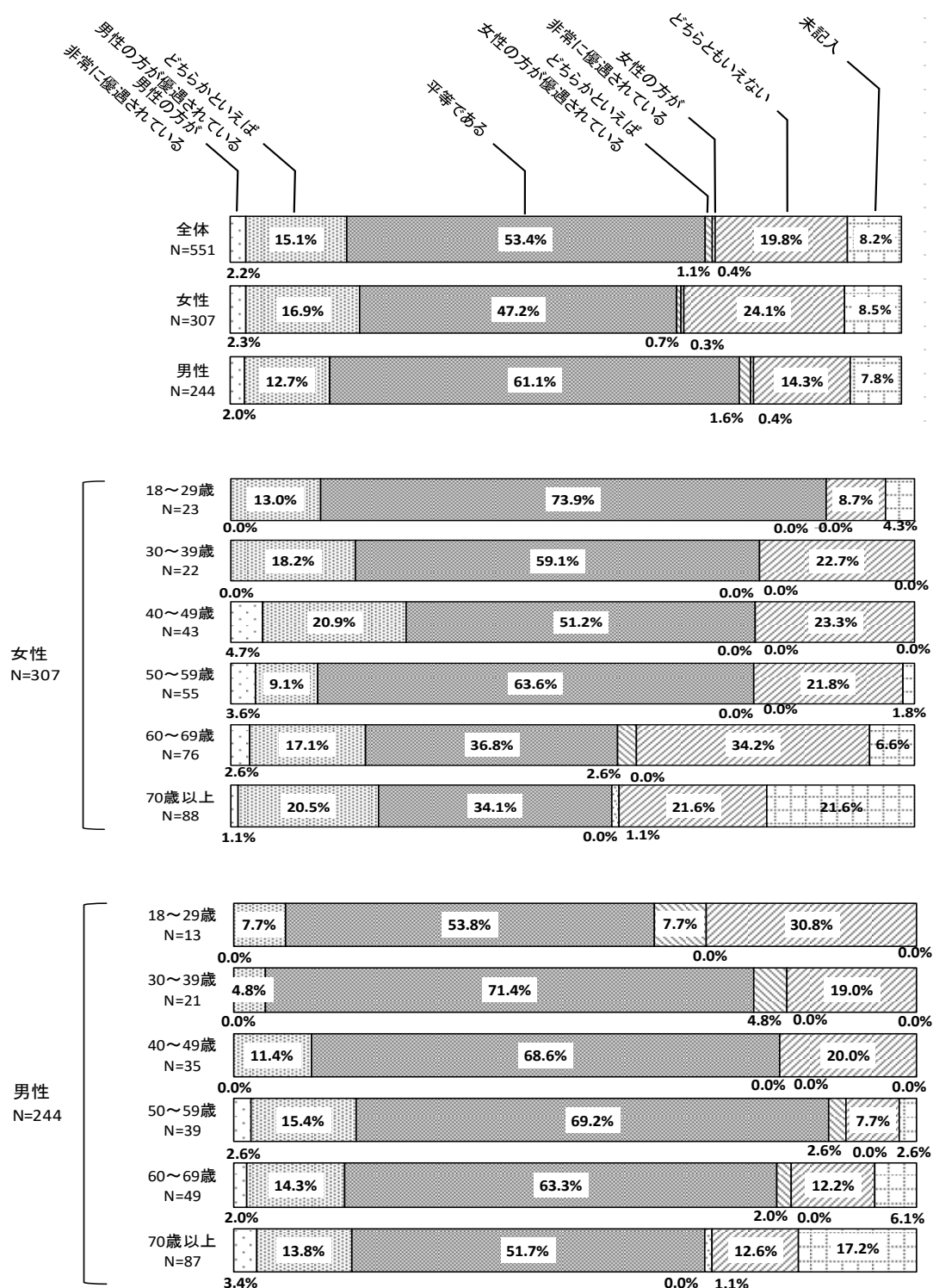
② 職場

- 「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、女性が 57.3%、男性が 45.5%となっており、女性が 11.8 ポイント高くなっています。
- 特に 40 歳代から 50 歳代の女性は、同年代の男性と比べて、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が大きくなっています。



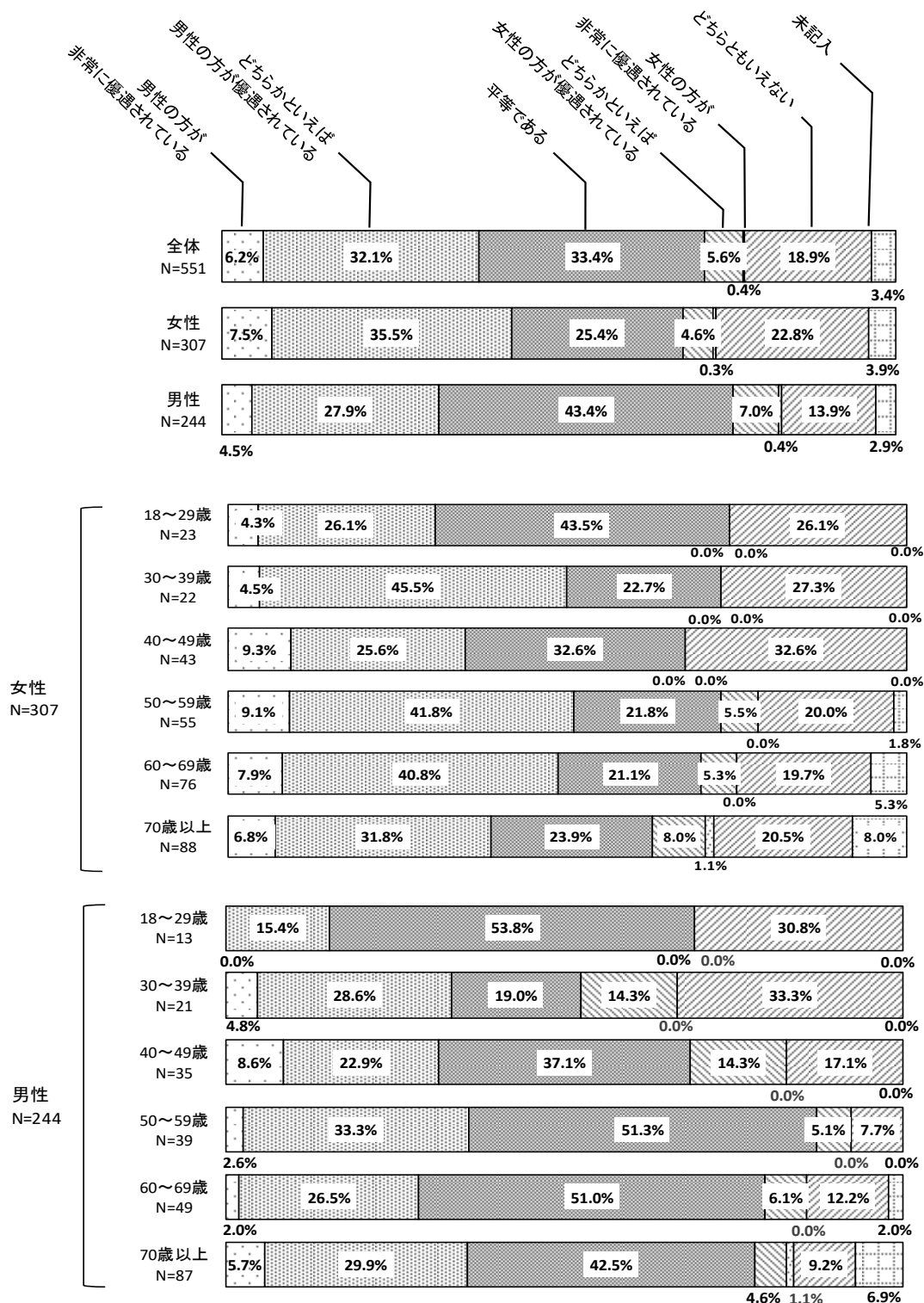
③ 学校教育の場

- 「平等である」と回答した人は、女性が 47.2%、男性が 61.1%となっており、男性が 13.9 ポイント高くなっています。
- 全体的に、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合よりも、「女性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合が大きくなっています。



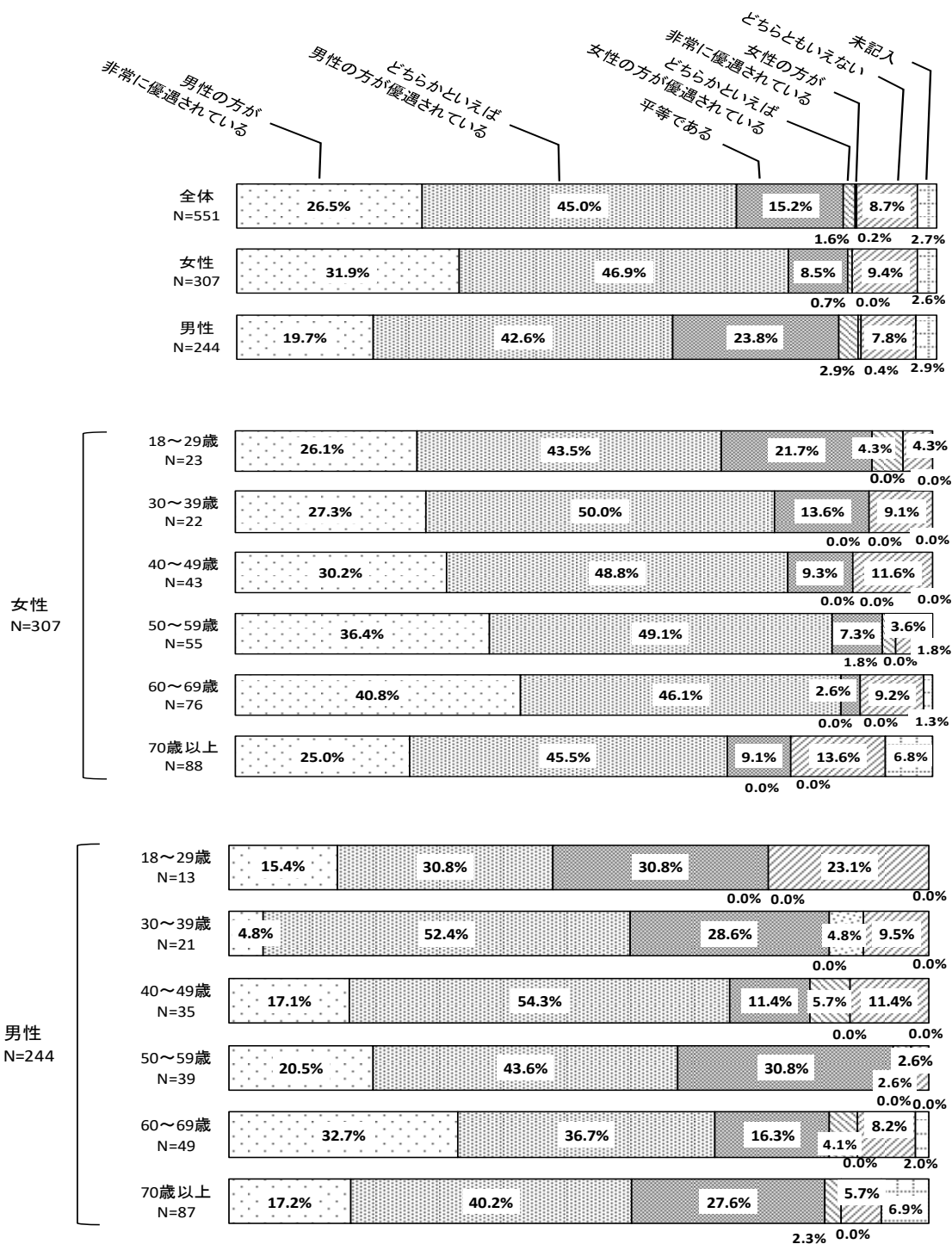
④ 地域生活(町内会、自治会など)

- 「平等である」と回答した人は、女性が25.4%、男性が43.4%となっており、男性が18.0ポイント高くなっています。
- 特に50歳以上の女性は、同年代の男性と比べて、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が大きくなっています。



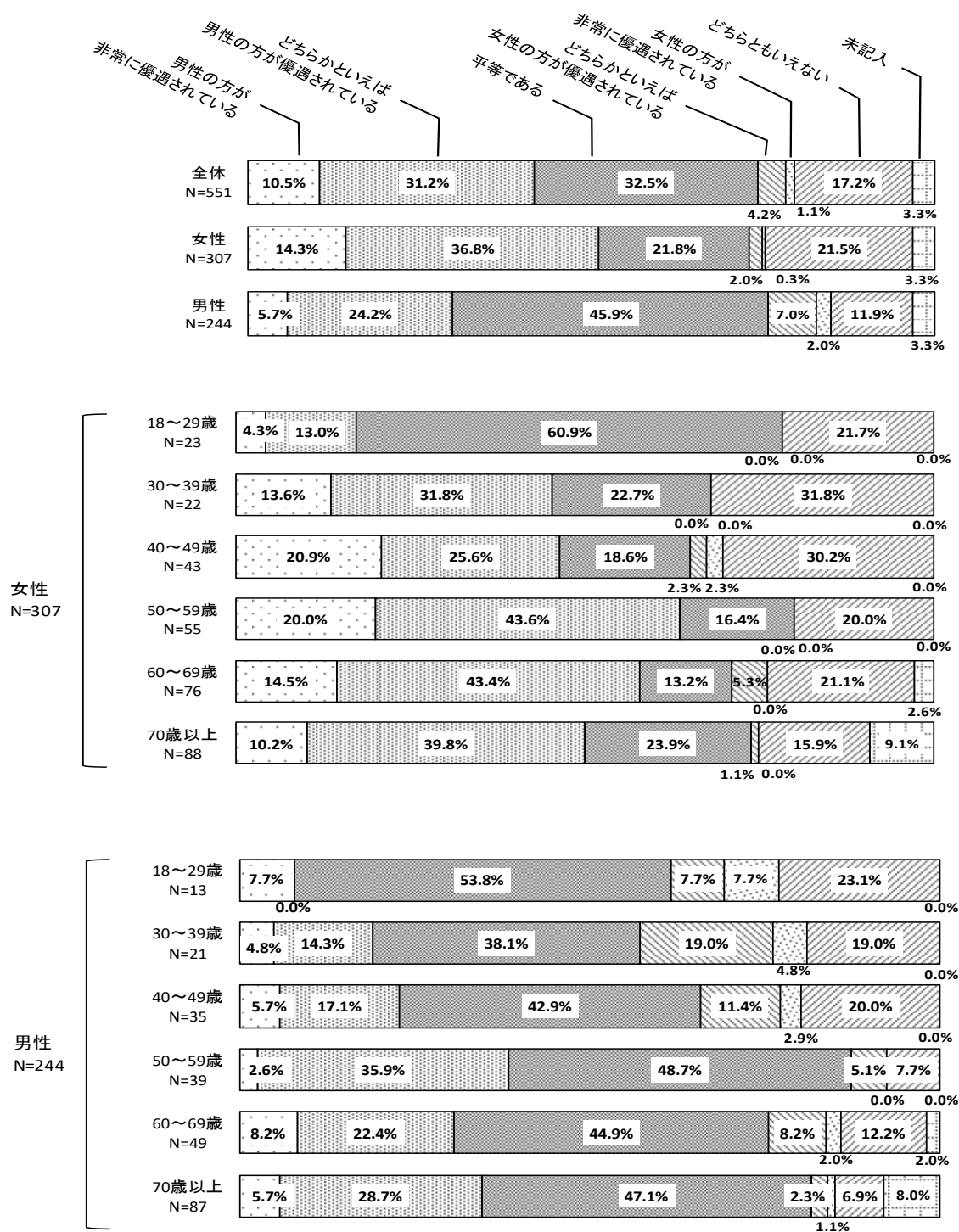
⑤ 政治の場

- 「平等である」と回答した人は、女性が8.5%、男性が23.8%となっており、男性が15.3ポイント高くなっています。
- 全体では「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は71.5%と大きく、女性では78.8%、男性では62.3%となっています。



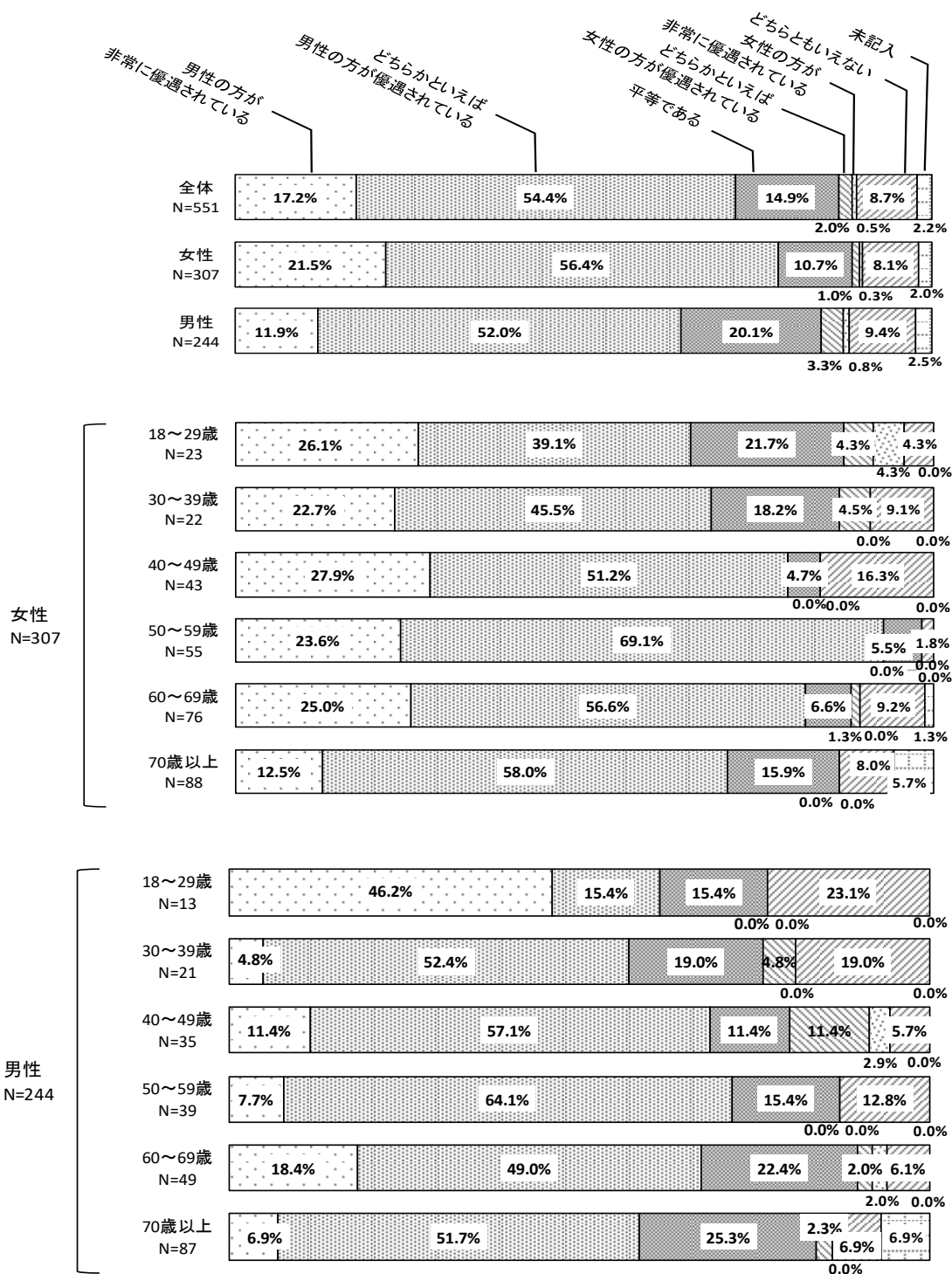
⑥ 法律や制度の上

- 「平等である」と回答した人は、女性が21.8%、男性が45.9%となっており、男性が24.1ポイント高くなっています。
- 女性では、18歳～29歳の年代で「平等である」と回答した人は60.9%と高い割合ですが、30歳以上のどの年代においても20%前後、と低い割合になっています。



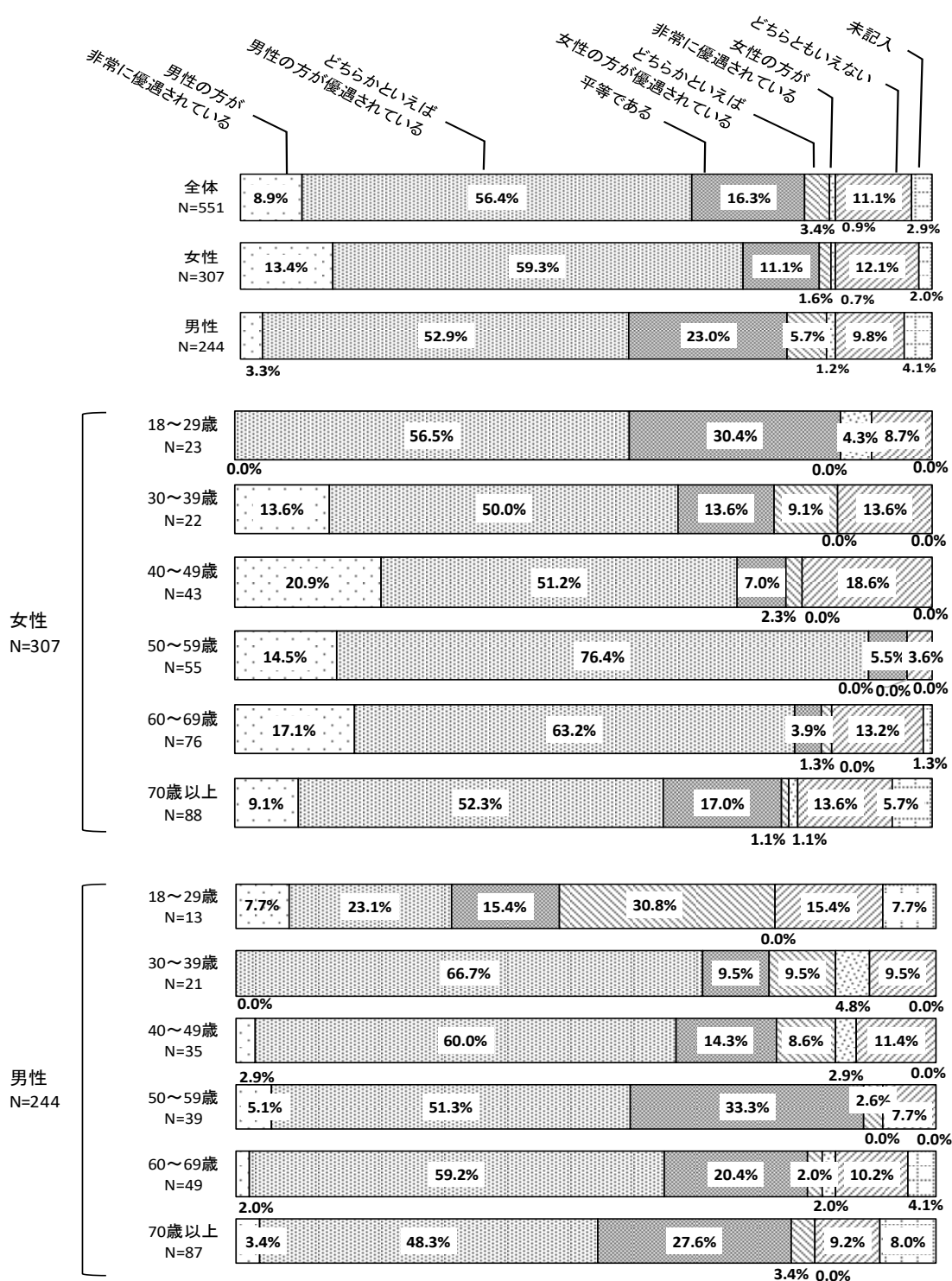
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

- 全体では「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は71.6%と大きくなっています。
- 特に女性の50歳代では、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答している人の割合は、92.7%と高くなっています。



⑧ 社会全体

- 平等である」と回答した人は、女性が 11.1%、男性が 23.0%となっており、女性は 11.9 ポイント低くなっています。
- 全体的に、「男性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した人の割合よりも、「女性の方が非常に優遇されている」および「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した人の割合が大きくなっています。

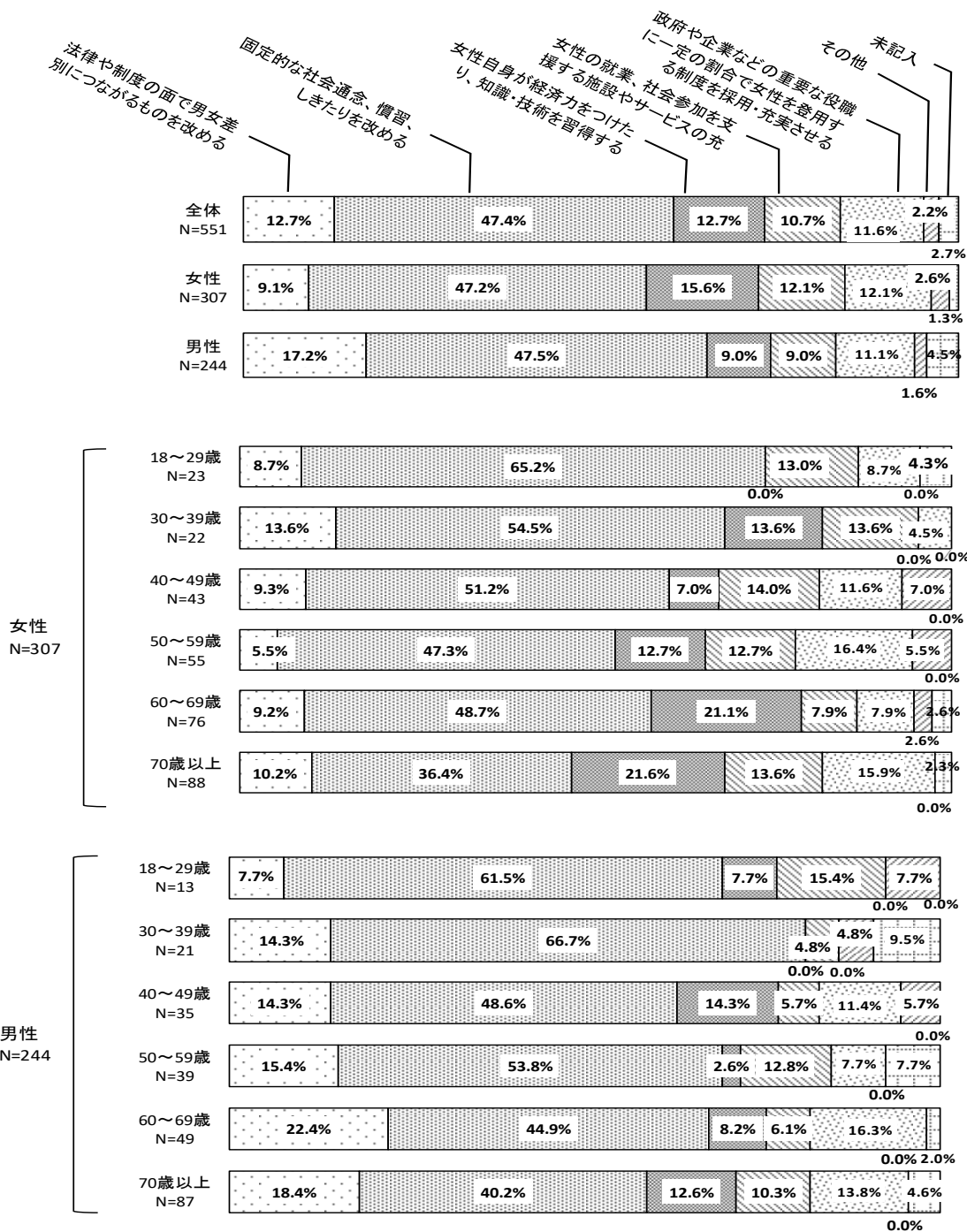


問9 男女平等になるために重要なこと

今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要なことは何でしょうか。

(〇はひとつだけ)

- 「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」との回答が、男女ともに最も多くなっています。
- 2番目に多い回答は、女性では「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得する」(15.6%)で、男性では「法律や制度の面で男女差別につながるものを改める」(17.2%)となっています。



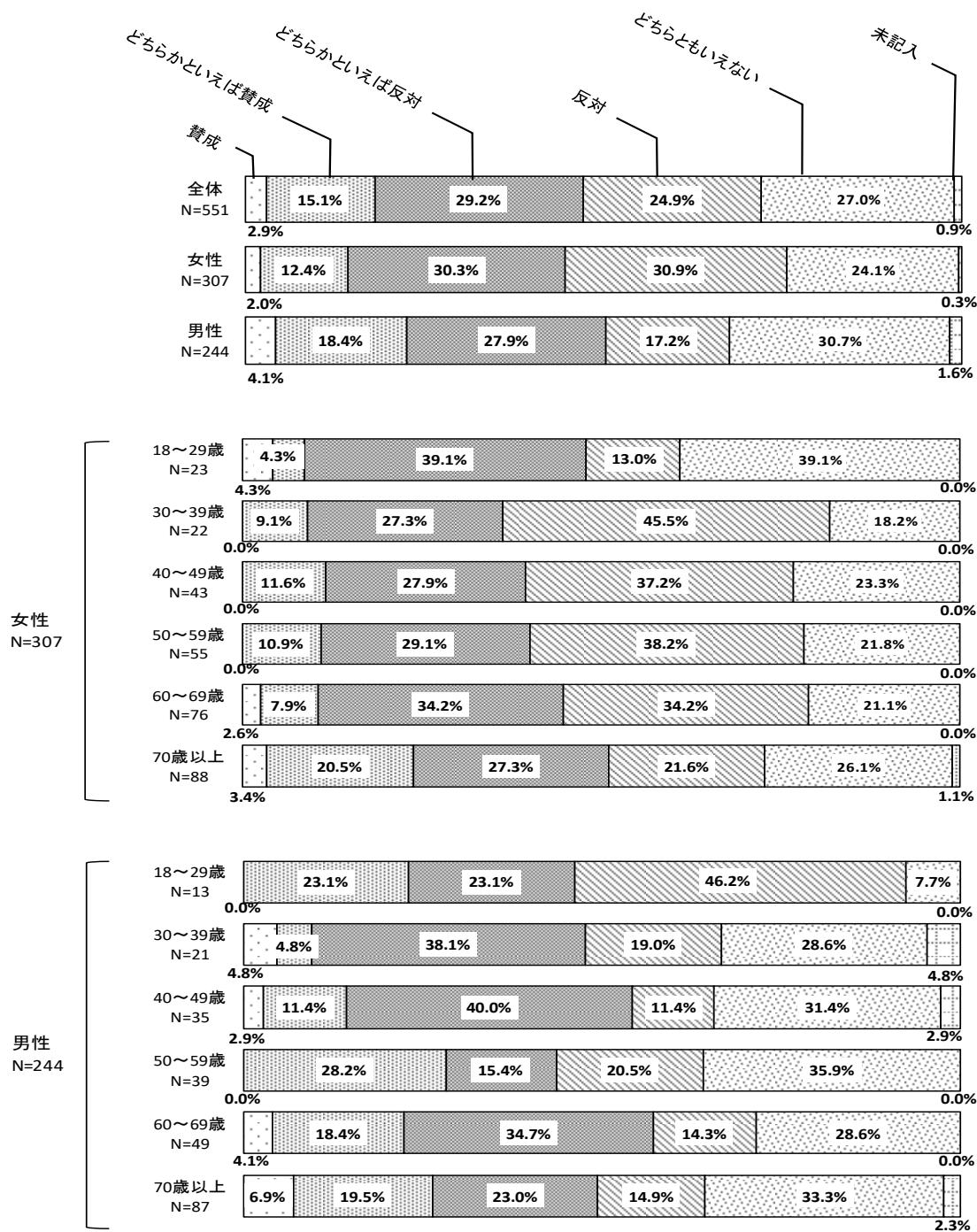
〔その他の意見〕

女性 40～49歳	平等は無理。平等を求めることで、反対に男女間のバランスが崩れている。
女性 40～49歳	学校教育において道徳の時間を使い教育する。
女性 40～49歳	お互いを認め合う事、足りない部分をお互い支えあう。必ずしも平等であればいいということではないと思う。
女性 50～59歳	男女もだけど市職員と民間の仕事場の差をなくしてほしい。
女性 50～59歳	幼児学童期からの教育
女性 50～59歳	職場では今でも肩書きを理由に不公平なことが沢山あります。私は以前、同じ立場の人に集中的にいじめを受け、上司に相談する前に一方的に辞めさせられました。今ではそのことがトラウマになり長時間勤務ができなくなりました。
女性 60～69歳	女性が家庭を守れるようにしてください。
女性 60～69歳	男女を平等にする意味が判らない。
男性 21～29歳	男女平等と謳いながら女性専用車両や優先席の増設をしたり、LGBTIに対する社会全体の認識の甘さや矛盾を根底から再教育しない限りならないと思う。
男性 40～49歳	平等になるとは考えられない。

問10 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守る」というような、性別によって役割を決めつける考え方について、あなたはどのように思いますか。
(○はひとつだけ)

- 全体では、賛成派（「賛成」および「どちらかといえば賛成」の計）は 18.0%、反対派（「反対」および「どちらかといえば反対」の計）は 54.1%となっています。
- 女性の反対派（61.2%）が、男性の反対派（45.1%）を 16.1 ポイント上回っています。
- 年代別にみて、賛成派が 2 割を超えているのは、女性では 70 歳以上のみで、男性では 30 歳代と 40 歳代を除くすべての年代となっています。



◆ 問10で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた理由

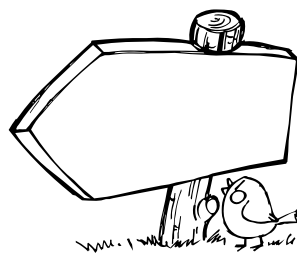
(○はひとつだけ)

	育児や介護のためには、女性が家庭に入る方が良いから	男女の生まれつきの適性であるから	女性が家庭に入ると、心がやすらぐため	男性が家族を養うのが当たり前のことだから	女性は職業上不利な面が多いから	親からそのような教えられたから
全体	43	27	6	4	3	2
女性	22	10	5	1	2	2
男性	21	17	1	3	1	0

◆ 問10で「反対」または「どちらかといえば反対」と答えた理由

(○はひとつだけ)

	性別で男女の役割は決められたものではないから	男性も女性も仕事をするのが当たり前だから	世間一般にそのような風潮があるから	仕事上、活躍している女性が多いから	一般に女性の自由時間が増えたので家庭に関わる時間が減ったため	親からそうでないと教えられたから
全体	141	86	23	22	9	2
女性	87	54	14	17	5	1
男性	54	32	9	5	4	1



2 家庭生活及び結婚・家庭観について

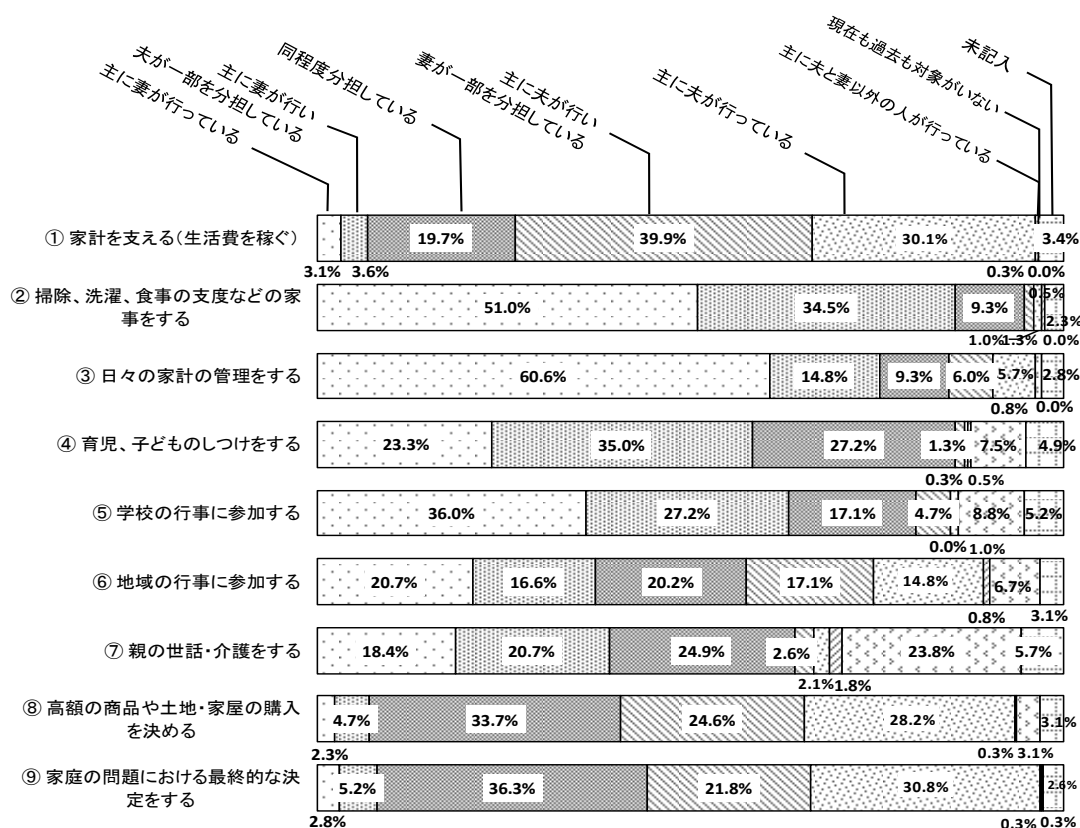
<現在結婚している人(事実婚を含む)のみ回答>

問 11 家庭生活での夫婦の役割分担状況

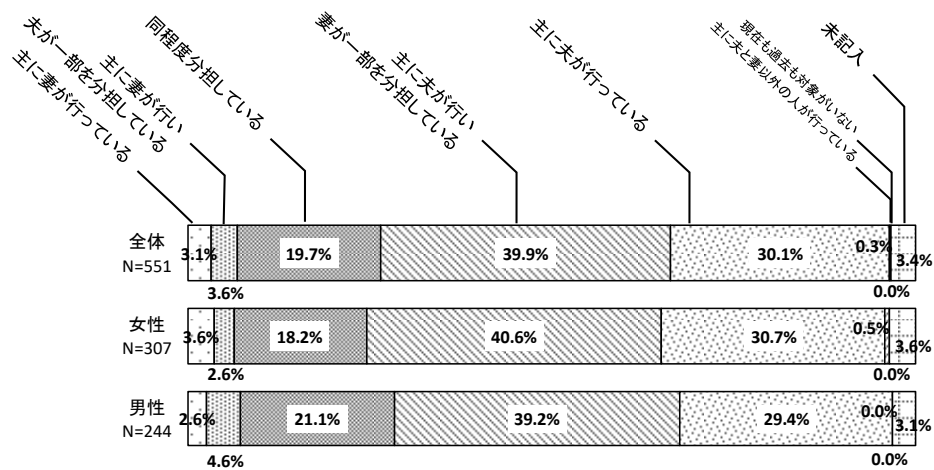
あなたのご家庭では、次の①～⑧にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。

※育児や子どもの教育、親の介護等については、現在該当しなくても過去にご経験があれば、それをもとにお答えください。
(○はひとつだけ)

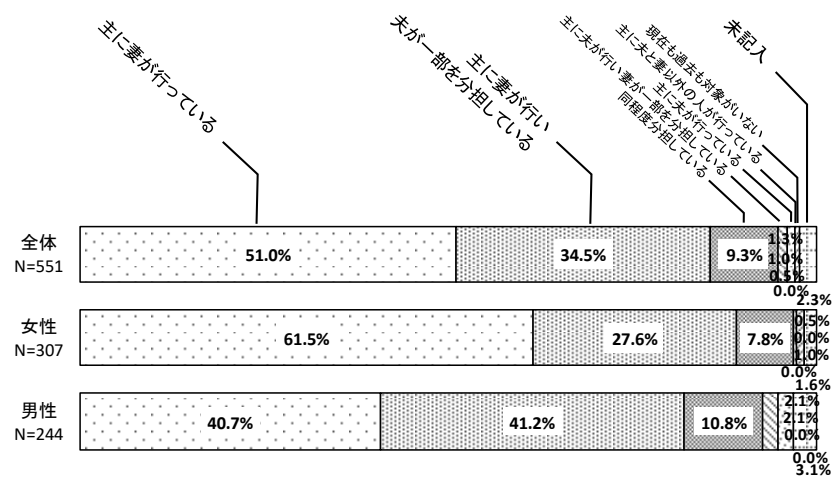
- 主に妻の負担が多いという回答は、「掃除、洗濯、食事などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「学校の行事に参加する」となっています。
- 主に夫の負担が多いという回答は、「家計を支える」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「家庭の問題における最終的な決定をする」となっています。



- 「同程度分担している」と回答した人は、19.7%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担している」および「主に夫が行っている」と回答した人は、70.0%となっています。

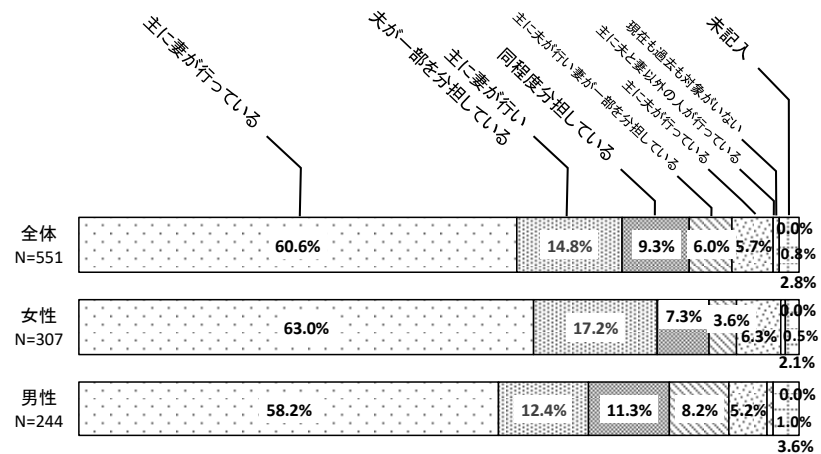


- 「同程度分担している」と回答した人は、9.3%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担している」および「主に妻が行っている」と回答した人は、85.5%となっています。



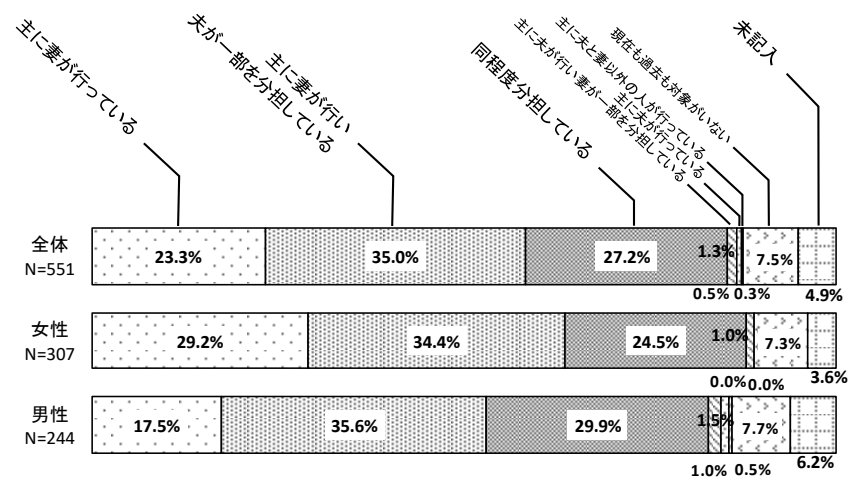
③ 日々の家計の管理をする / 家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、9.3%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担している」および「主に妻が行っている」と回答した人は、75.4%となっています。



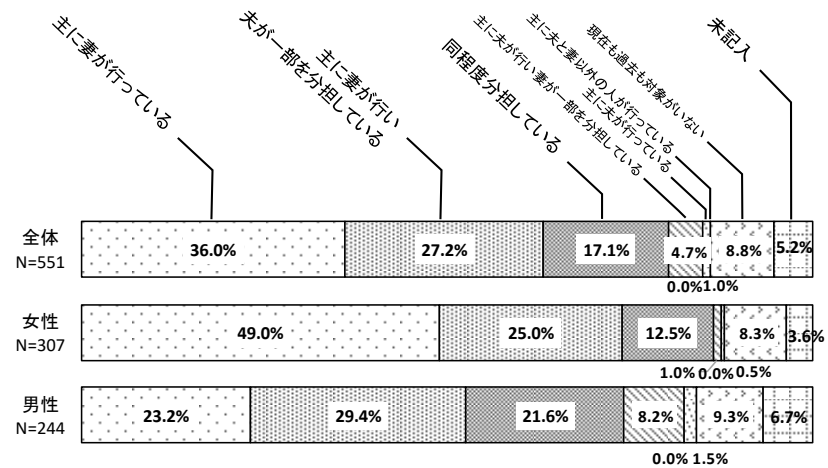
④ 育児、子どものしつけをする / 家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、27.2%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担している」および「主に妻が行っている」と回答した人は、58.3%となっています。



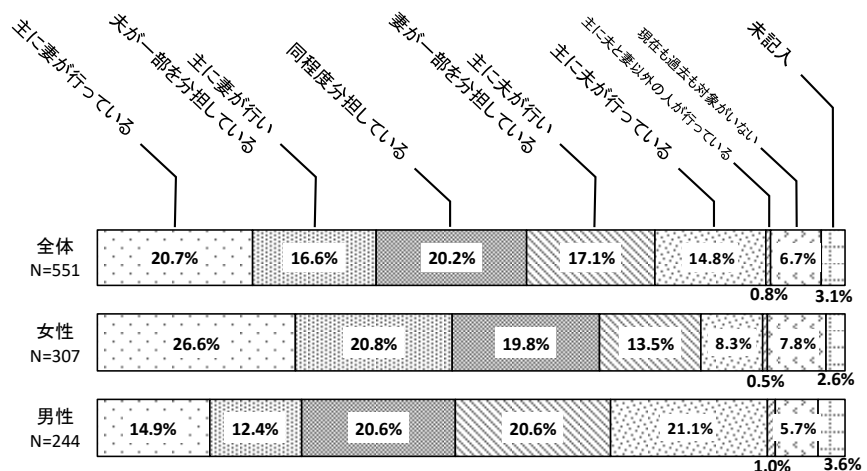
⑤ 学校の行事に参加する ／家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、17.1%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担している」および「主に妻が行っている」と回答した人は、63.2%となっています。



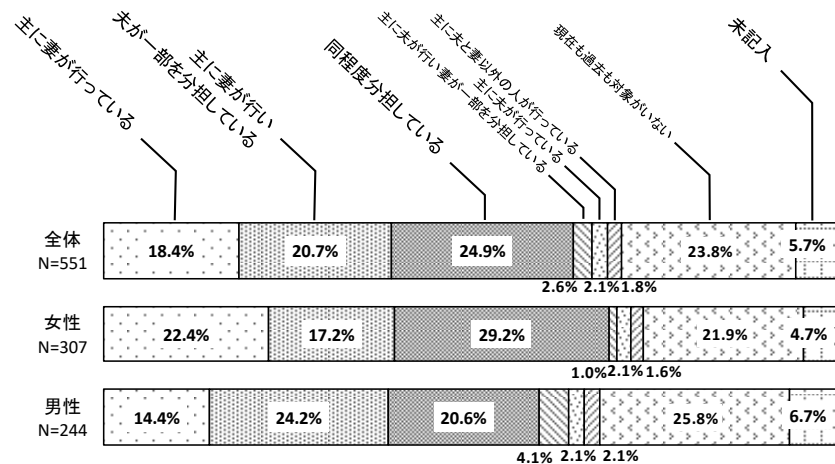
⑥ 地域の行事に参加する ／家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、20.2%となっています。
- 女性では「主に妻が行い、夫が一部を分担している」および「主に妻が行っている」と回答した人は 47.4%、男性では「主に夫が行い、妻が一部を分担している」および「主に夫が行っている」と回答した人 41.7%となっています。



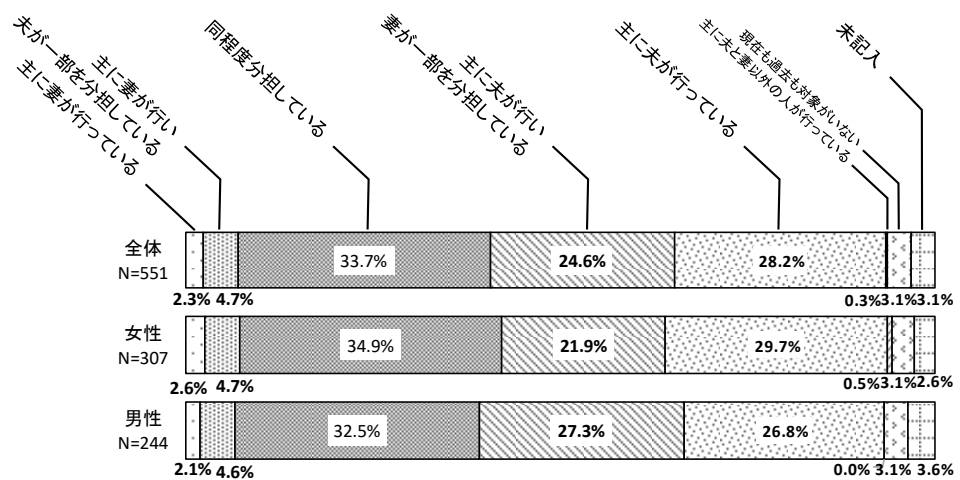
⑦ 親の世話・介護をする ／家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、24.9%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担している」および「主に妻が行っている」と回答した人は、39.1%となっています。



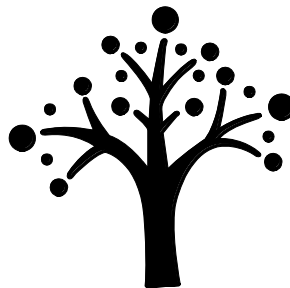
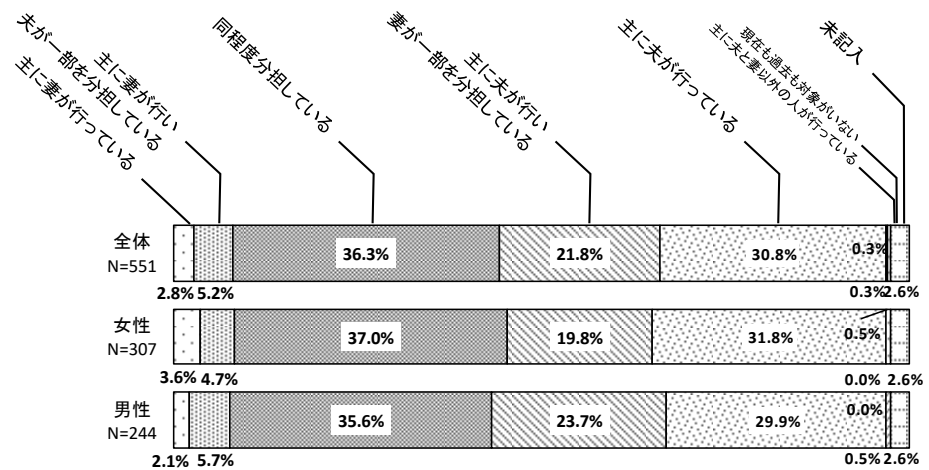
⑧ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める ／家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、33.7%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担している」および「主に夫が行っている」と回答した人は、52.8%となっています。



⑨ 家庭の問題における最終的な決定をする / 家庭生活での夫婦の役割分担(現状)

- 「同程度分担している」と回答した人は、36.3%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担している」および「主に夫が行っている」と回答した人は、52.6%となっています。



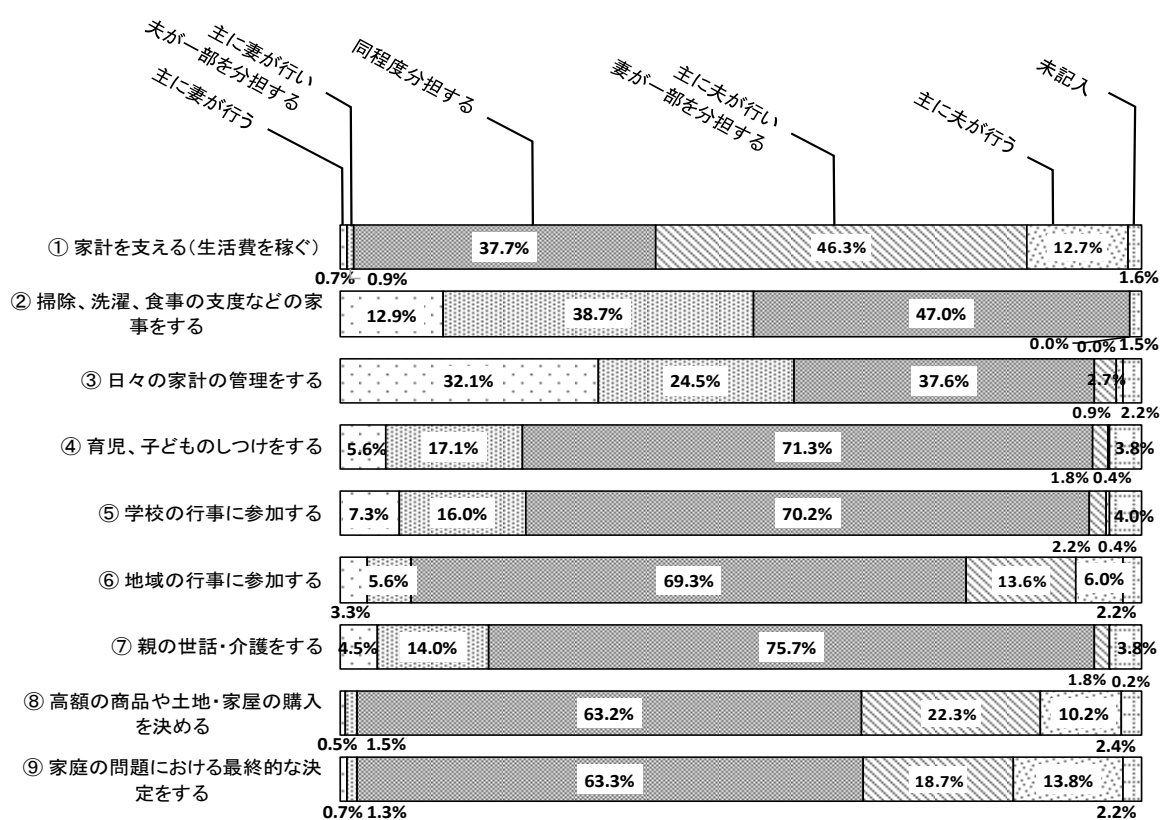
<すべての人が回答>

問12 理想とする家庭生活での夫婦の役割分担

あなたの理想としては、どのように分担するのがよいとお考えですか。

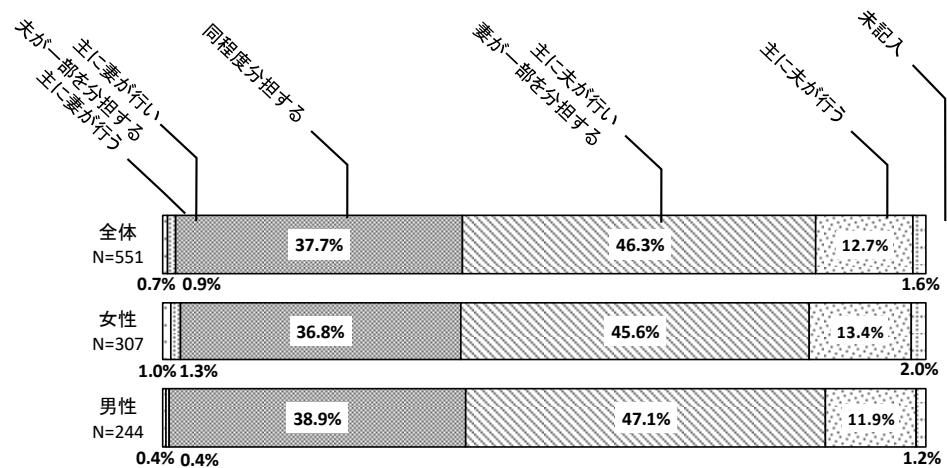
(〇はそれぞれひとつずつ)

- 同程度分担するという回答は、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「地域の行事に参加する」、「親の世話・介護をする」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「家庭の問題における最終的な決定をする」で6割から7割以上を占めています。
- 主に夫の分担という回答は、「家計を支える」で多くなっています。
- 主に妻が分担という回答は、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」で多くなっています。



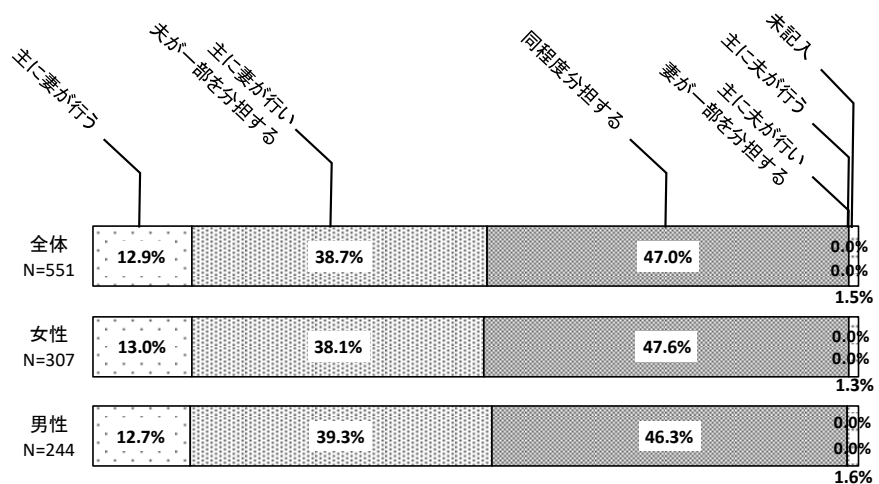
① 家計を支える(生活費を稼ぐ) / 家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、37.7%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担する」および「主に夫が行う」と回答した人は、59.0%となっています。



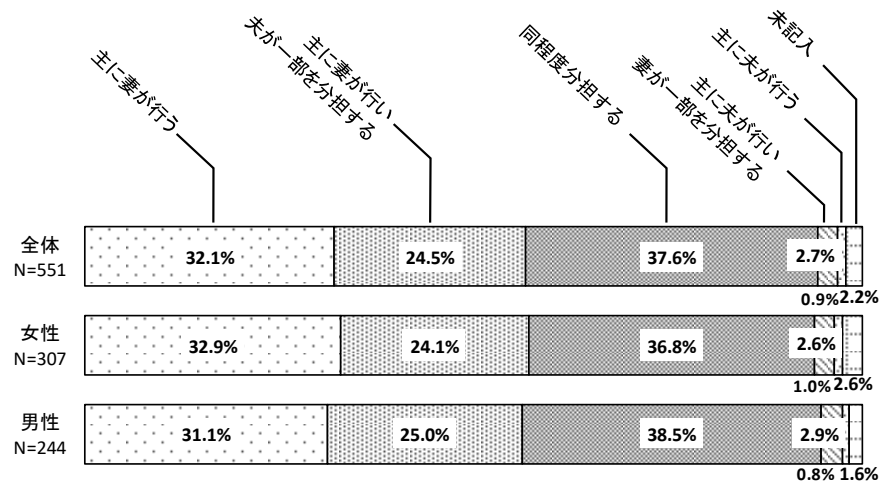
② 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする / 家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、47.0%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担する」および「主に妻が行う」と回答した人は、51.6%となっています。



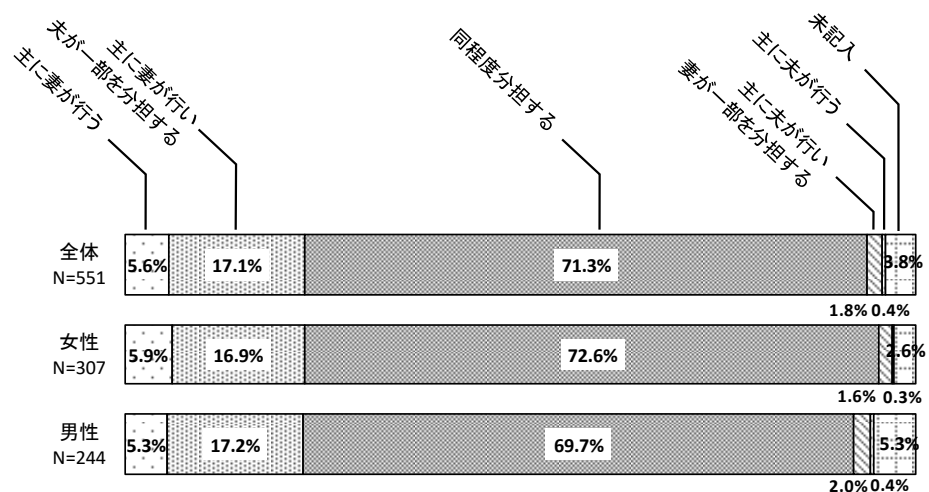
③ 日々の家計の管理をする / 家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、37.6%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担する」および「主に妻が行う」と回答した人は、56.6%となっています。



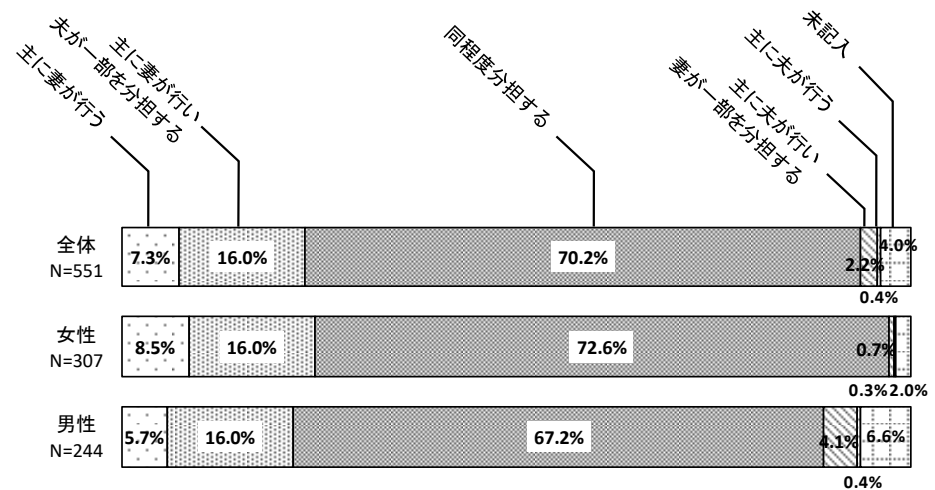
④ 育児、子どものしつけをする / 家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、71.3%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担する」および「主に妻が行う」と回答した人は、22.7%となっています。



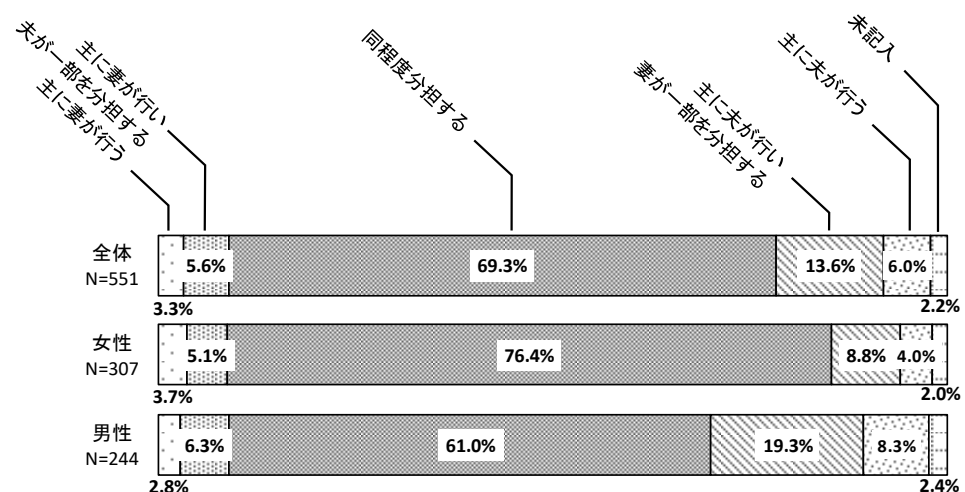
⑤ 学校の行事に参加する ／家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、70.2%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担する」および「主に妻が行う」と回答した人は、23.3%となっています。



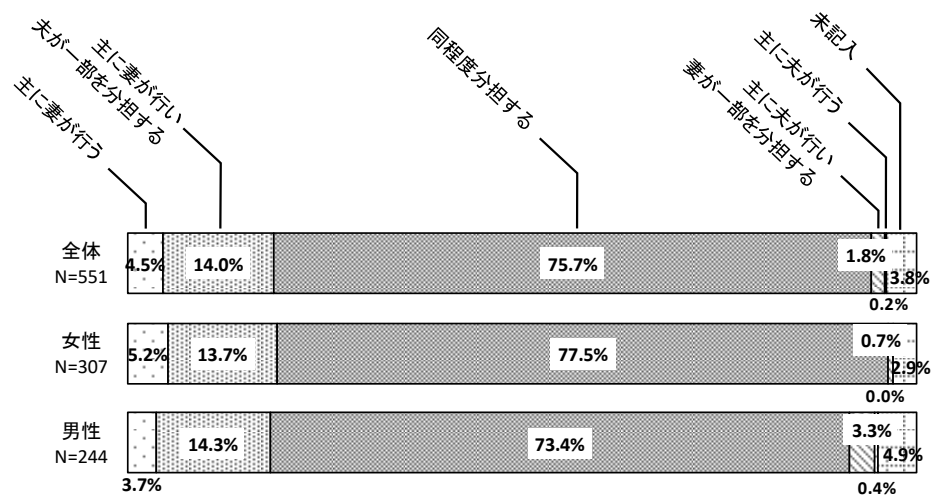
⑥ 地域の行事に参加する ／家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、69.3%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担する」および「主に夫が行う」と回答した人は、19.6%となっています。



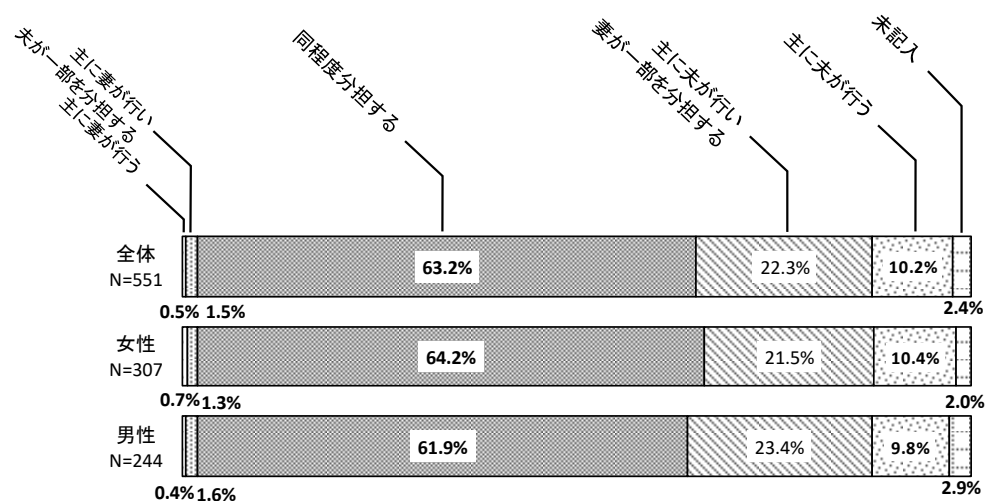
⑦ 親の世話・介護をする ／家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、75.7%となっています。
- 「主に妻が行い、夫が一部を分担する」および「主に妻が行う」と回答した人は、18.5%となっています。



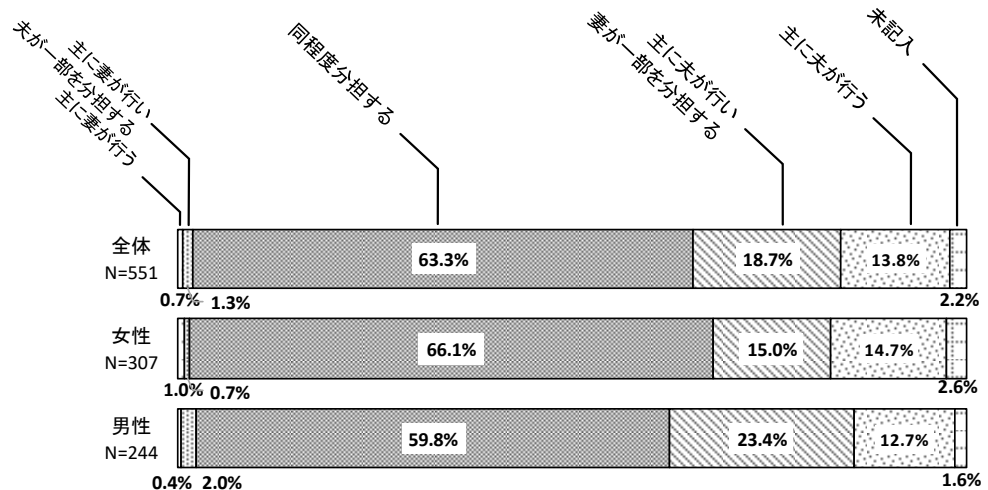
⑧ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める ／家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、63.2%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担している」および「主に夫が行う」と回答した人は、32.5%となっています。



⑨ 家庭の問題における最終的な決定をする / 家庭生活での夫婦の役割分担(理想)

- 「同程度分担する」と回答した人は、63.3%となっています。
- 「主に夫が行い、妻が一部を分担する」および「主に夫が行う」と回答した人は 32.5%となっています。



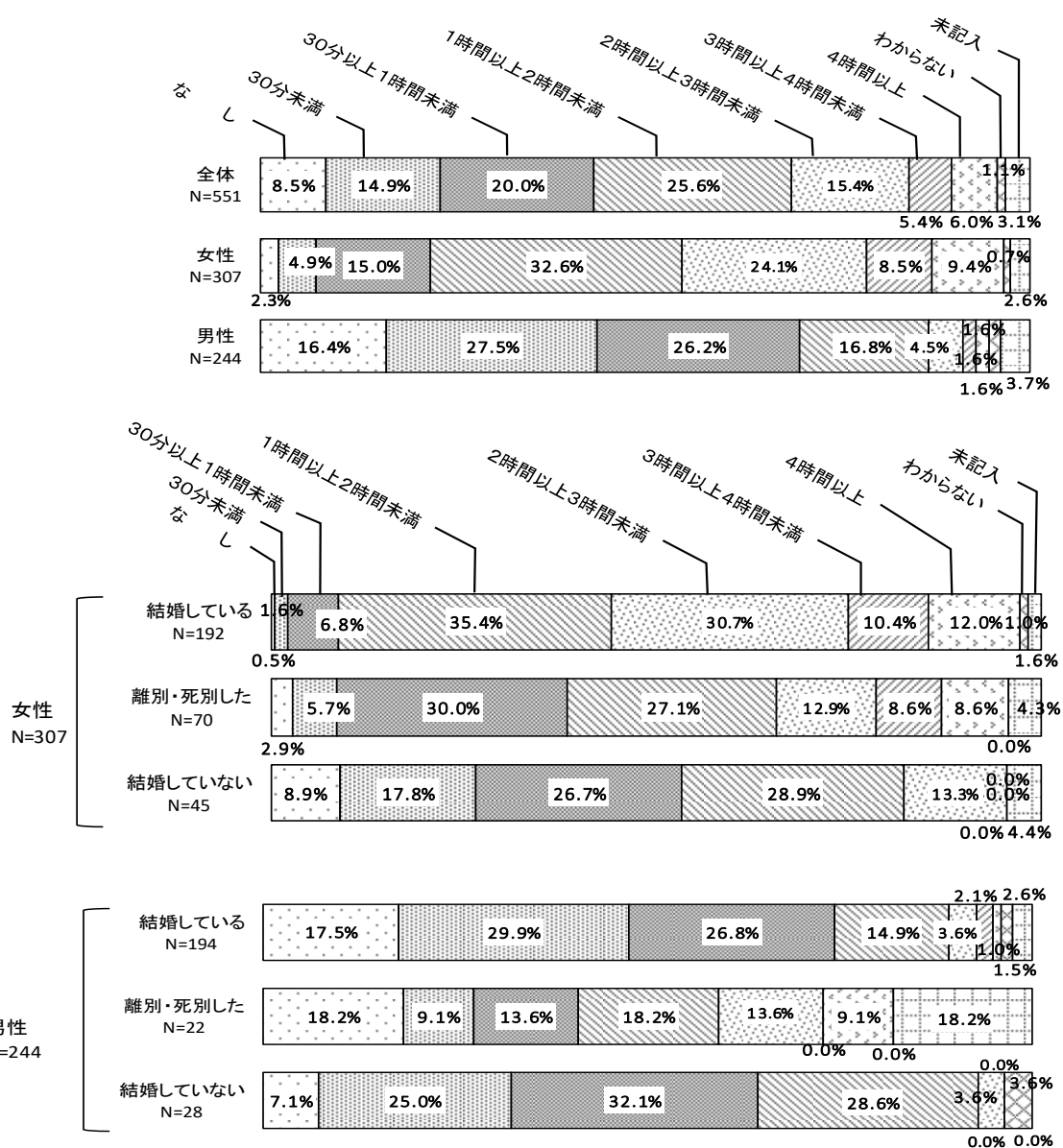
◆ 参考 ◆ 家庭生活での夫婦の役割分担の理想と現状

① 家計を支える(生活費を稼ぐ)	男女の理想・現状ともに、「主に夫」と回答する割合が6割から7割と高くなっています。
② 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする	理想では、男女ともに「同程度分担」との回答が4割から5割近くを占めています。
③ 日々の家計の管理をする	現状では、「主に妻」が7割～8割以上と高い割合となっています。
④ 育児、子どものしつけをする	理想では、男女ともに「同程度分担」との回答が7割前後と高くなっています。
⑤ 学校の行事に参加する	現状では、「主に妻」が6割近くの高い割合となっています。
⑥ 地域の行事に参加する	理想では、男女ともに「同程度分担」との回答が7割前後と高くなっています。 現状では、「同程度分担」が2割、「主に妻」と「主に夫」が各3割強となっています。
⑦ 親の世話・介護をする	理想では、男女ともに「同程度分担」との回答が7割以上と高くなっています。 現状では、「同程度分担」は2割強で、「主に妻」が4割なのに対し、「主に夫」は1割弱とごくわずかです。
⑧ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める	理想では、男女ともに「同程度分担」との回答が6割以上と高くなっています。
⑨ 家庭の問題における最終的な決定をする	現状では、「同程度分担」は3割強で、「主に夫」が5割強なのに対し、「主に妻」は1割弱とごくわずかです。

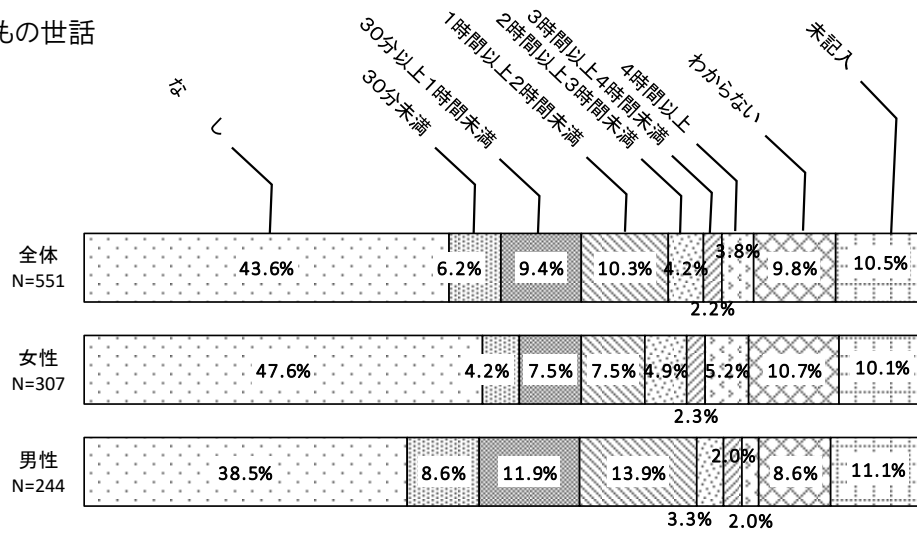
問13 あなたは、普段(休日や特別な日を除いて)次にあげる事柄について、通常どのくらいの時間をかけていますか。
(○はそれぞれひとつずつ)

① 炊事、洗濯、掃除等

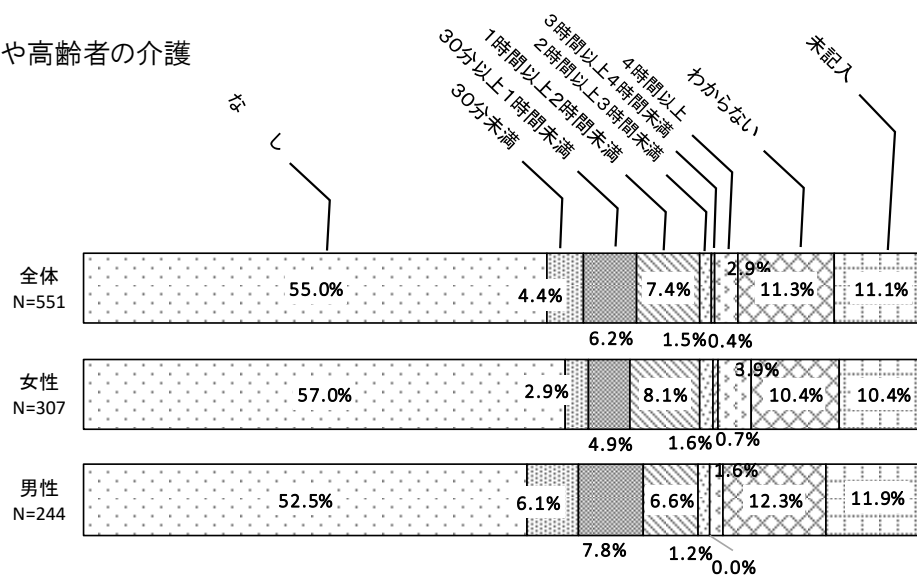
- 「結婚している」女性では、「1 時間以上 2 時間未満」との回答が 35.4%と最も多く、次いで「2 時間以上 3 時間未満」が 30.7%となっています。
- 「結婚している」男性では、「30 分未満」との回答が 29.9%と最も多く、次いで「30 分以上 1 時間未満」が 26.8%となっています。



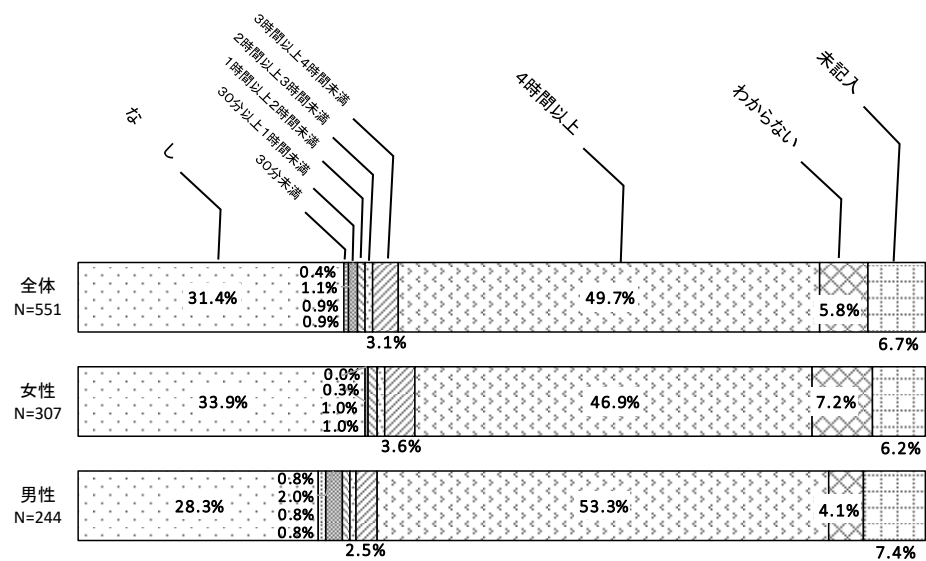
② 子どもの世話



③ 病人や高齢者の介護

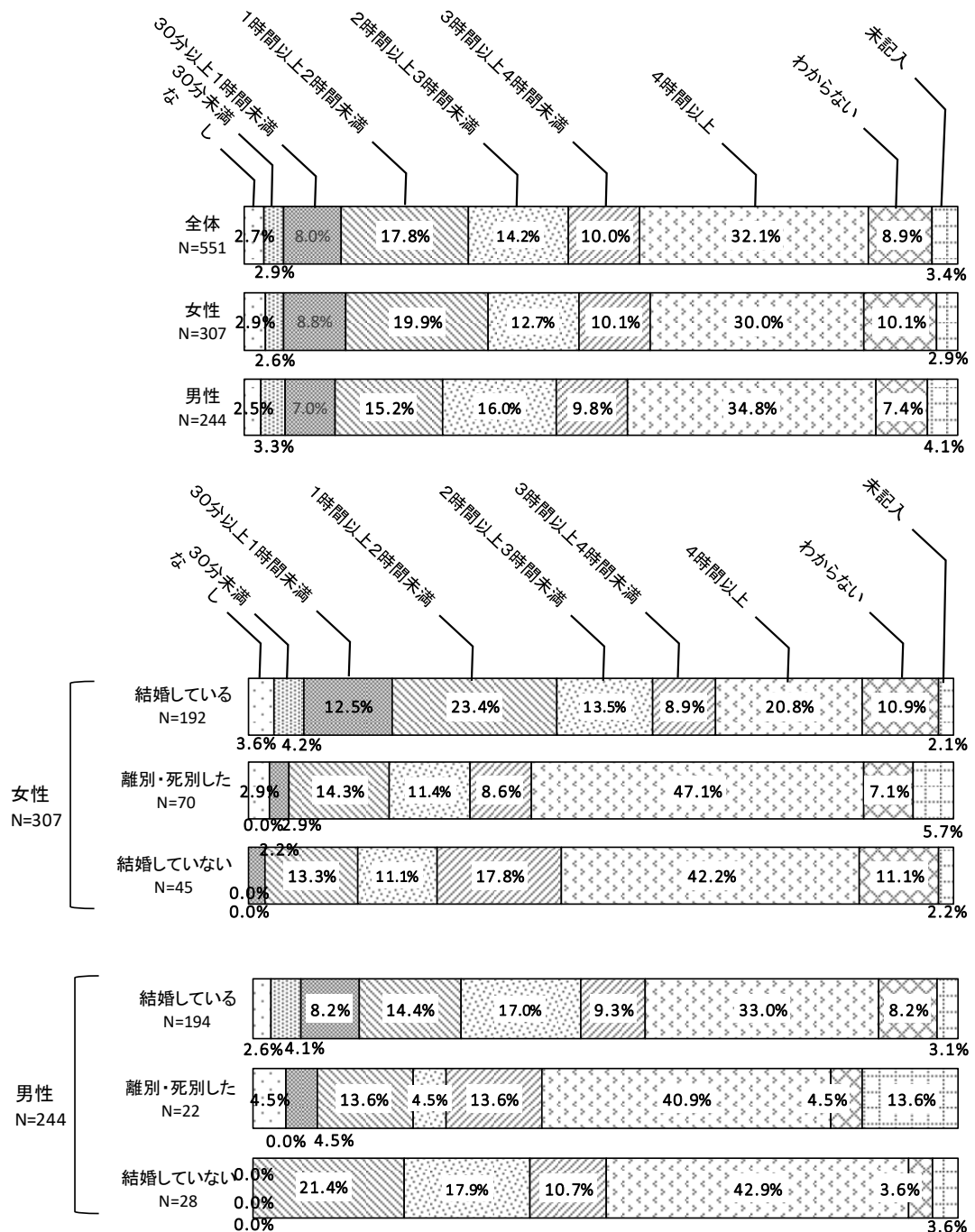


④ 仕事



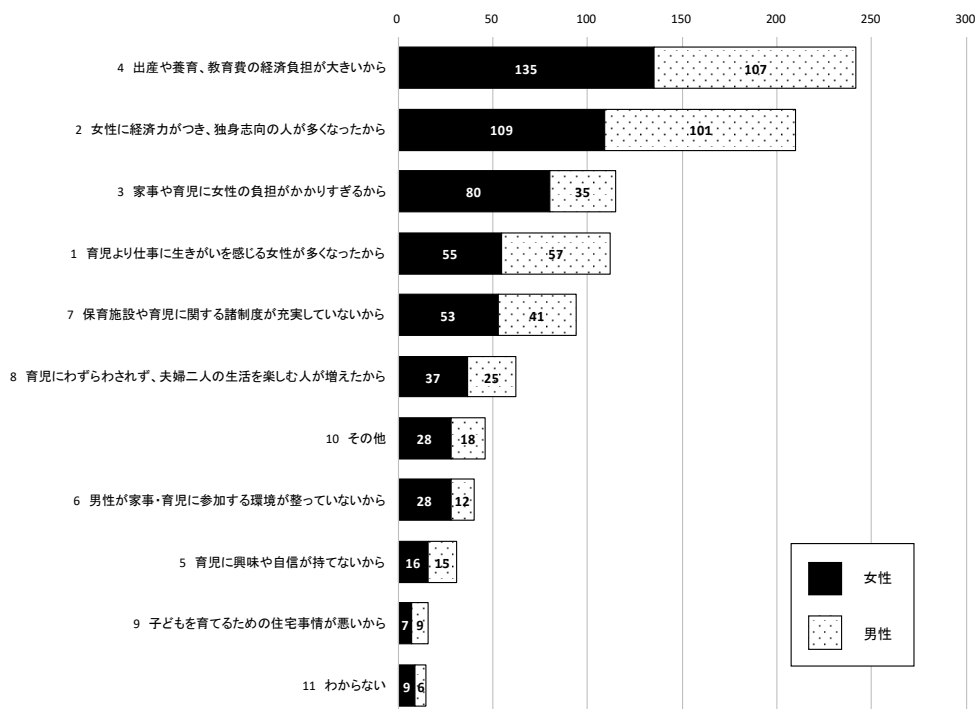
⑤ 自由時間

- 全体でみると、男女の差はあまり見られません。
- 「結婚している」男女で比較すると、「4時間以上」と回答した女性は20.8%、男性は33.0%と差が見られます。



問14 出生率の低下が言われていますが、それはなぜだと思いますか。（〇は2つまで）

- 出生率の低下の原因として、男女とも「出産や養育、教育費の経済負担が大きいから」との回答が最も多く、次いで「女性に経済力がつき独身傾向の人が多くなったから」が多くなっています。
- 「家事や育児に女性の負担がかかりすぎるから」の回答数は、女性が「80」、男性は「35」と、女性と男性の意識の差がうかがえます。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
4 出産や養育、教育費の経済負担が大きいから	242	135	107	11	11	19	28	39	27	7	11	18	21	17	33
2 女性に経済力がつき、独身志向の人が多くなったから	210	109	101	5	7	14	19	21	43	3	5	14	15	24	40
3 家事や育児に女性の負担がかかりすぎるから	115	80	35	7	7	12	15	21	18	2	3	4	8	6	12
1 育児より仕事に生きがいを感じる女性が多くなったから	112	55	57	3	5	7	10	8	22	2	5	6	9	10	25
7 保育施設や育児に関する諸制度が充実していないから	94	53	41	8	3	3	11	16	12	2	3	5	3	11	17
8 育児にわずらわされず、夫婦二人の生活を楽しむ人が増えたから	62	37	25	3	1	2	6	6	19	2	3	4	6	5	5
10 その他	46	28	18	2	4	6	4	6	6	0	2	4	4	4	4
6 男性が家事・育児に参加する環境が整っていないから	40	28	12	0	3	3	3	12	7	2	1	3	1	0	5
5 育児に興味や自信が持てないから	31	16	15	1	1	2	6	3	3	3	1	0	4	2	5
9 子どもを育てるための住宅事情が悪いから	16	7	9	1	1	1	0	2	2	1	1	1	4	1	1
11 わからない	15	9	6	1	0	2	1	4	1	0	1	2	0	1	2

【その他の意見】

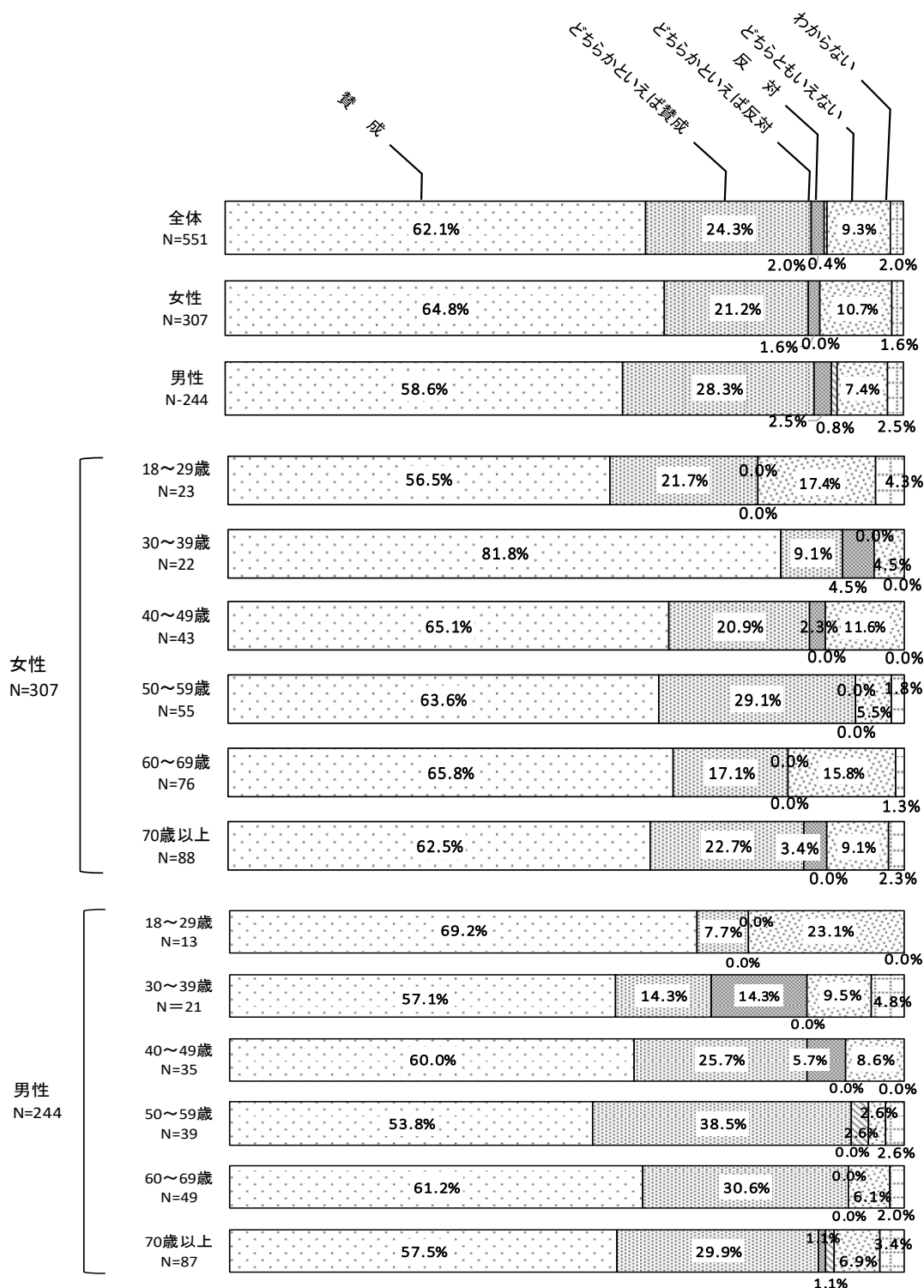
女性 21～29歳	2子目出産前後の1子目の保育園の利用が厳しい。
女性 21～29歳	非婚
女性 30～39歳	晩婚化により第1子の出産年齢も遅いため
女性 30～39歳	稼ぐ男が減った
女性 30～39歳	不妊治療費が高額
女性 30～39歳	女性も男性も忙しく出会う場がない。不妊の方も増えている？環境因子もある？
女性 40～49歳	出会いがないから結婚にすらいかない。
女性 40～49歳	結婚して子供を持つことに魅力を感じない。
女性 40～49歳	恵まれなかった
女性 40～49歳	子孫を残したい気持ちが薄くなった
女性 40～49歳	共働きが増えた
女性 50～59歳	不妊
女性 50～59歳	結婚、出産の高齢化
女性 50～59歳	結婚を考えないから
女性 50～59歳	男女共に結婚しない人が増えたから。
女性 60～69歳	交流の場が少ない、知り合う機会がない
女性 60～69歳	若い人が低賃金だったり派遣社員だったり長時間労働だったり結婚や出産に不安があるため
女性 60～69歳	給料が安くて結婚は無理だと、若い人が言うのを聞いたことがある。子どもが欲しいのになかなか妊娠できない人も多いようです。
女性 60～69歳	晩婚化
女性 60～69歳	欲しくてもできない
女性 60～69歳	協力する親がいらない
女性 60～69歳	結婚願望が低い
女性 70～79歳	40才以上の高齢の結婚が増加した。
女性 70～79歳	子どもができない
女性 70～79歳	親がいつまでも子供を自立させない 子供が成人したら、同居でなく、ほうり出すべき いつまでも親に頼りすぎ。
女性 70～79歳	結婚に対して相手を選びすぎる、男に経済力がない
女性 70～79歳	何時、職を失うか不明な社会状況
女性 80歳～	男性の方の仕事が安定していないから
男性 30～39歳	子どもを産むことに、金銭的な負担に対して幸福感が優ることが解っていないから
男性 30～39歳	考えが変わり一人で楽しむ人が増えた
男性 30～39歳	今の若い方は口は出すけど手は出さない。まず頭で考えるから苦労するようなことには飛び込まない。賢くなったとは思うけど、言葉に重みはないと思う。
男性 40～49歳	金が足りない為、共働きになると女性に負担がかかる為
男性 40～49歳	異性に興味がなくなってきている
男性 40～49歳	結婚しないから
男性 50～59歳	将来が不透明(年金、環境、政治の腐敗、戦争)
男性 50～59歳	昔のようにほったらかして子ども育てると批判されるから
男性 50～59歳	食に困らない
男性 50～59歳	晩婚化しているから(女性)。欲しくても出来なくなる人もいる。
男性 60～69歳	核家族化が進みすぎたから
男性 60～69歳	自分たちの楽しみは優先し、苦労やめんどくさいことはしない精神が、国全体特に若者の間に蔓延している
男性 60～69歳	非正規労働のため
男性 70～79歳	政治社会の悪から男子の独立志向が希薄になった。
男性 70～79歳	自立に不安がある
男性 80歳～	大学の学費が高すぎる。このような状態では、子どもは一人しか育てられない。ヨーロッパの大学学費はゼロの国が多い。
男性 80歳～	結婚しない傾向大

問15 子どものしつけや教育について

あなたは次の①～④にあげるような子どものしつけや教育について、どのようにお考えですか。
(○はそれぞれひとつずつ)

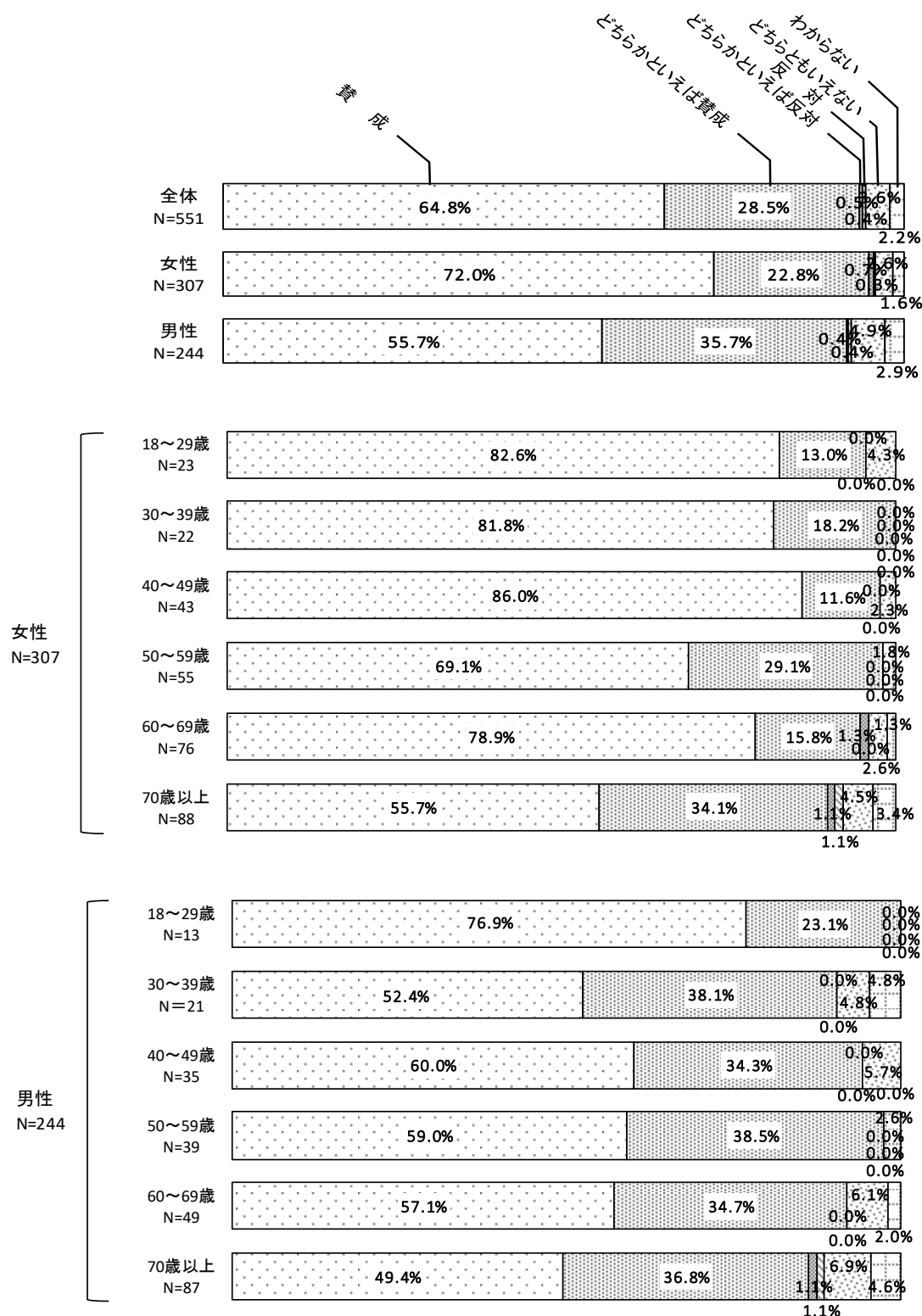
① 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

- 全体では、「賛成」および「どちらかといえば賛成」と回答した人の割合は、女性が86.0%、男性が86.9%と、男女ともに高い割合になっています。
- 年代別でみると、30歳代の「賛成」および「どちらかといえば賛成」と回答した人の割合は、女性が90.9%、男性が71.4%と、19.5ポイント男性が低くなっています。



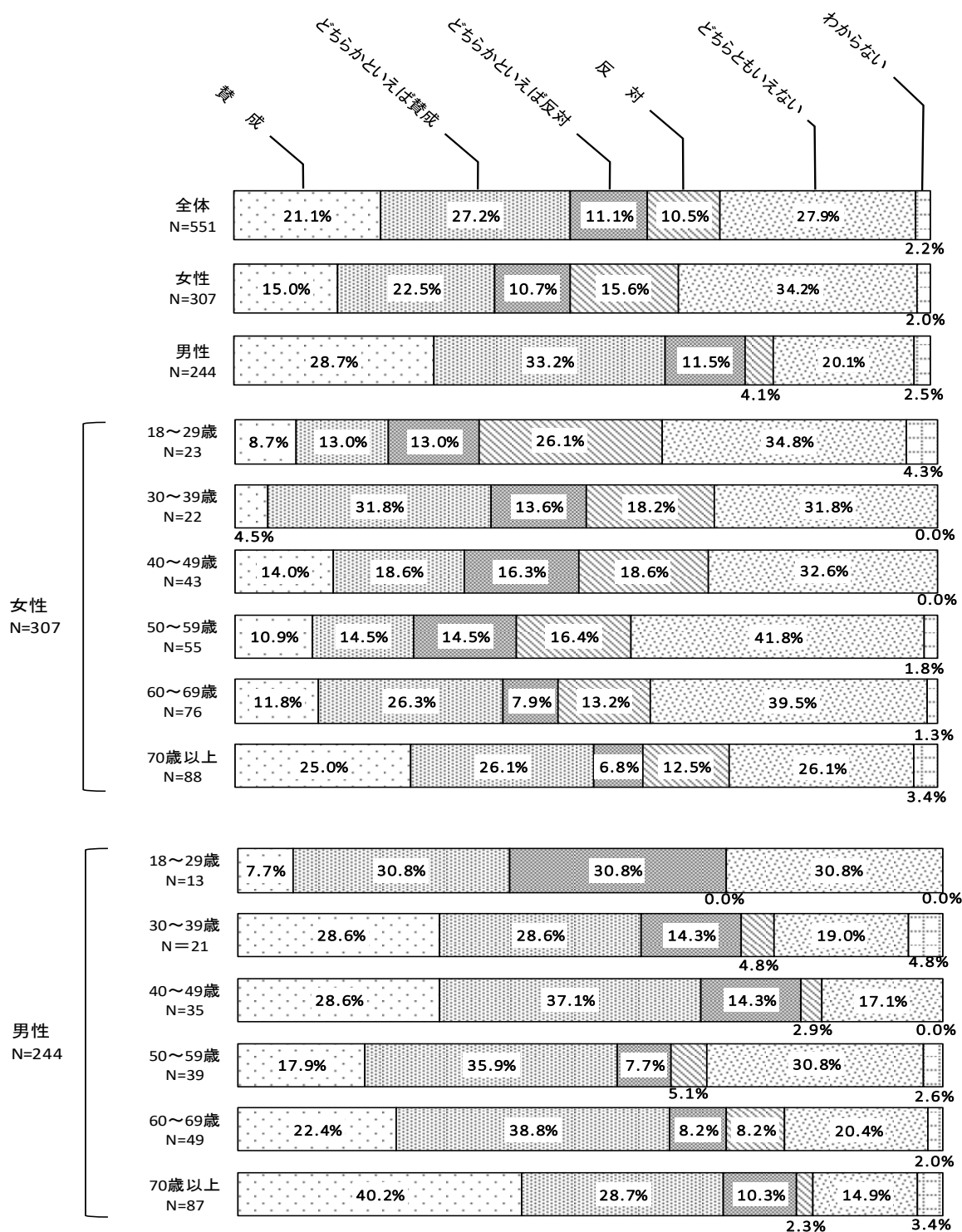
② 女の子も男の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

- 全体では、「賛成」と回答した人の割合は、女性が 72.0%、男性が 55.7%と、16.3 ポイント男性が低くなっています。
- 「賛成」の回答を年代別に見ると、女性では 70 歳以上が 55.7%と最も低く、男性では 70 歳以上が 49.4%、次いで 30 歳代が 52.4%と低い割合になっています。



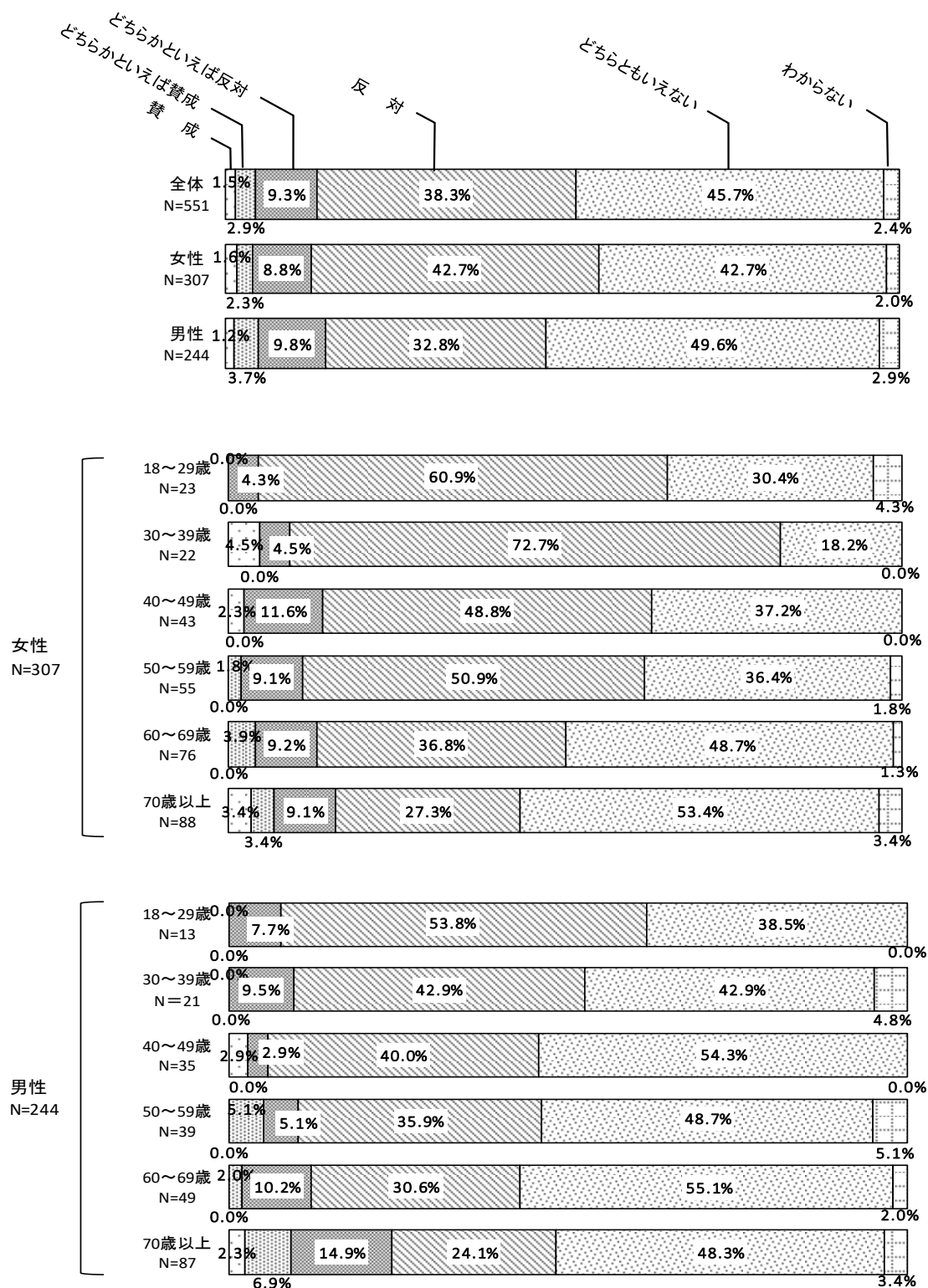
③ 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

- 全体では、「賛成」および「どちらかといえば賛成」と回答した人の割合は、女性 37.5%、男性 61.9%と、男性が 24.4 ポイント高くなっています。
- 「反対」と回答した人の割合は、女性 15.6%、男性 4.1%と、女性が 11.5 ポイント高くなっています。



④ 女の子は文科系、男の子は理科系に進んだ方がよい

- 「どちらともいえない」と回答した人の割合は、全体で45.7%、女性42.7%、男性49.6%と高くなっています。
- 「反対」と回答した人の割合は、全体で38.3%、女性42.7%、男性32.8%となっています。



問16 結婚・家庭観

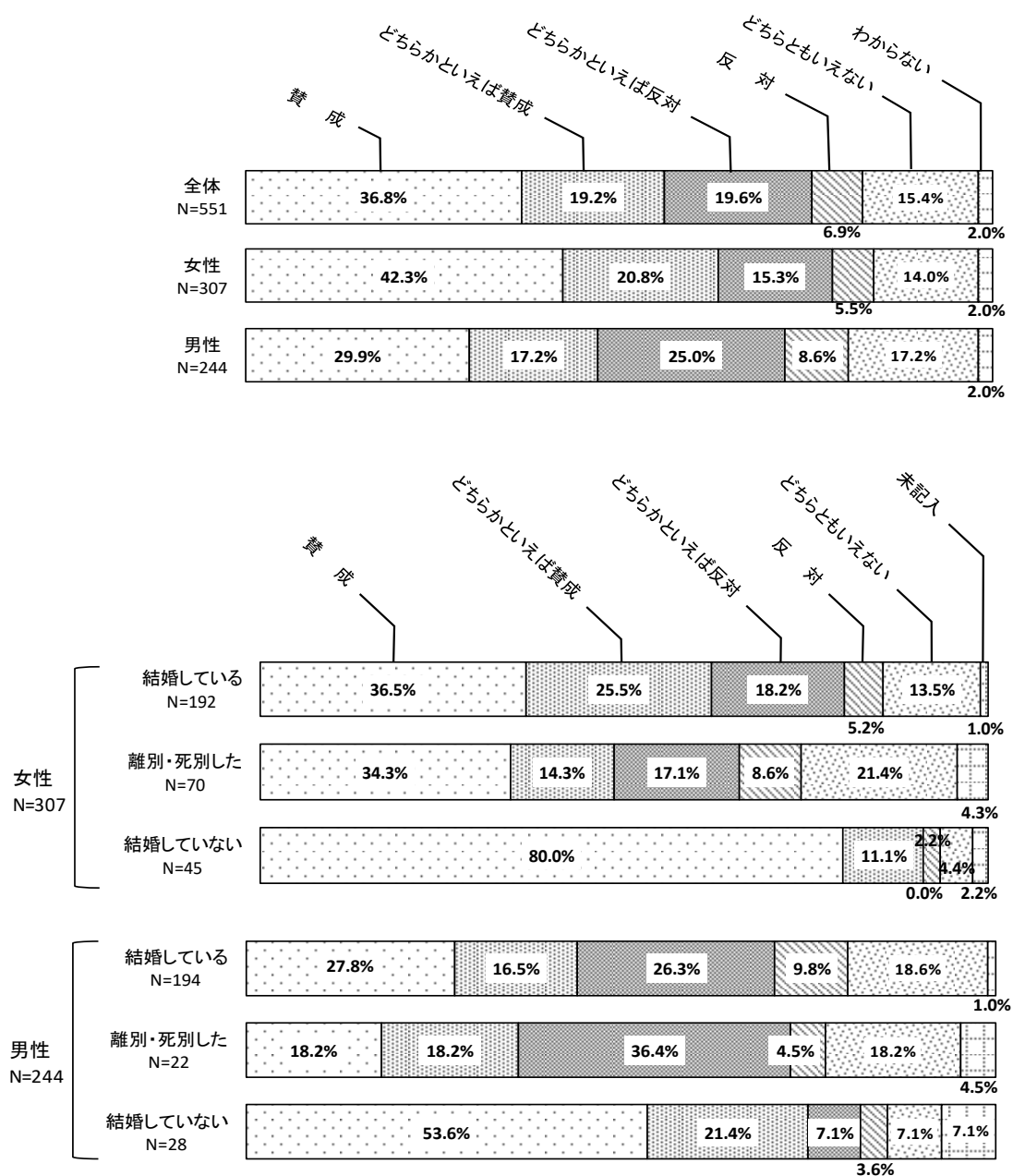
結婚、家庭について、あなたのご意見をお伺いします。

次の①～②にあげるような考え方について、どのようにお考えですか。（〇はそれぞれひとつずつ）

① 結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい。

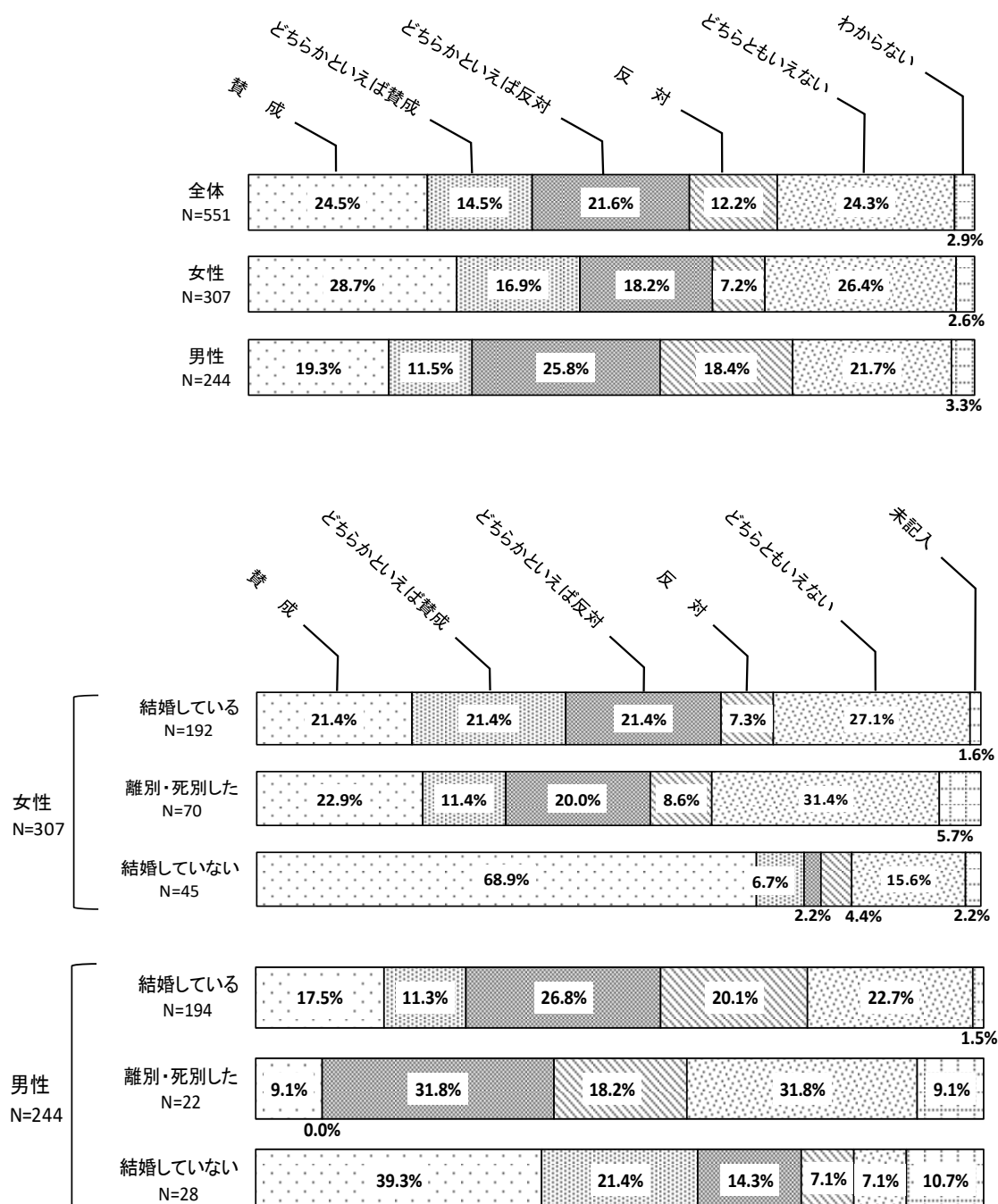
○ 「賛成」と回答した人の割合は、全体で 36.8%、女性 42.3%、男性 29.9%となっています。

○ 婚姻状況別に「賛成」と回答した人の割合をみると、「結婚していない」女性は 80.0%、「結婚していない」男性は 53.6%と高くなっています。



② 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない。

- 全体では、「賛成」および「どちらかといえば賛成」の回答が 39.0%、「反対」および「どちらかといえば反対」の回答が 33.8%、「どちらともいえない」の回答が 24.3%となっています。
- 婚姻状況別にみると、「結婚していない」女性で「賛成」と回答した人の割合は、68.9%と高くなっています。

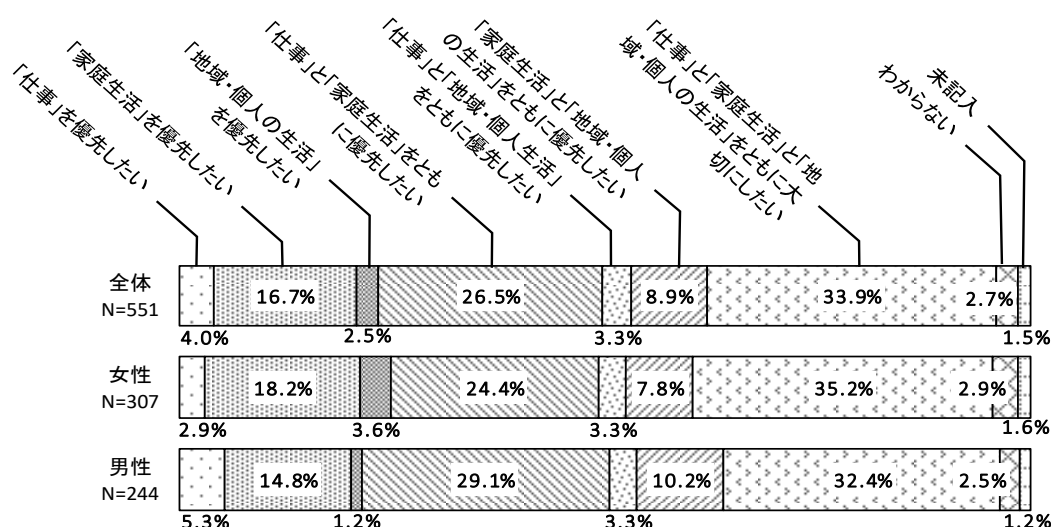


3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問17 仕事と生活のバランスの希望

「仕事」「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてあなたの希望に最も近いものはどれですか。（○はひとつだけ）

- 『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに大切にしたい』と回答した人の割合は、全体で33.9%と最も多く、女性35.2%、男性32.4%となっています。
- 次いで、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』と回答した人の割合が多く、全体で26.5%、女性24.4%、男性29.1%となっています。

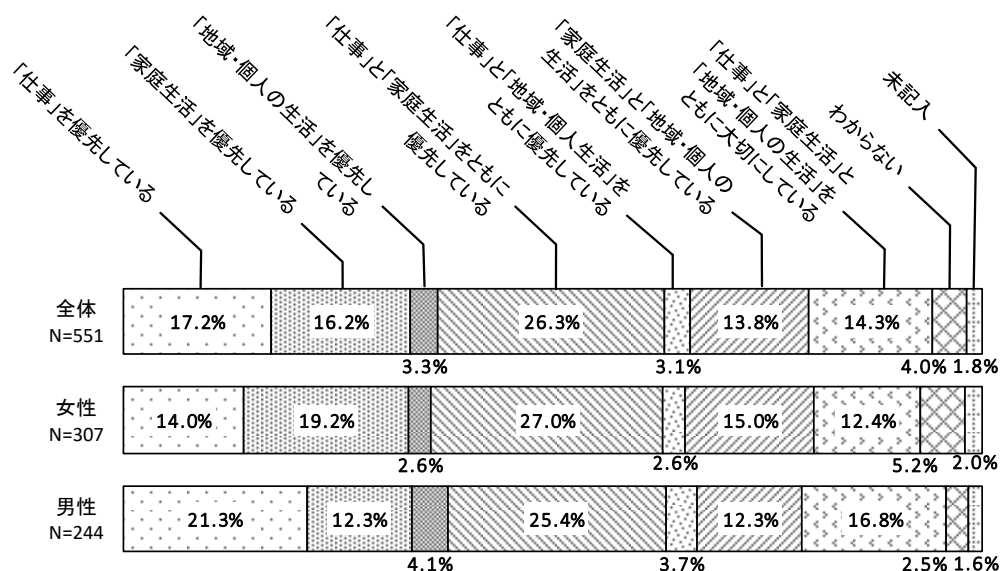


	全体	性別		性別・婚姻状況別						性別・就業状況別			
		女性	男性	女性			男性			女性		男性	
				結婚している	離婚・死別した	結婚していない	結婚している	離婚・死別した	結婚していない	就業している	就業していない	就業している	就業していない
1 「仕事」を優先したい	22 4.0%	9 2.9%	13 5.3%	6 3.1%	1 1.4%	2 4.4%	11 5.7%	0 0.0%	2 7.1%	6 3.4%	3 2.3%	9 5.8%	4 4.4%
2 「家庭生活」を優先したい	92 16.7%	56 18.2%	36 14.8%	43 22.4%	10 14.3%	3 6.7%	26 13.4%	4 18.2%	6 21.4%	27 15.3%	29 22.1%	18 11.7%	18 20.0%
3 「地域・個人の生活」を優先したい	14 2.5%	11 3.6%	3 1.2%	2 1.0%	4 5.7%	5 11.1%	2 1.0%	0 0.0%	1 3.6%	6 3.4%	5 3.8%	1 0.6%	2 2.2%
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	146 26.5%	75 24.4%	71 29.1%	49 25.5%	14 20.0%	12 26.7%	59 30.4%	3 13.6%	9 32.1%	55 31.3%	20 15.3%	54 35.1%	17 18.9%
5 「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先したい	18 3.3%	10 3.3%	8 3.3%	6 3.1%	2 2.9%	2 4.4%	4 2.1%	0 0.0%	4 14.3%	7 4.0%	3 2.3%	4 2.6%	4 4.4%
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	49 8.9%	24 7.8%	25 10.2%	15 7.8%	6 8.6%	3 6.7%	19 9.8%	3 13.6%	3 10.7%	7 4.0%	17 13.0%	17 11.0%	8 8.9%
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに大切にしたい	187 33.9%	108 35.2%	79 32.4%	64 33.3%	28 40.0%	16 35.6%	69 35.6%	7 31.8%	3 10.7%	62 35.2%	46 35.1%	47 30.5%	32 35.6%
8 わからない	15 2.7%	9 2.9%	6 2.5%	6 3.1%	2 2.9%	1 2.2%	3 1.5%	3 13.6%	0 0.0%	4 2.3%	5 3.8%	3 1.9%	3 3.3%
9 未記入	8 1.5%	5 1.6%	3 1.2%	1 0.5%	3 4.3%	1 2.2%	1 0.5%	2 9.1%	0 0.0%	2 1.1%	3 2.3%	1 0.6%	2 2.2%

問18 仕事と生活のバランスの現状

「仕事」「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてあなたの現状・現実に最も近いものはどれですか。
(○はひとつだけ)

- 「仕事と家庭生活をともに優先している」と回答した人の割合は、全体で 26.3%と最も多く、女性 27.0%、男性 25.4%となっています。
- 2 番目に、男性の回答で多いのは「仕事を優先している」で 21.3%、女性では「家庭生活を優先している」で 19.2%となっています。



	全体	性別		性別・婚姻状況別						性別・就業状況別			
		女性	男性	女性			男性			女性		男性	
				結婚している	離別・死別した	結婚していない	結婚している	離別・死別した	結婚していない	就業している	就業していない	就業している	就業していない
1 「仕事」を優先している	95 17.2%	43 14.0%	52 21.3%	21 10.9%	9 12.9%	13 28.9%	41 21.1%	3 13.6%	8 28.6%	38 21.6%	5 3.8%	49 31.8%	3 3.3%
2 「家庭生活」を優先している	89 16.2%	59 19.2%	30 12.3%	44 22.9%	13 18.6%	2 4.4%	23 11.9%	1 4.6%	6 21.4%	18 10.2%	41 31.3%	13 8.4%	17 18.9%
3 「地域・個人の生活」を優先している	18 3.3%	8 2.6%	10 4.1%	2 1.0%	4 5.7%	2 4.4%	5 2.6%	2 9.1%	3 10.7%	3 1.7%	5 3.8%	2 1.3%	8 8.9%
4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	145 26.3%	83 27.0%	62 25.4%	60 31.4%	15 21.4%	8 17.9%	54 27.8%	4 18.2%	4 14.3%	71 40.3%	12 9.2%	48 31.3%	14 15.6%
5 「仕事」と「地域・個人生活」をともに優先している	17 3.1%	8 2.6%	9 3.7%	1 0.5%	3 4.3%	4 8.9%	6 3.1%	0 0.0%	3 10.7%	5 2.8%	3 2.3%	7 4.5%	2 2.2%
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	76 13.8%	46 15.0%	30 12.3%	33 17.2%	10 14.3%	3 6.7%	25 12.9%	3 13.6%	2 7.1%	6 3.5%	40 30.5%	8 5.2%	22 24.4%
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに大切にしている	79 14.3%	38 12.4%	41 16.8%	25 13.0%	7 10.0%	6 13.3%	36 18.6%	4 18.2%	1 3.6%	27 15.3%	11 8.4%	24 15.6%	17 18.9%
8 わからない	22 4.0%	16 5.2%	6 2.5%	5 2.6%	5 7.1%	6 13.3%	3 1.5%	3 13.6%	0 0.0%	6 3.5%	10 7.6%	1 0.6%	5 5.6%
9 未記入	10 1.8%	6 2.0%	4 1.6%	1 0.5%	4 5.7%	1 2.2%	1 0.5%	2 9.1%	1 3.6%	2 1.1%	4 3.1%	2 1.3%	2 2.2%

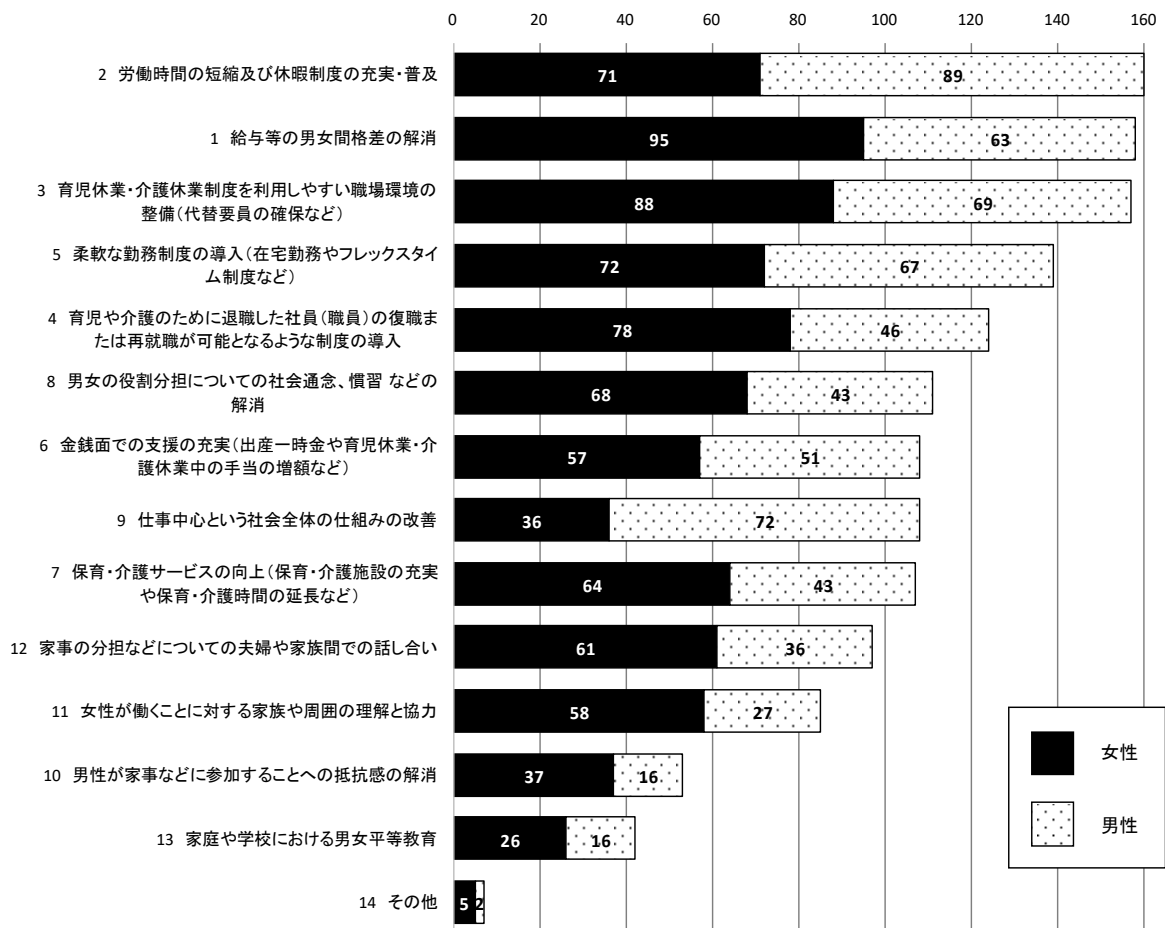
◆ 参考 ◆ 仕事と生活のバランスの理想と現状

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに大切にしたいという人は、3 割強ですが、現状では 1 割強となっています。

問19 仕事と生活の調和のために必要なこと

一般に、男女が共に仕事と家庭生活や地域活動の両立を可能とするためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

- 「労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及」と回答した人が最も多く、次いで「給与等の男女間格差の解消」、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」となっています。



〔その他の意見〕

女性 40～49歳	正規雇用を増やす
女性 40～49歳	休業がとりやすい社会になることが必要かと思いますが、その取り組みを行った会社に対して補助金などで代わりの人を雇いやすくなるとかあるといいなと思います。
女性 50～59歳	一人親世帯でのパート等の金銭・子育て・教育等の支援の充実。貧困から脱却できる仕組みフォローの整備 アンケートの設問が女性を下に見ている感じの問いが多いことに違和感を感じました。 延岡市の男女平等、ジェンダー、外国籍の方等全ての人がインクルーシブ的な考えの中、輝いて生活できる延岡になってほしいと思います。
女性 50～59歳	消費税が上がれば同時に給与も上げてほしい。最低賃金は苦しい。
女性 80歳～	最低賃金の向上
男性 30～39歳	若年世代の年収増
男性 50～59歳	仕事を早く片付けるスキル

性別・年代別

	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
2 労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及	160	71	89	9	7	9	13	18	15	6	12	18	21	11	21
1 給与等の男女間格差の解消	158	95	63	6	5	17	25	19	23	3	6	2	11	17	24
3 育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備(代替要員の確保など)	157	88	69	8	9	8	15	27	21	3	3	11	11	12	29
5 柔軟な勤務制度の導入(在宅勤務やフレックスタイム制度など)	139	72	67	8	8	13	13	13	17	7	8	8	16	17	11
4 育児や介護のために退職した社員(職員)の復職または再就職が可能となるような制度の導入	124	78	46	4	5	8	14	19	28	4	2	5	4	11	20
8 男女の役割分担についての社会通念、慣習 などの解消	111	68	43	5	6	10	14	17	16	4	2	5	4	10	18
6 金銭面での支援の充実(出産一時金や育児休業・介護休業中の手当の増額など)	108	57	51	11	5	10	13	11	7	4	7	12	7	10	11
9 仕事中心という社会全体の仕組みの改善	108	36	72	2	1	10	2	10	11	2	11	16	16	9	18
7 保育・介護サービスの向上(保育・介護施設の充実や保育・介護時間の延長など)	107	64	43	6	3	5	11	21	18	3	1	7	5	11	16
12 家事の分担などについての夫婦や家族間での話し合い	97	61	36	8	1	7	8	17	20	1	2	3	2	5	23
11 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力	85	58	27	2	6	7	3	20	20	1	0	4	3	3	16
10 男性が家事などに参加することへの抵抗感の解消	53	37	16	4	2	5	7	8	11	0	0	4	2	3	7
13 家庭や学校における男女平等教育	42	26	16	1	0	3	7	2	13	1	1	0	3	3	8
14 その他	7	5	2	0	0	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0

性別・就業状況別

	全体	性別		性別・婚姻状況別						性別・就業状況別			
		女性	男性	女性			男性			女性		男性	
				結婚している	結婚していない	離別・死別した	結婚している	結婚していない	離別・死別した	就業している	就業していない	就業している	就業していない
2 労働時間の短縮及び休暇制度の充実・普及	160	71	89	40	15	16	72	7	10	42	29	66	23
1 給与等の男女間格差の解消	158	95	63	55	25	15	50	8	5	64	31	33	30
3 育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備(代替要員の確保など)	157	88	69	61	17	10	55	5	9	52	36	39	30
5 柔軟な勤務制度の導入(在宅勤務やフレックスタイム制度など)	139	72	67	45	15	12	53	4	10	44	28	51	16
4 育児や介護のために退職した社員(職員)の復職または再就職が可能となるような制度の導入	124	78	46	51	19	8	36	4	6	38	40	27	19
8 男女の役割分担についての社会通念、慣習 などの解消	111	68	43	49	9	10	34	3	6	39	29	23	20
6 金銭面での支援の充実(出産一時金や育児休業・介護休業中の手当の増額など)	108	57	51	30	11	16	44	4	3	38	19	41	10
9 仕事中心という社会全体の仕組みの改善	108	36	72	18	11	7	61	3	8	22	14	53	19
7 保育・介護サービスの向上(保育・介護施設の充実や保育・介護時間の延長など)	107	64	43	45	11	8	35	4	4	34	30	26	17
12 家事の分担などについての夫婦や家族間での話し合い	97	61	36	36	16	9	29	2	5	32	29	16	20
11 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力	85	58	27	37	15	6	20	4	3	26	32	13	14
10 男性が家事などに参加することへの抵抗感の解消	53	37	16	20	12	5	12	1	3	20	17	11	5
13 家庭や学校における男女平等教育	42	26	16	18	6	2	10	4	2	12	14	8	8
14 その他	7	5	2	2	1	2	2	0	0	4	1	2	0

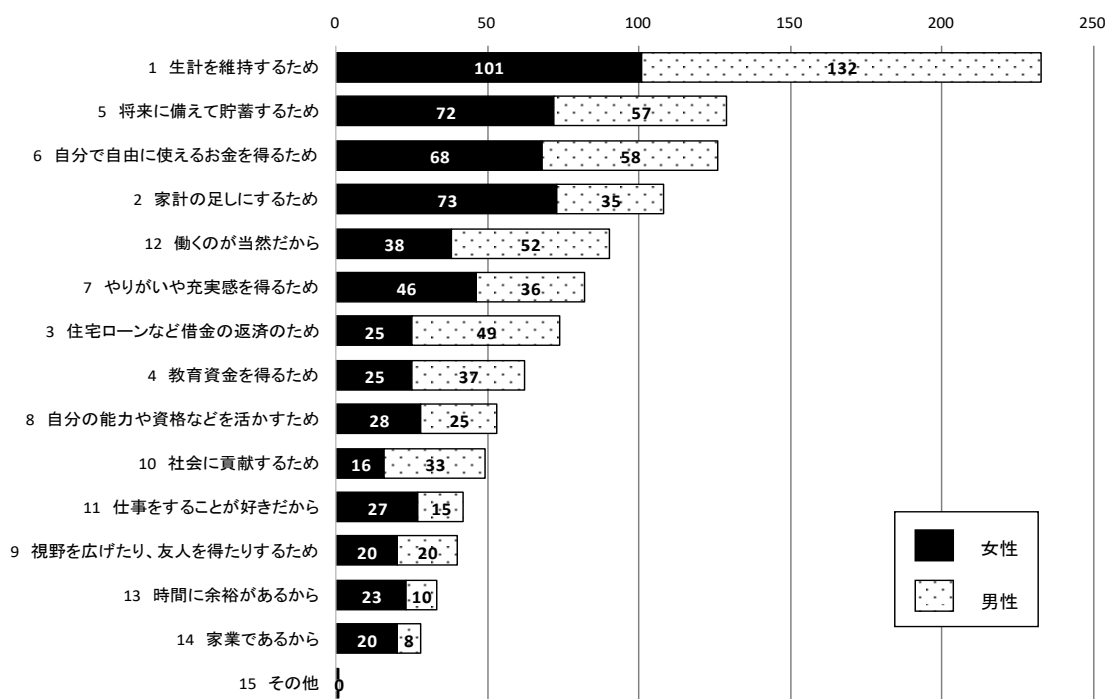
4 就業について

<現在仕事に就いている人のみ回答>

問20 あなたが働いているのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）

- 「生計を維持するため」と回答した人が 233 人と最も多く、全回答者の 70.6%になっています。

	女性	男性	計
就業している	176 57.3%	154 63.1%	330 59.9%
就業していない	131 42.7%	90 36.9%	221 40.1%
計	307	244	551



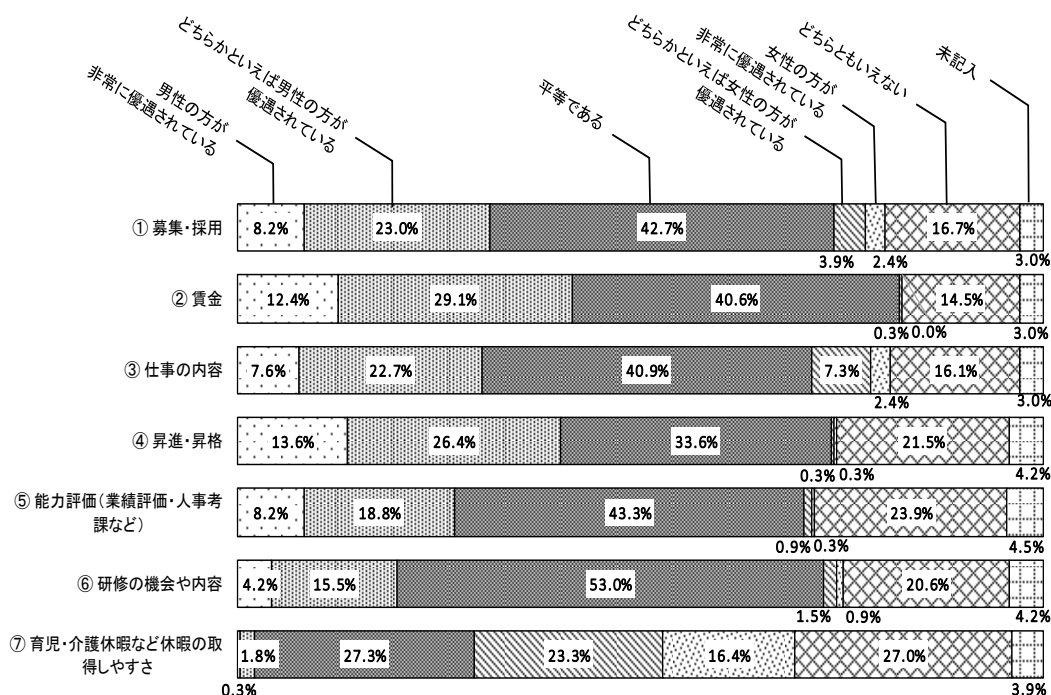
	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
1 生計を維持するため	233	101	132	8	16	28	26	19	4	10	17	34	37	21	13
5 将来に備えて貯蓄するため	129	72	57	7	12	15	17	19	2	6	8	16	17	7	3
6 自分で自由に使えるお金を得るため	126	68	58	13	7	15	19	11	3	6	6	16	16	5	9
2 家計の足しにするため	108	73	35	3	4	17	26	18	5	4	2	9	6	10	4
12 働くのが当然だから	90	38	52	7	3	8	13	6	1	3	7	16	12	8	6
7 やりがいや充実感を得るため	82	46	36	4	5	10	15	8	4	3	3	8	13	8	1
3 住宅ローンなど借金の返済のため	74	25	49	2	4	6	11	2	0	3	7	15	20	3	1
4 教育資金を得るため	62	25	37	0	7	6	8	3	1	1	9	13	13	1	0
8 自分の能力や資格などを活かすため	53	28	25	3	2	5	10	5	3	2	4	4	5	6	4
10 社会に貢献するため	49	16	33	1	3	3	4	3	2	2	5	9	11	2	4
11 仕事をすることが好きだから	42	27	15	1	2	5	11	7	1	1	2	2	2	4	4
9 視野を広げたり、友人を得たりするため	40	20	20	3	2	2	8	4	1	3	2	5	6	1	3
13 時間に余裕があるから	33	23	10	1	1	4	5	8	4	1	0	0	1	4	4
14 家業であるから	28	20	8	0	0	3	5	10	2	0	0	0	1	3	4
15 その他	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<現在仕事に就いている人のみ回答>

問21 職場での男女差

あなたの職場では、次の①～⑦にあげるような分野で、性別によって差があると思いますか。
(〇はそれぞれひとつずつ)

- 男性優遇感があると回答した人の割合は、「賃金」で41.5%と最も高く、次いで「昇進・昇格」が40.0%となっています。
- 女性優遇感があると回答した人の割合は、「育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ」で高く、39.7%となっています。

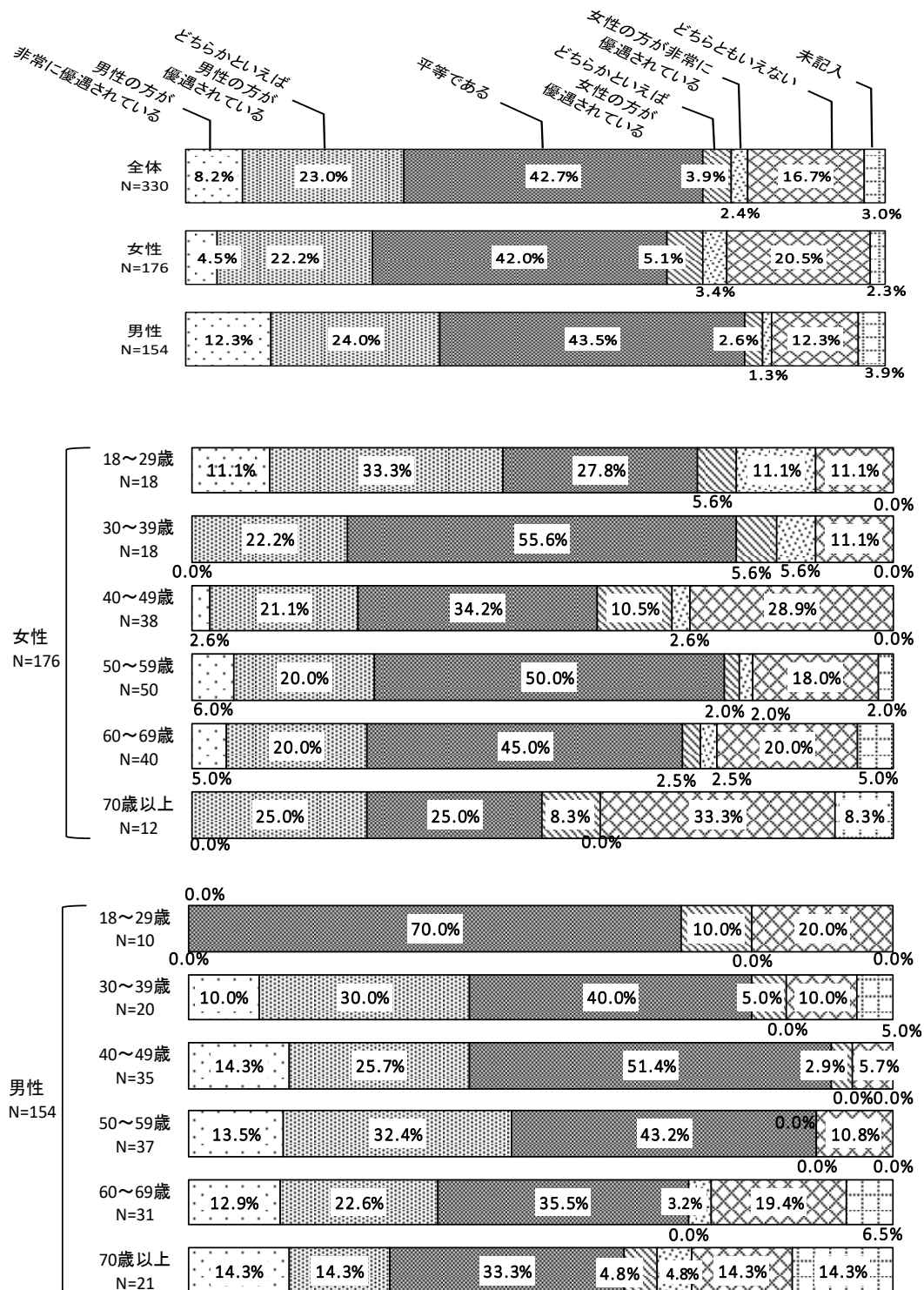


	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	どちらともいえない	未記入	合計
① 募集・採用	27 8.2%	76 23.0%	141 42.7%	13 3.9%	8 2.4%	55 16.7%	10 3.0%	330 100.0%
② 賃金	41 12.4%	96 29.1%	134 40.6%	1 0.3%	0 0.0%	48 14.5%	10 3.0%	330 100.0%
③ 仕事の内容	25 7.6%	75 22.7%	135 40.9%	24 7.3%	8 2.4%	53 16.1%	10 3.0%	330 100.0%
④ 昇進・昇格	45 13.6%	87 26.4%	111 33.6%	1 0.3%	1 0.3%	71 21.5%	14 4.2%	330 100.0%
⑤ 能力評価(業績評価・人事考課など)	27 8.2%	62 18.8%	143 43.3%	3 0.9%	1 0.3%	79 23.9%	15 4.5%	330 100.0%
⑥ 研修の機会や内容	14 4.2%	51 15.5%	175 53.0%	5 1.5%	3 0.9%	68 20.6%	14 4.2%	330 100.0%
⑦ 育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ	1 0.3%	6 1.8%	90 27.3%	77 23.3%	54 16.4%	89 27.0%	13 3.9%	330 100.0%

① 募集・採用

～ 「平等である」と感じる人は 4 割強、男性優遇感を持つ人は 3 割強 ～

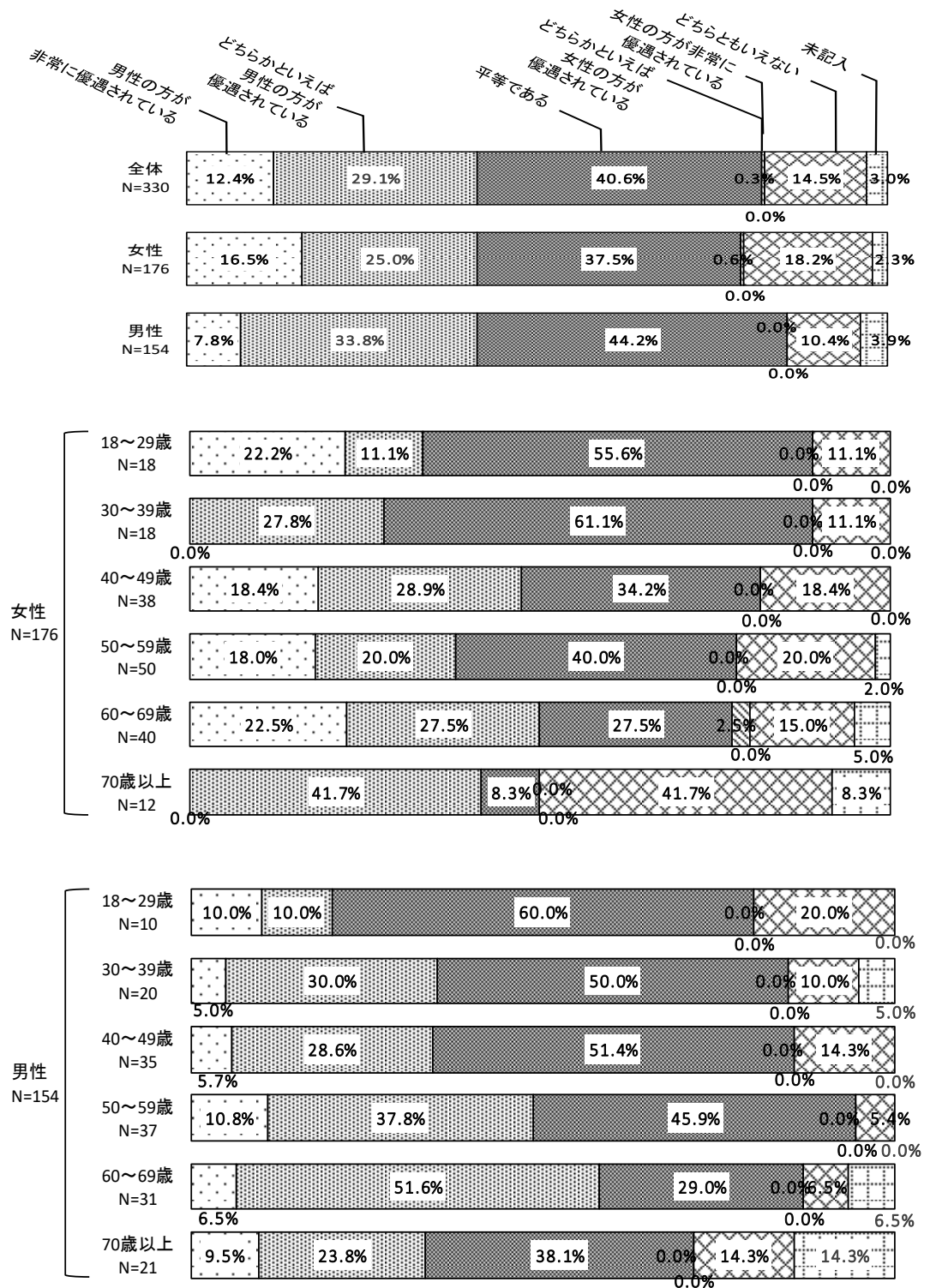
- 男性優遇感を持つ人は、女性の 18～29 歳、男性の 30 歳代、40 歳代、50 歳代で高い傾向にあります。



② 賃金

～ 「平等である」と感じる人は 4 割、男性優遇感を持つ人は 4 割強 ～

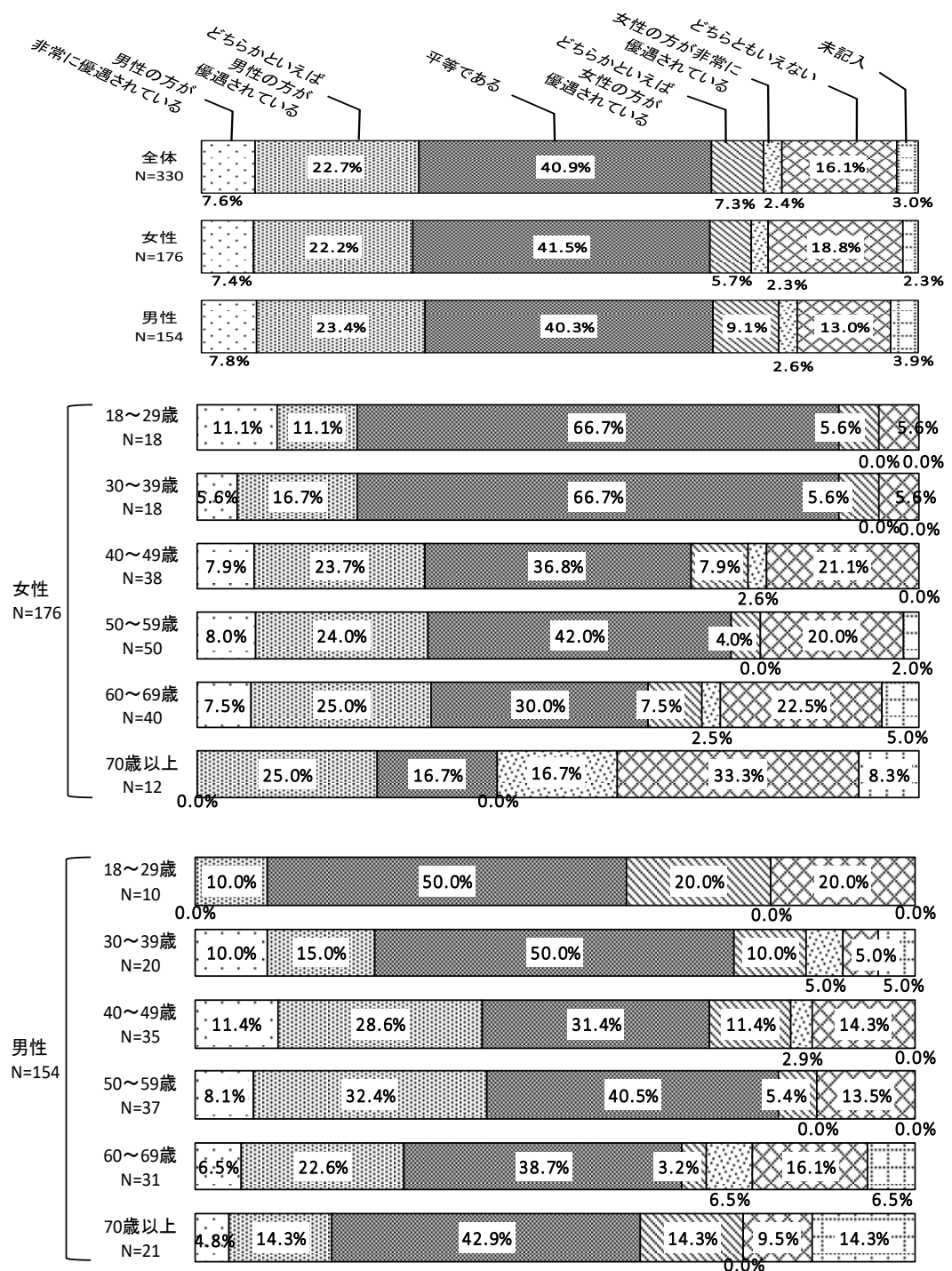
○ 女性優遇感を持つ人は、ほとんどいません。



③ 仕事の内容

～ 「平等である」と感じる人は 4 割、男性優遇感を持つ人は 3 割 ～

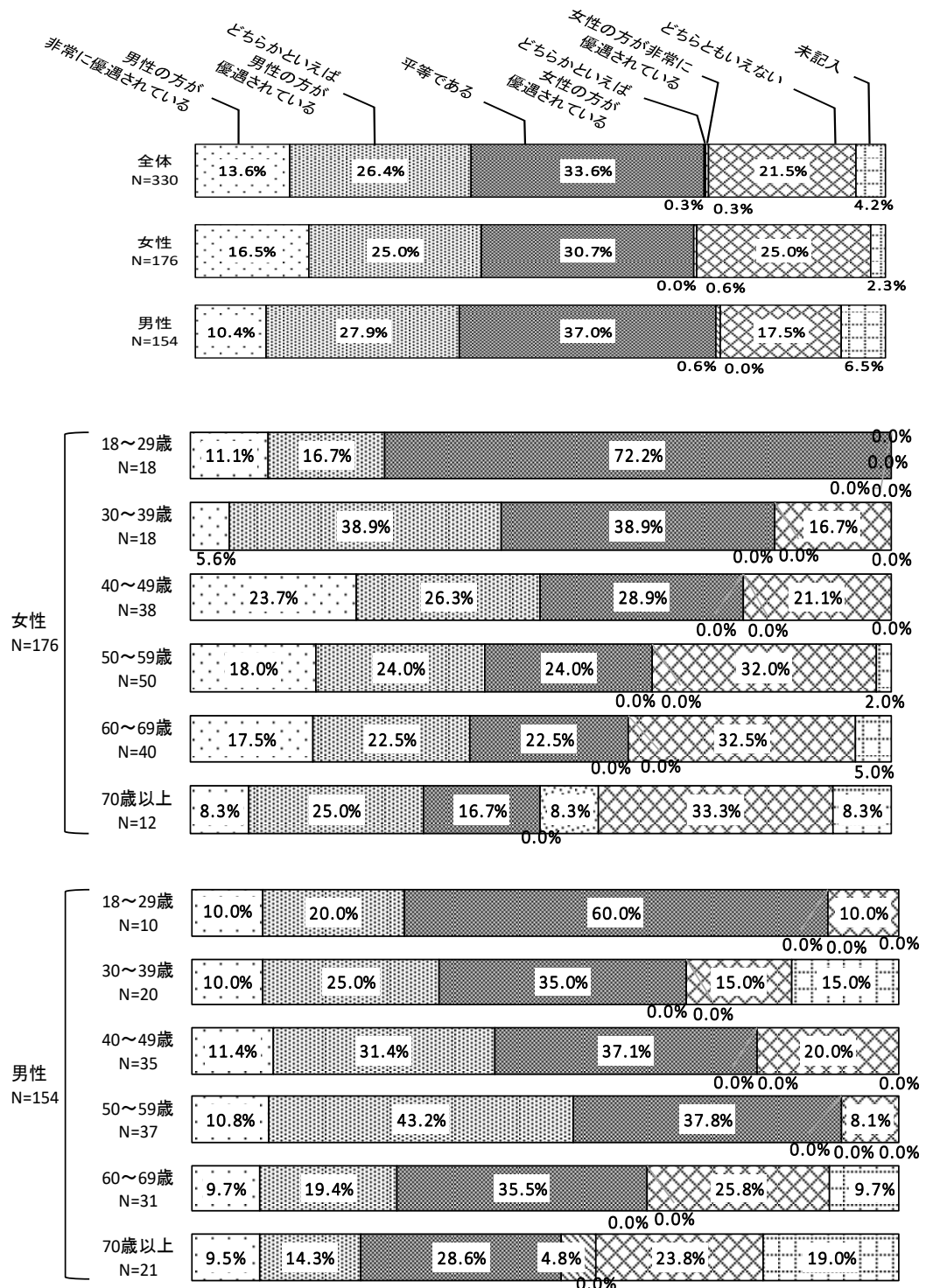
○ 「平等である」と感じる女性の割合は、年代が上がるほど低くなる傾向にあります。



④ 昇進・昇格

～ 「平等である」と感じる人は 3 割強、男性優遇感を持つ人は 4 割 ～

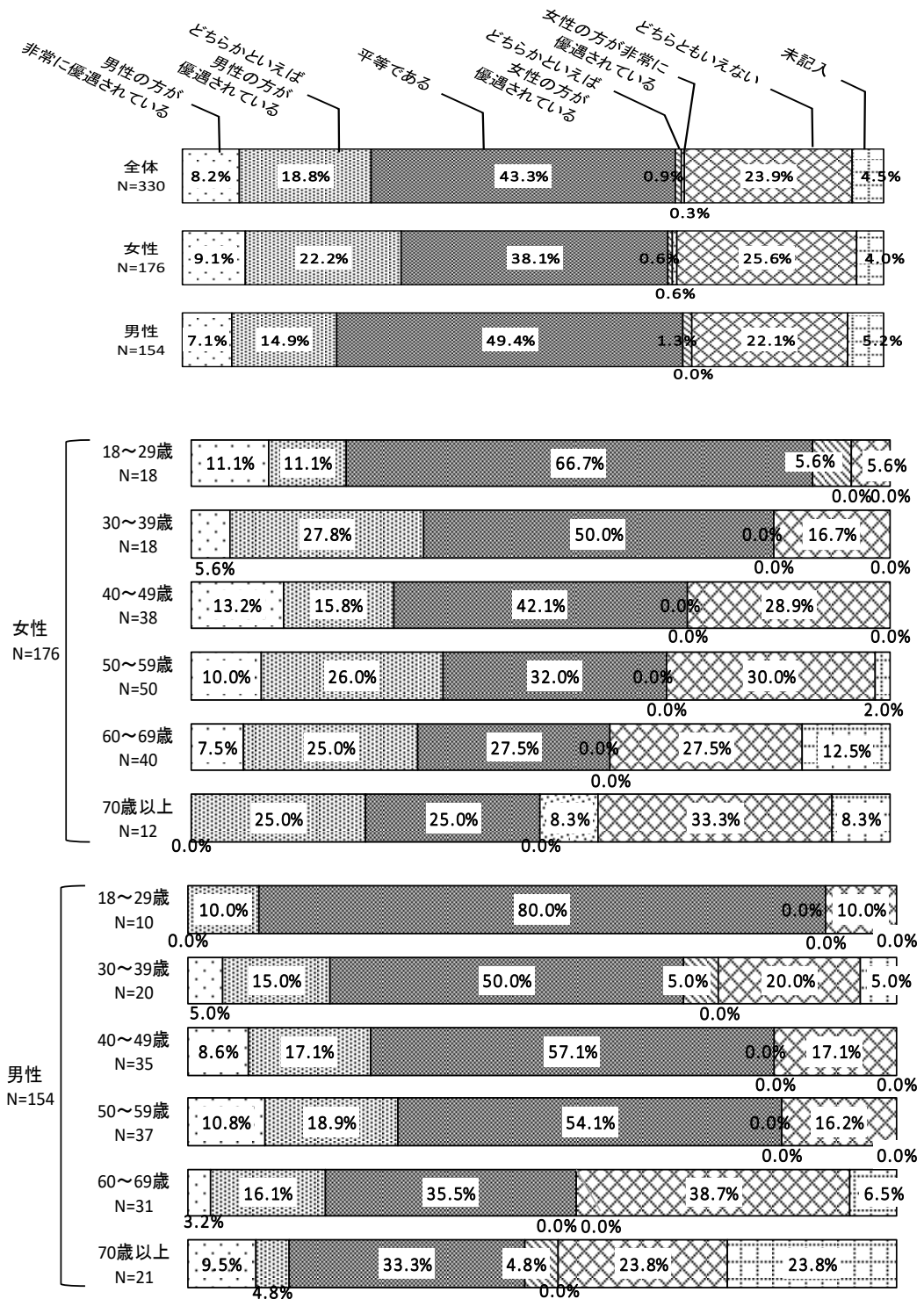
○ 女性優遇感を持つ人は、ほとんどいません。



⑤ 能力評価(業績評価・人事考課など)

～ 「平等である」と感じる人は 4 割強、男性優遇感を持つ人は 3 割弱 ～

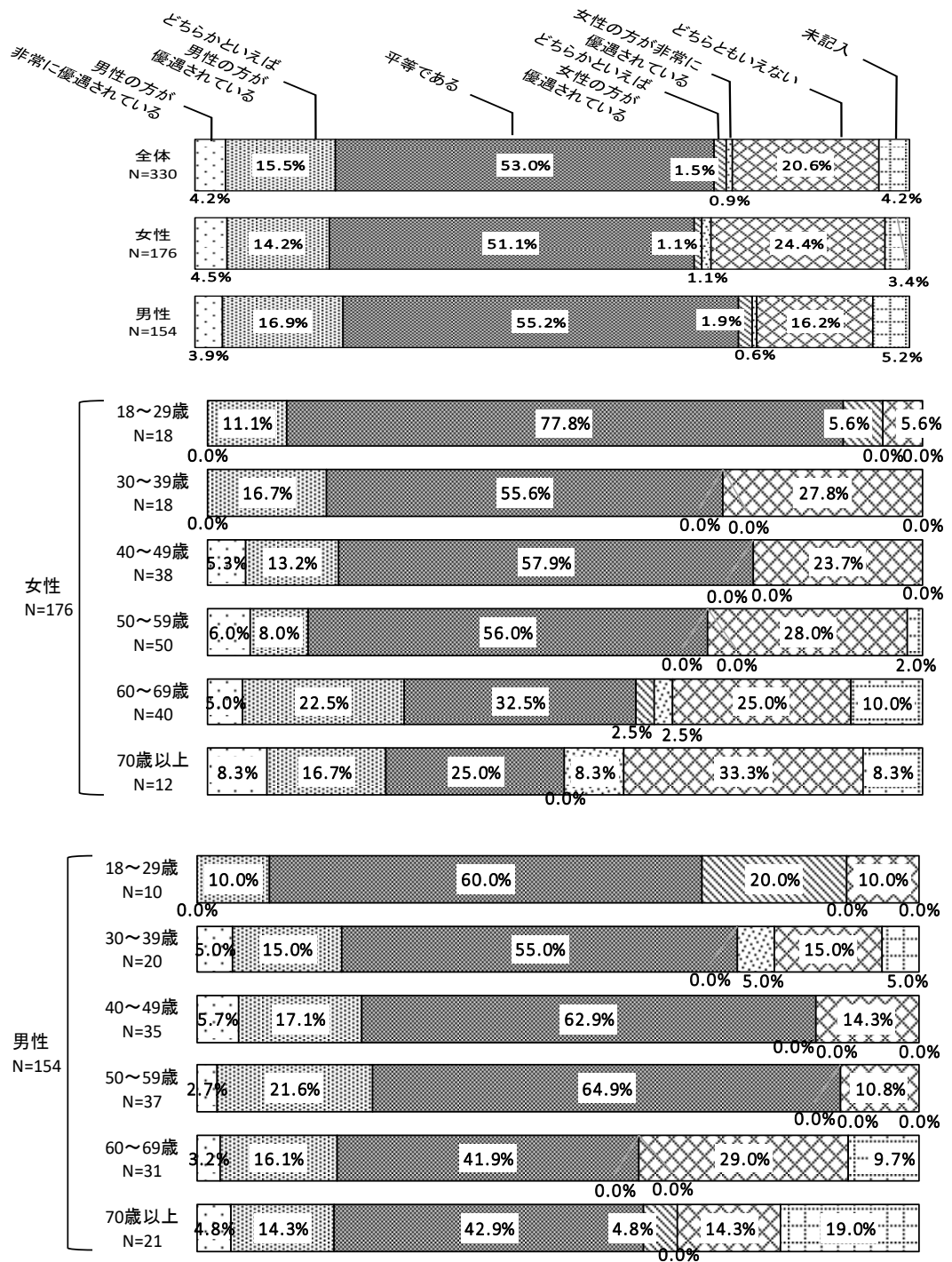
○ 男性優遇感を持つ人の割合は、女性ではどの年代でも男性より高くなっています。



⑥ 研修の機会や内容

～ 「平等である」と感じる人は 5 割強 ～

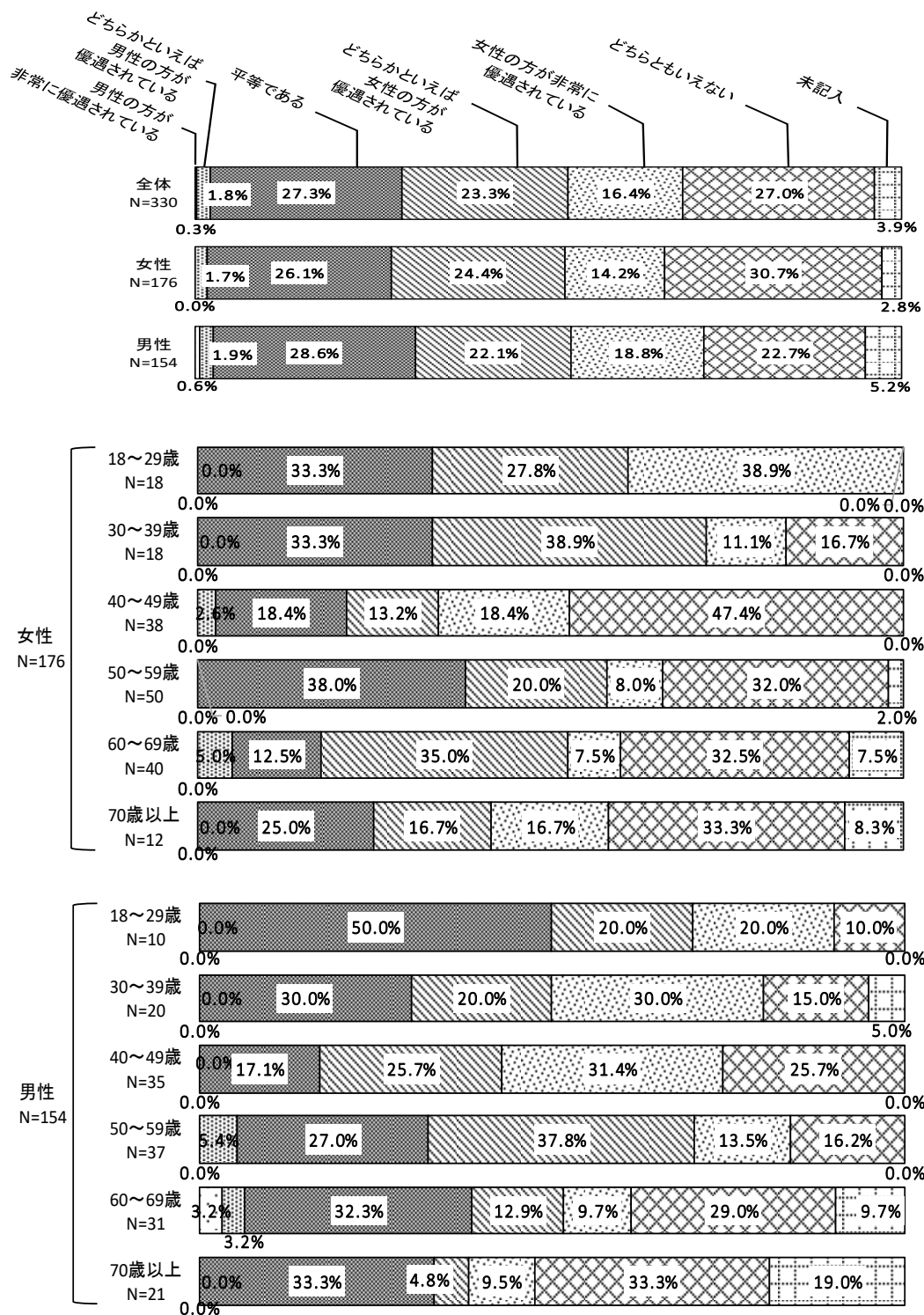
- 「平等である」と回答した人の割合は、全体で 53.0%、女性 51.1%、男性 55.2%となっています。



⑦ 育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ

～ 女性優遇感を持つ人が4割 ～

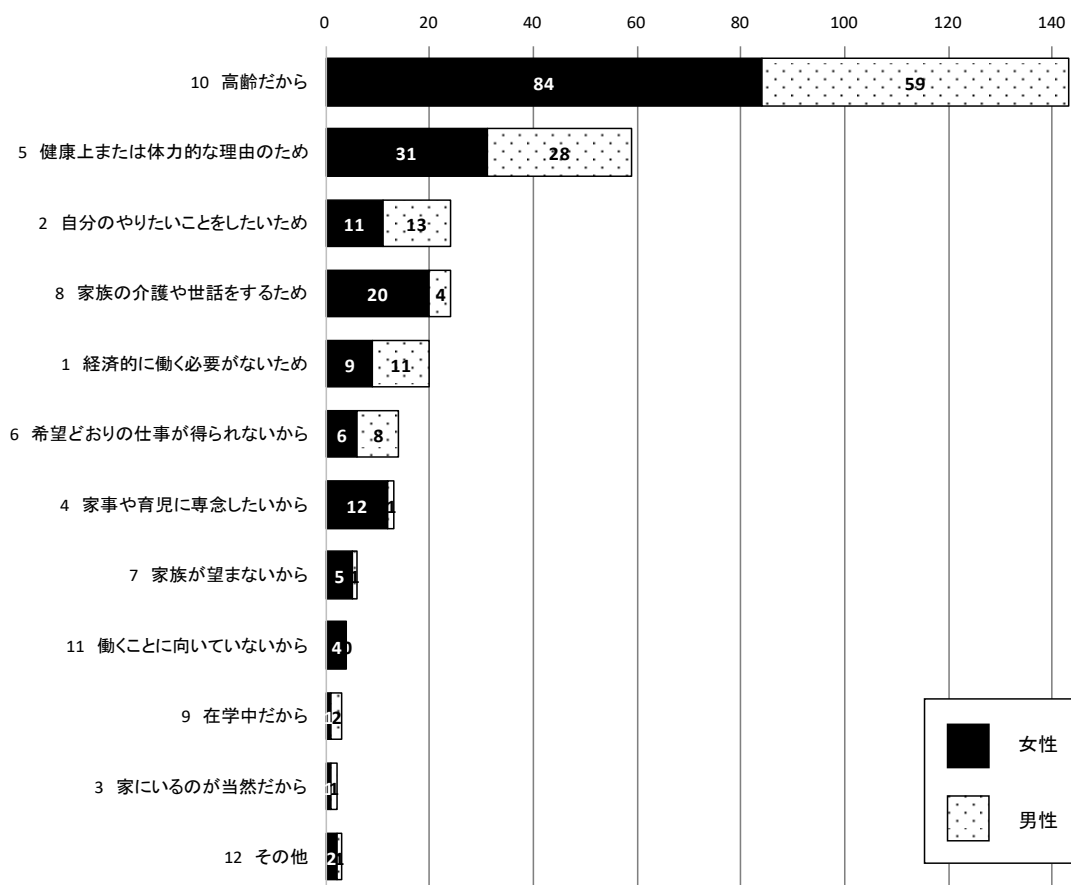
○ 男女ともどの年代でも、女性優遇感があると回答した人の割合が高く、男性優遇感があると回答した人を大きく上回っています。



<現在仕事に就いていない人が回答>

問22 あなたが働いていないのは、どのような理由からですか。（〇はいくつでも）

○ 男女ともに「高齢だから」が最も多く、次いで「健康上または体力的な理由のため」となっています。



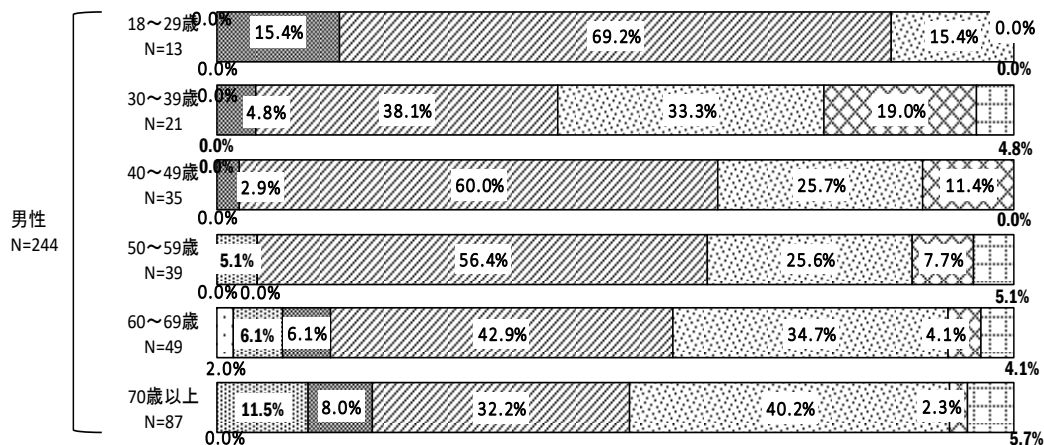
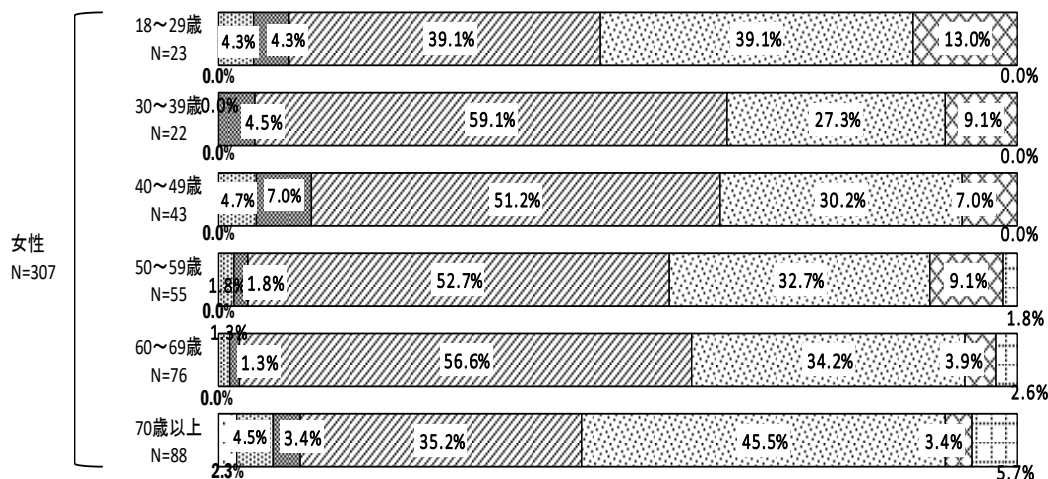
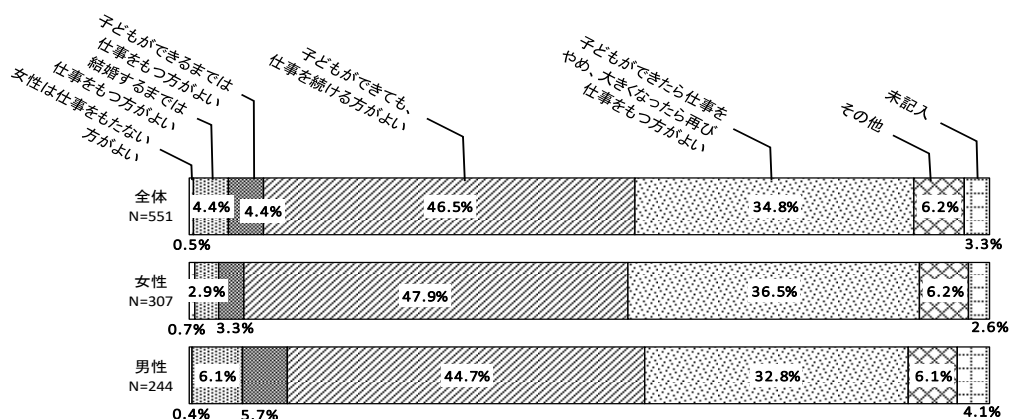
	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
10 高齢だから	143	84	59	0	0	0	0	20	64	0	0	0	0	5	54
5 健康上または体力的な理由のため	59	31	28	0	0	1	3	16	11	0	0	0	2	6	20
2 自分のやりたいことをしたいため	24	11	13	0	0	1	0	2	8	2	1	0	0	6	4
8 家族の介護や世話をするため	24	20	4	1	0	2	3	10	4	0	0	0	0	1	3
1 経済的に働く必要がないため	20	9	11	0	1	0	1	5	2	0	0	0	0	3	8
6 希望どおりの仕事を得られないから	14	6	8	1	0	1	0	2	2	0	0	0	0	3	5
4 家事や育児に専念したいから	13	12	1	3	3	1	0	3	2	0	0	0	0	0	1
7 家族が望まないから	6	5	1	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1
11 働くことに向いていないから	4	4	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
9 在学中だから	3	1	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
3 家にいるのが当然だから	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
12 その他	3	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0

<すべての人が回答>

問23 女性の就業についての意識

女性の就業について、あなたはどのようなお考えをお持ちですか。（○はひとつだけ）

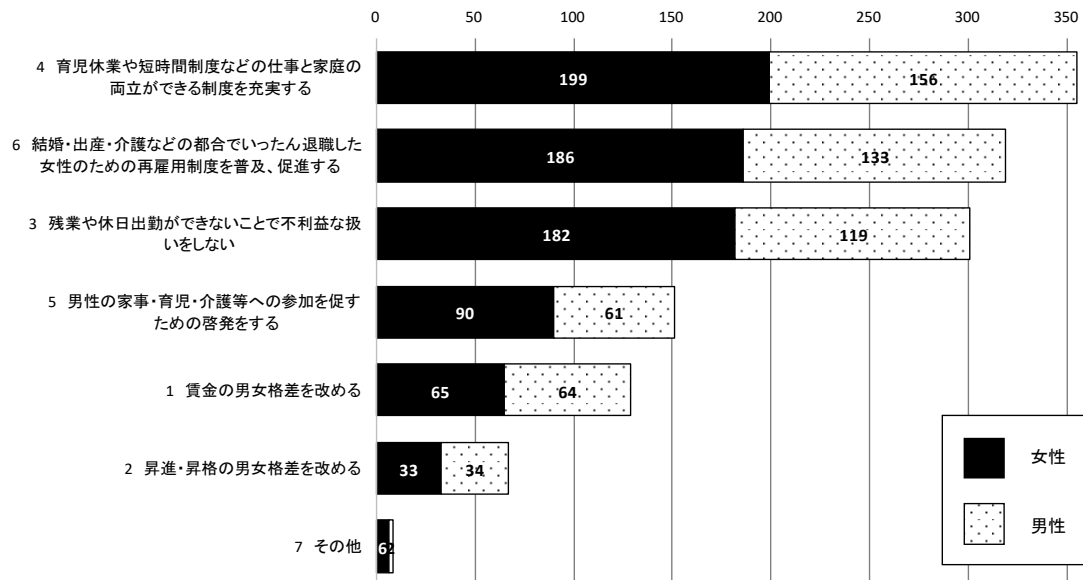
- 『就業継続型』（子どもができて仕事が続ける方がよい）は46.5%、『中断再就職型』（子どもができたらず仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい）34.8%を11.7ポイント上回っています。
- 男女とも70歳以上で『中断再就職型』の回答が4割強となっています。



問24 女性の就業継続について

女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

- 「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」との回答が最も多く、次いで「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する」、「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」となっています。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
4 育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する	355	199	156	16	18	27	36	51	51	6	19	27	26	25	53
6 結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する	319	186	133	16	12	25	34	49	50	8	9	23	24	22	47
3 残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない	301	182	119	15	19	25	34	50	39	9	9	21	21	24	35
5 男性の家事・育児・介護等への参加を促すための啓発をする	151	90	61	3	5	14	22	18	28	2	4	12	10	18	15
1 賃金の男女格差を改める	129	65	64	7	1	10	13	14	20	5	6	5	8	12	28
2 昇進・昇格の男女格差を改める	67	33	34	1	2	5	7	8	10	3	2	1	6	7	15
7 その他	8	6	2	1	1	3	0	1	0	0	1	1	0	0	0

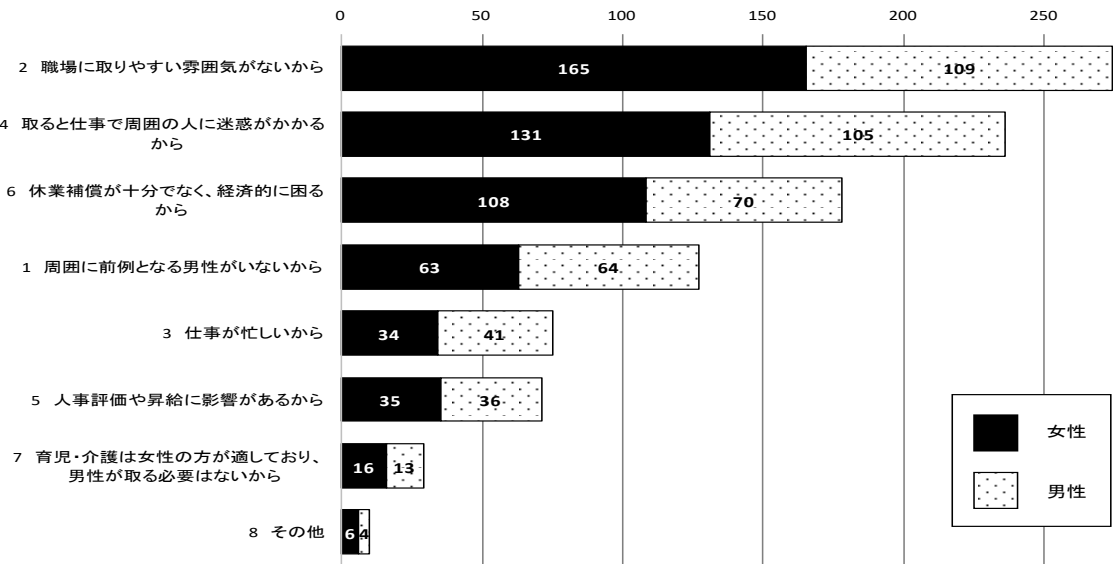
〔その他の意見〕

女性 21～29歳	職場(採用する方)がパートタイムでも採用できるなど理解できる職場がふえる
女性 40～49歳	休みを取りやすくする
女性 40～49歳	3才になるまでの時短ではなく、ずっと子育てはしているので、子育てが終わるまでの時短。
女性 60～69歳	保育園になかなか入れない 病気になった時に預ける所がない
男性 40～49歳	育児休業、休暇をしていない側の金銭的フォローや休みの改善。休みをとる側だけではなく、働いている方にもなにかしてほしい。

問25 男性の育児休業取得について

宮崎県の平成 30 年度の労働条件等実態調査によると育児休業取得率は、女性が 82.7%であるのに対し、男性は 5.6%と低い水準になっています。男性の育児休業取得率が低い理由は何だと思いますか。（〇は2つまで）

- 「職場に取りやすい雰囲気がないから」との回答が最も多く、次いで「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」、「休業補償が十分でなく、経済的に困るから」となっています。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
2 職場に取りやすい雰囲気がないから	274	165	109	12	13	23	34	41	42	6	12	16	14	23	38
4 取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから	236	131	105	9	9	20	26	29	38	7	4	19	21	20	34
6 休業補償が十分でなく、経済的に困るから	178	108	70	6	6	16	17	33	30	5	5	10	10	19	21
1 周囲に前例となる男性がいないから	127	63	64	8	9	10	15	12	9	5	9	13	12	8	17
3 仕事が忙しいから	75	34	41	3	1	7	8	8	7	1	2	6	9	7	16
5 人事評価や昇給に影響があるから	71	35	36	2	5	3	5	8	12	1	4	4	2	7	18
7 育児・介護は女性の方が適しており、男性が取る必要はないから	29	16	13	1	0	2	3	4	6	0	1	1	2	2	7
8 その他	10	6	4	1	1	2	1	1	0	0	0	2	2	0	0

【その他の意見】

女性 21～29歳	育児に参加しないから、男の方の給料がよいから、女より男が働いた方が生計がなりたつ。
女性 40～49歳	仕事の方が楽だから
女性 40～49歳	男性が育児を女性まかせ
女性 50～59歳	男性が取得しても役割をになえない
男性 40～49歳	・金がないから ・子供で休みをとるとの考え方がまるでない。 ・しょせん上司による。会社側の育児休業の考えが無い。
男性 40～49歳	育休がない
男性 50～59歳	私はとりたかったが妻が自分が休みたいので許してくれなかった。
男性 50～59歳	男は仕事女は家庭といったような時代遅れの環境等においては、どうも、男が育児休業を取ると差別を受けかねない。

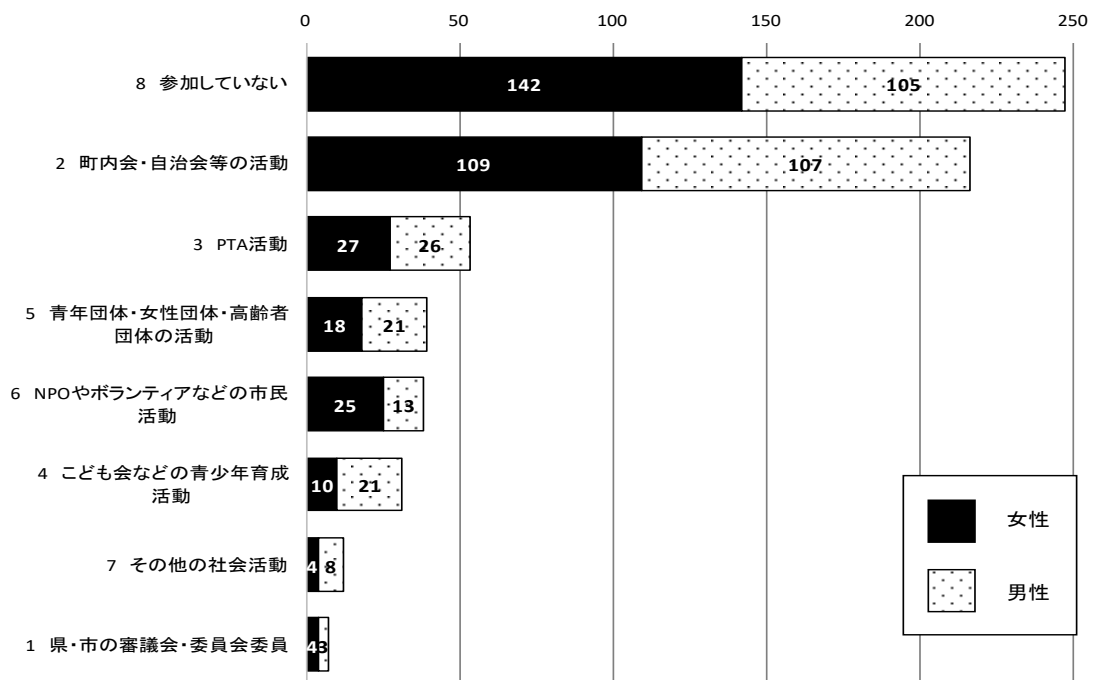
5 地域活動について

問26 地域活動への参加

あなたは次のような活動をしていますか。

(○はいくつでも)

- 「参加していない」と回答した人は、女性 142 人、男性 105 人で、全体 551 人の 44.8%を占めています。
- 活動内容で最も多いのは、男女ともに「町内会・自治会等の活動」となっています。



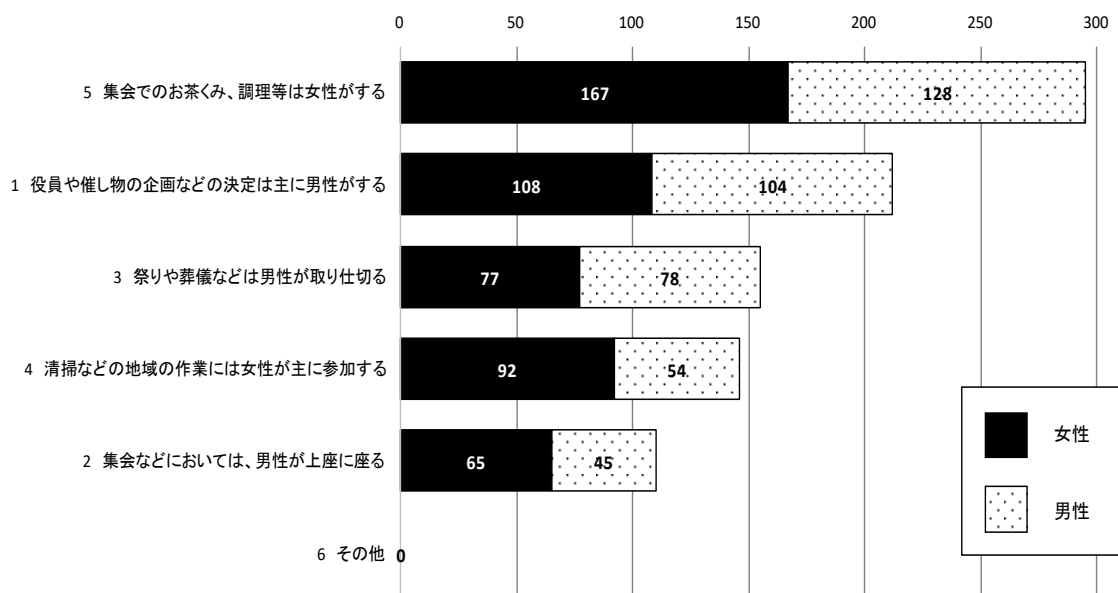
	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
8 参加していない	247	142	105	18	15	17	24	34	34	9	13	16	13	20	34
2 町内会・自治会等の活動	216	109	107	2	1	12	23	34	37	2	6	11	21	26	41
3 PTA活動	53	27	26	1	5	14	6	0	1	0	4	11	8	0	3
5 青年団体・女性団体・高齢者団体の活動	39	18	21	1	0	2	0	5	10	1	2	1	2	1	14
6 NPOやボランティアなどの市民活動	38	25	13	3	2	2	6	5	7	1	0	4	3	2	3
4 こども会などの青少年育成活動	31	10	21	0	3	4	1	2	0	1	2	6	4	4	4
7 その他の社会活動	12	4	8	0	0	0	0	1	3	0	1	1	1	1	4
1 県・市の審議会・委員会委員	7	4	3	1	0	1	0	1	1	0	0	0	2	1	0

問27 地域社会での慣習等

あなたの地域では次のようなことがありますか。

(○はいくつでも)

- 「集会でのお茶くみ、調理等は女性がする」、「役員や催し物の企画などの決定は主に男性がする」と、男女とも多く回答しています。



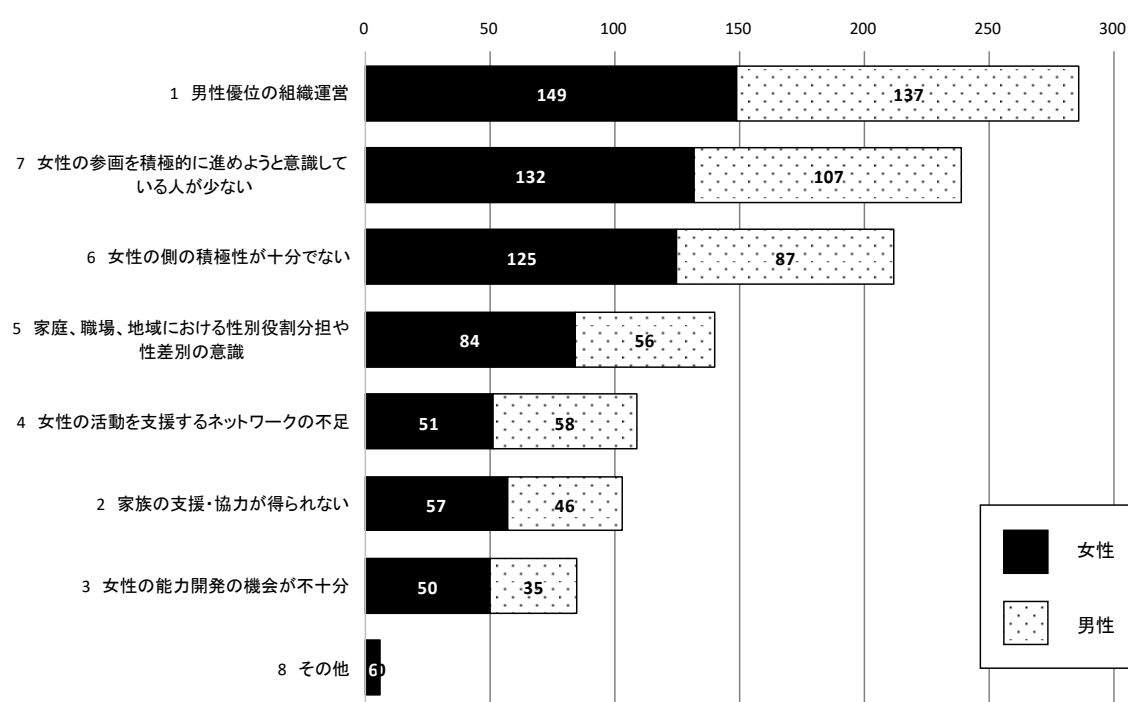
	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
5 集会でのお茶くみ、調理等は女性がする	295	167	128	5	15	17	29	52	49	3	14	15	21	25	50
1 役員や催し物の企画などの決定は主に男性がする	212	108	104	4	7	10	21	37	29	2	6	13	18	24	41
3 祭りや葬儀などは男性が取り仕切る	155	77	78	7	6	6	15	24	19	2	4	14	13	15	30
4 清掃などの地域の作業には女性が主に参加する	146	92	54	5	11	10	12	28	26	2	1	3	7	15	26
2 集会などにおいては、男性が上座に座る	110	65	45	3	5	5	14	21	17	3	3	4	10	9	16
6 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

6 政策決定への参画について

問28 政策の企画・方針決定に関する意識

近年、女性の社会進出は進みつつあるものの、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等にはまだ女性が少ないのが現状です。このような政治や行政における政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。（〇は3つまで）

- 「男性優位の組織運営」、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」、「女性の側の積極性が十分でない」と、男女ともに多く回答しています。



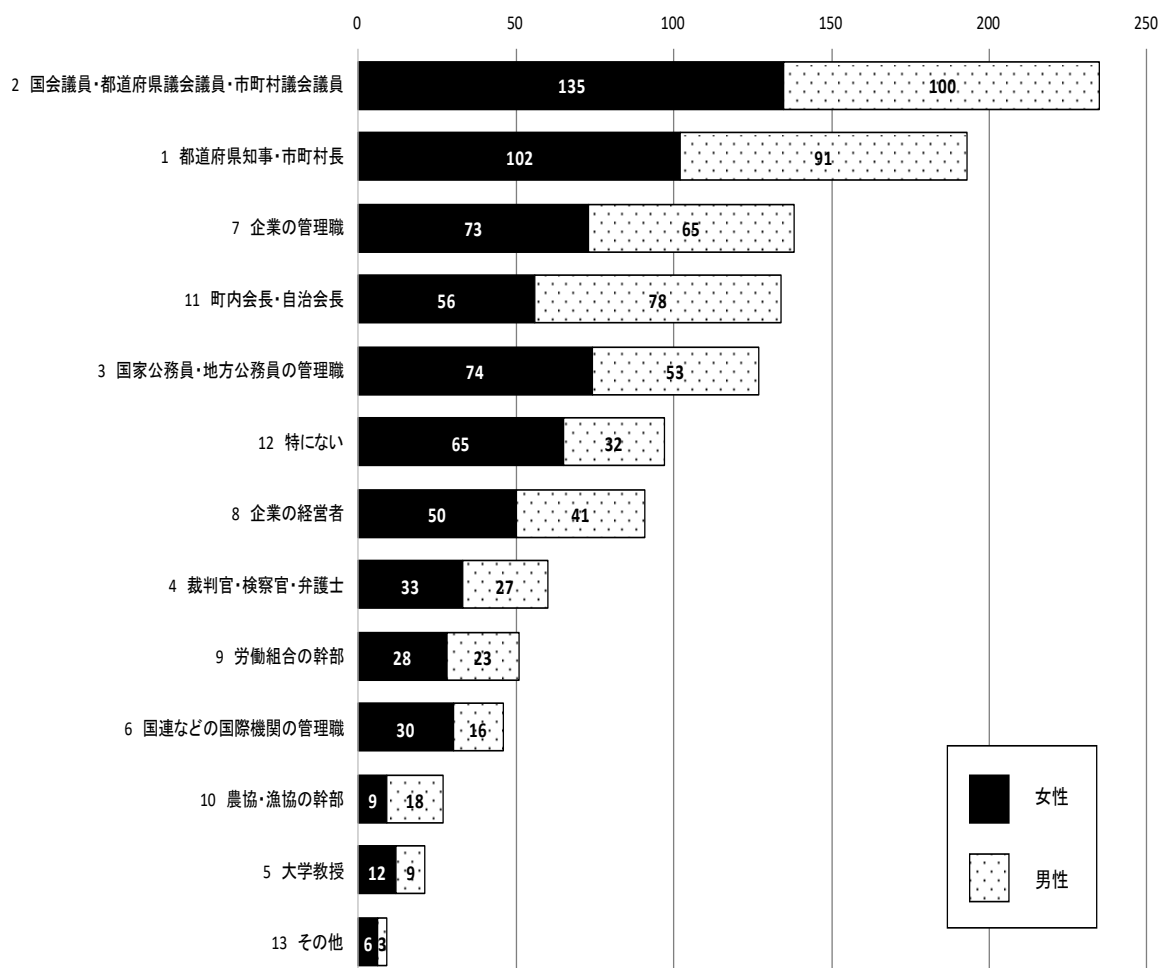
【その他の意見】

女性 40～49歳	家事などがあるのでやろうと思う人は少ないと思う
女性 40～49歳	女性には不向き
女性 40～49歳	慣習
女性 40～49歳	男女平等の考えの方が年齢的に少ない

問29 女性の社会参画

政策・方針決定にかかわる役職において、あなたはどのような分野に女性が増える方がよいと思いますか。
(〇は3つまで)

- 「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」、「都道府県知事・市町村長」と、男女ともに多く回答しています。



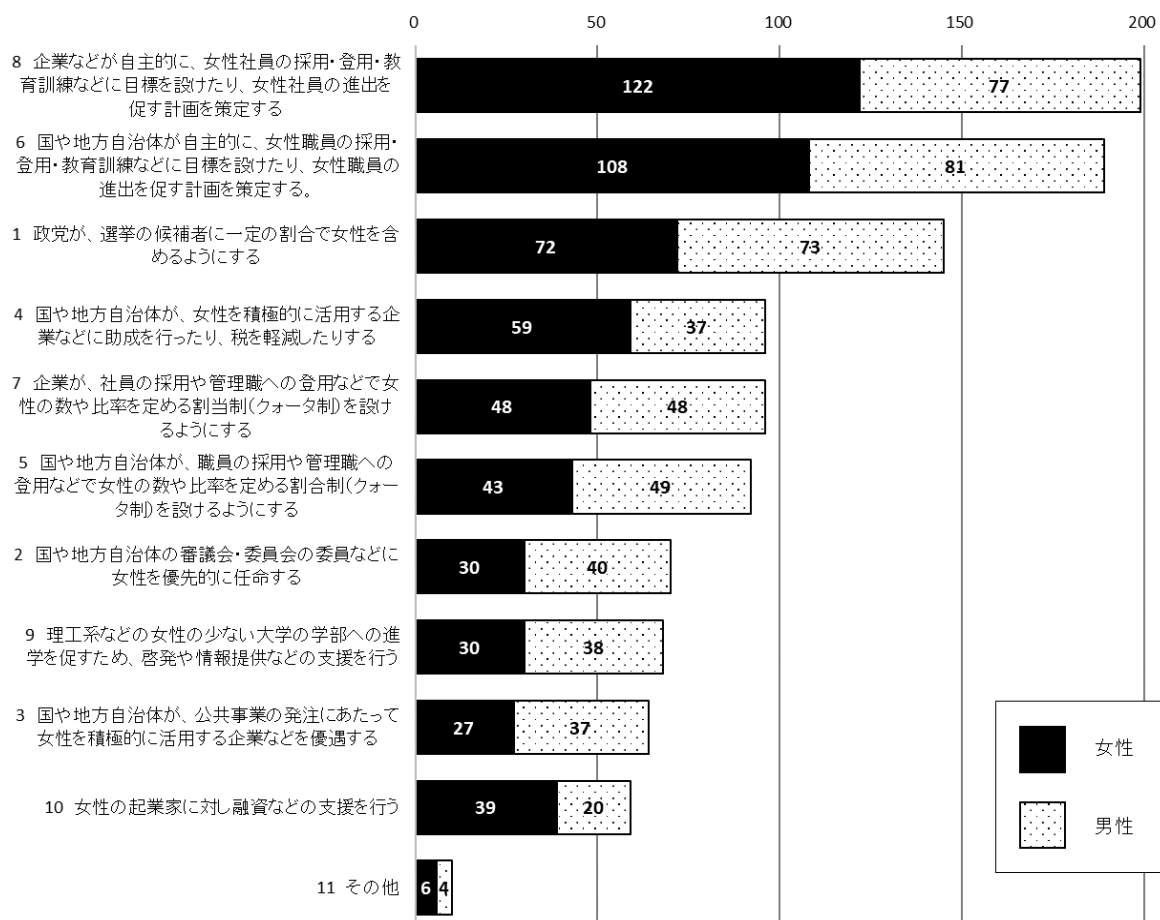
〔その他の意見〕

女性 40～49歳	PTA会長
男性 50～59歳	肉体労働者、自衛官、消防職員

問30 女性の社会進出のために必要な措置

女性があまり進出していない分野に女性の進出を進めていくために、どのような措置をとるのがよいと思いますか。
(〇は3つまで)

- 「企業（国や地方自治体）などが主体的に、女性社員（職員）の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性社員（職員）の進出を促す計画を策定する」と、男女ともに多く回答しています。



〔その他の意見〕

女性 30～39歳	男性、女性関係なく一人の人間として見る
女性 30～39歳	男性が多いイメージの仕事の情報提供をしたり、女性でも職に就いている人を取り上げたりして、だれでもどの仕事に就ける、目指せる、と言うことを伝えていく。
女性 40～49歳	男女の賃金が平等になり、地域間の賃金差も平等になること。
女性 50～59歳	女性が進出しなくても意見の通る環境になってほしい
女性 60～69歳	能力のある女性を大切に育て活用する
女性 80歳～	男が自分の“能力”を認めること
男性 30～39歳	人事権を与える
男性 40～49歳	女性ががんばらないとどうしようもない。
男性 50～59歳	社会制度は男性側からも平等であるべき

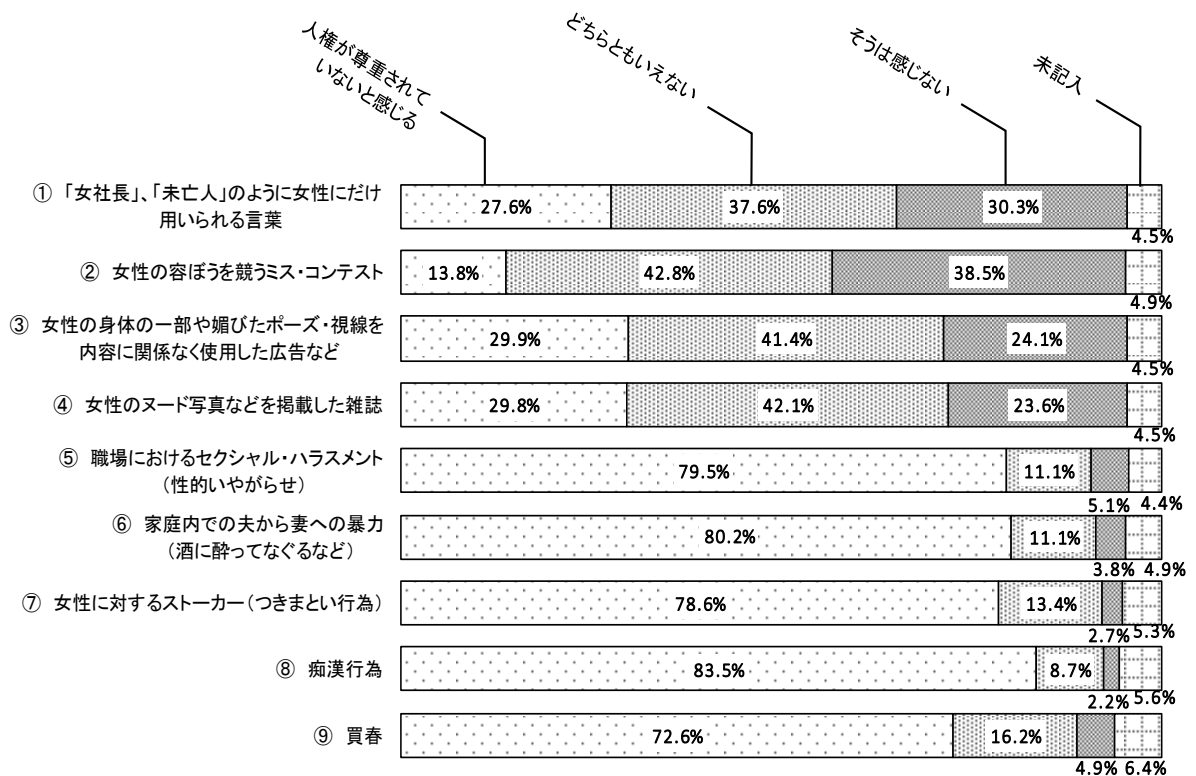
7 人権への配慮について

問31 女性の人権への意識

あなたは次の①～⑨にあげる事柄について、女性の人権が尊重されていないと感じますか。

(○はそれぞれひとつずつ)

- 「職場におけるセクシャル・ハラスメント」、「家庭内での夫から妻への暴力」、「女性に対するストーカー」、「痴漢行為」、「買春」については、8割前後の人が、人権が尊重されていないと感じています。

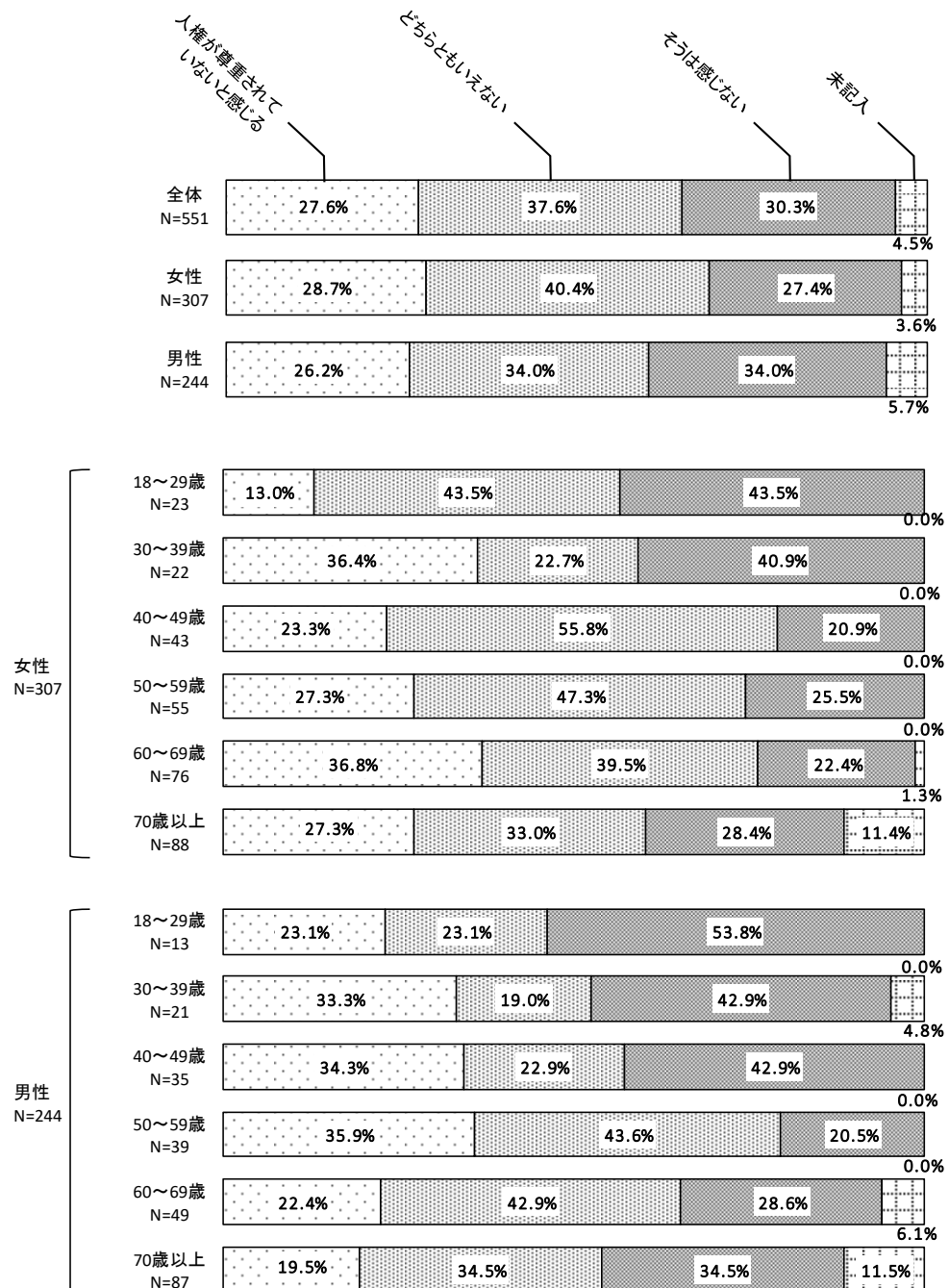


	人権が尊重されていないと感じる	どちらともいえない	そうは感じない	未記入	計
① 「女社長」、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉	152 27.6%	207 37.6%	167 30.3%	25 4.5%	551 100.0%
② 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト	76 13.8%	236 42.8%	212 38.5%	27 4.9%	551 100.0%
③ 女性の身体の一部や媚びたポーズ・視線を内容に関係なく使用した広告など	165 29.9%	228 41.4%	133 24.1%	25 4.5%	551 100.0%
④ 女性のヌード写真などを掲載した雑誌	164 29.8%	232 42.1%	130 23.6%	25 4.5%	551 100.0%
⑤ 職場におけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)	438 79.5%	61 11.1%	28 5.1%	24 4.4%	551 100.0%
⑥ 家庭内での夫から妻への暴力(酒に酔ってなぐるなど)	442 80.2%	61 11.1%	21 3.8%	27 4.9%	551 100.0%
⑦ 女性に対するストーカー(つきまとい行為)	433 78.6%	74 13.4%	15 2.7%	29 5.3%	551 100.0%
⑧ 痴漢行為	460 83.5%	48 8.7%	12 2.2%	31 5.6%	551 100.0%
⑨ 買春	400 72.6%	89 16.2%	27 4.9%	35 6.4%	551 100.0%

① 「女社長」、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉

～ 人権が尊重されていないと感じる人が 2 割強 ～

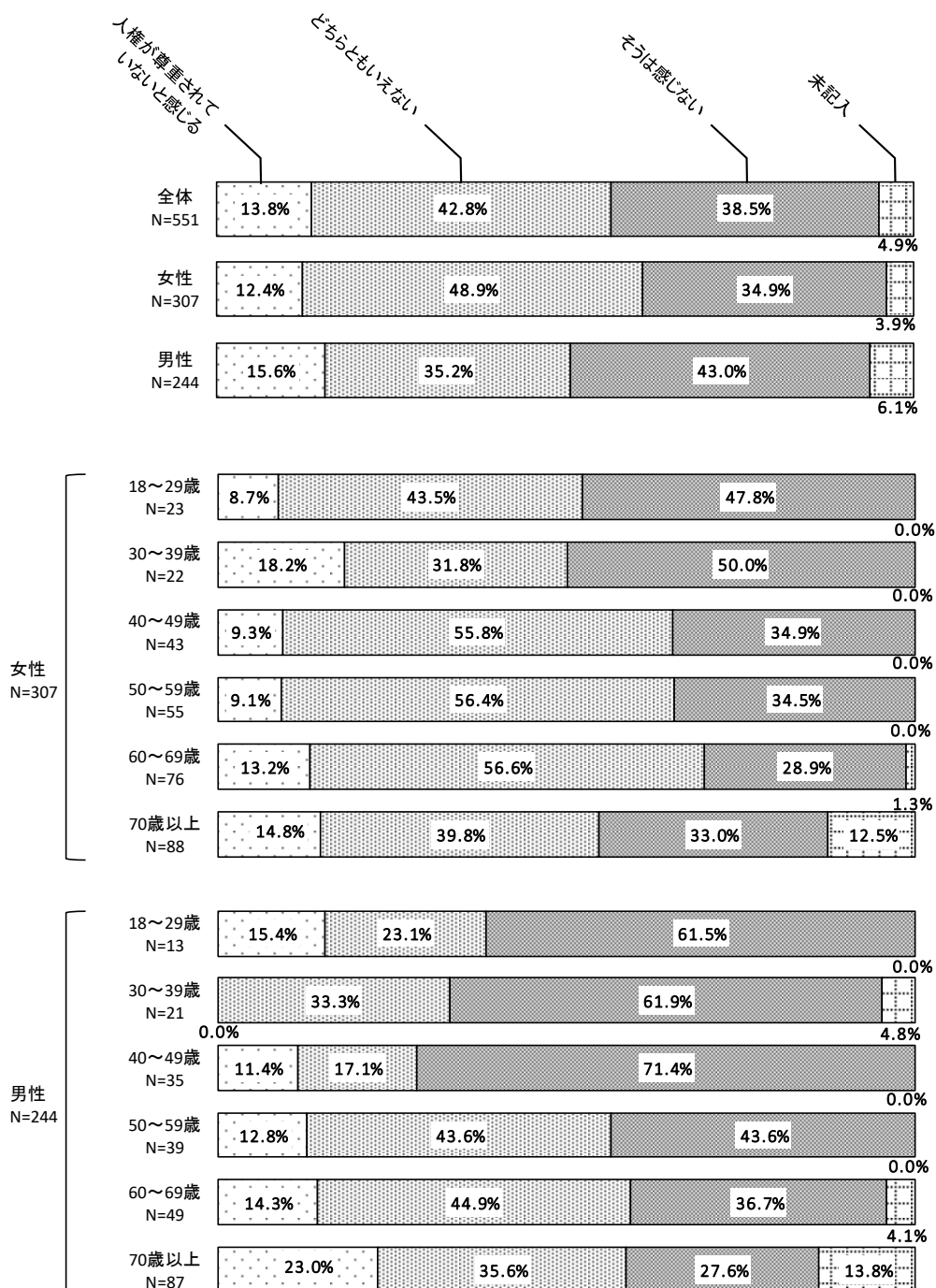
- 「そうは感じない」と回答した人の割合は、女性では 18～29 歳と 30 歳代、男性では 18～29 歳と 30 歳代、40 歳代が 4 割を超えています。



② 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト

～ 人権が尊重されていないと感じる人が1割強 ～

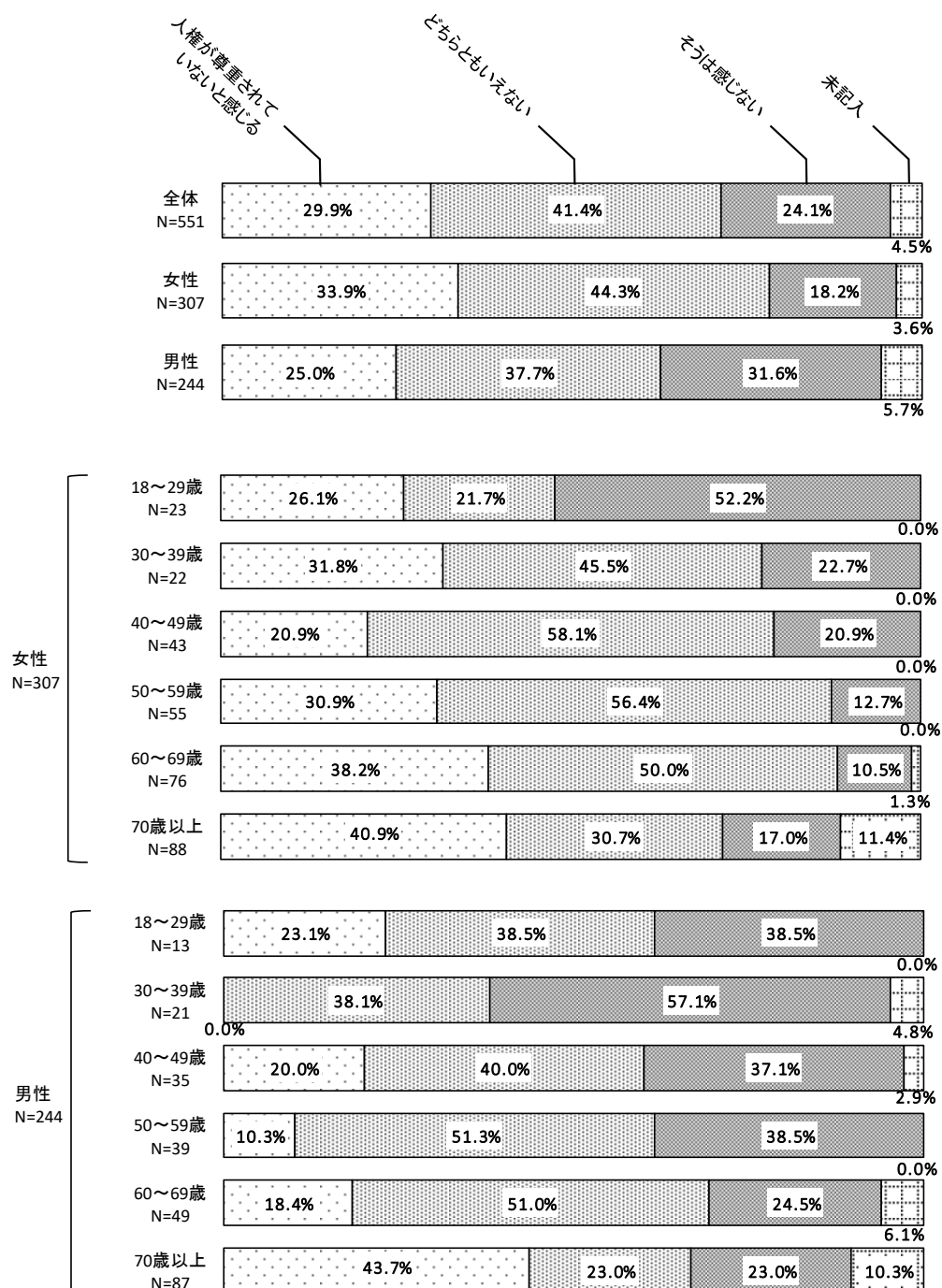
- 「そうは感じない」と回答した人の割合は、女性では18～29歳と30歳代が約5割、男性では18～29歳と30歳代、40歳代が6～7割になっています。



③ 女性の身体の一部や媚びたポーズ・視線を内容の関係なく使用した広告など

～ 人権が尊重されていないと感じる人が3割弱 ～

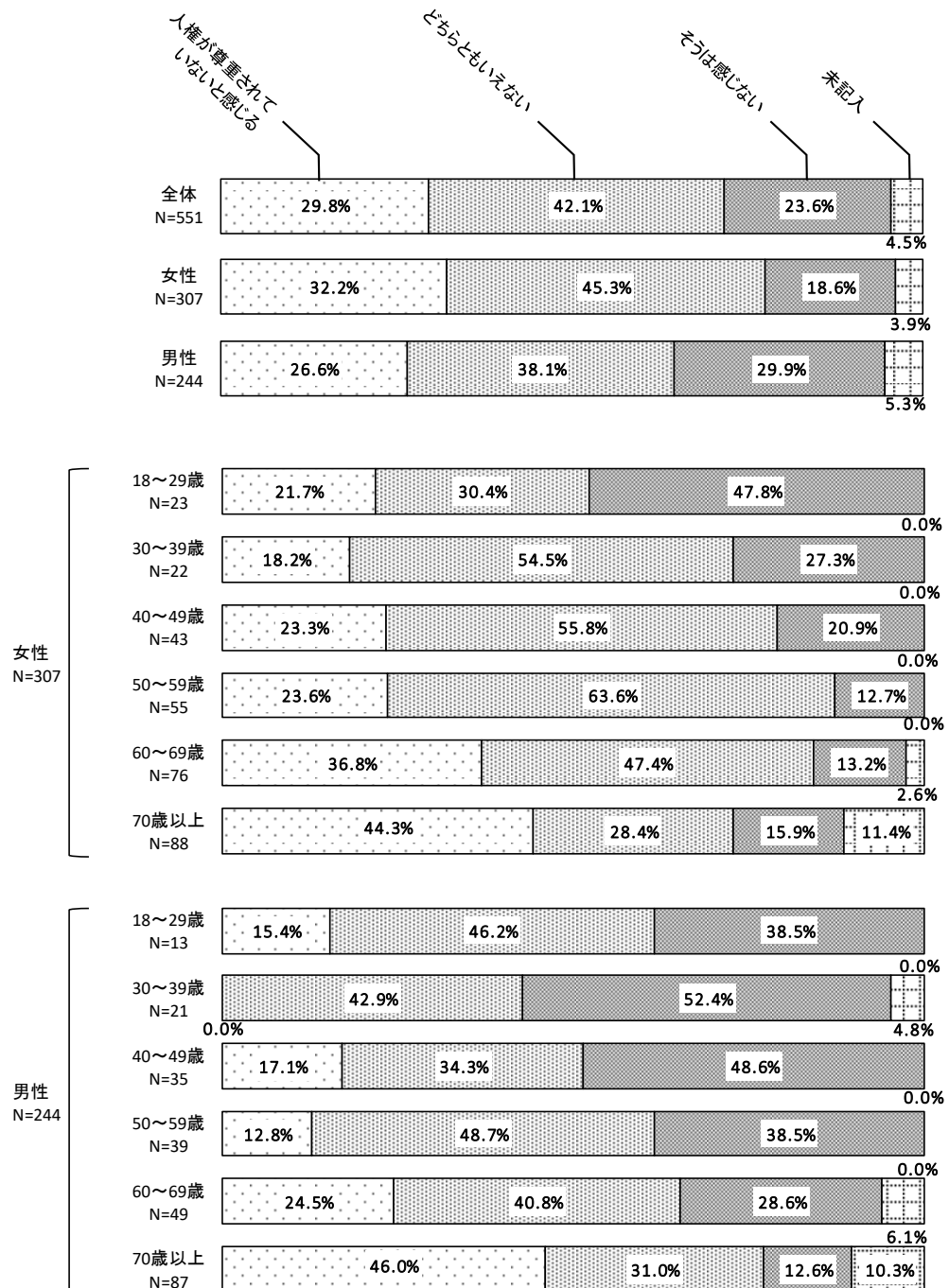
○ 「そうは感じない」と回答した人の割合は、女性では18～29歳、男性では30歳代で高く、5割を超えています。



④ 女性のヌード写真などを掲載した雑誌

～ 人権が尊重されていないと感じる人が3割弱 ～

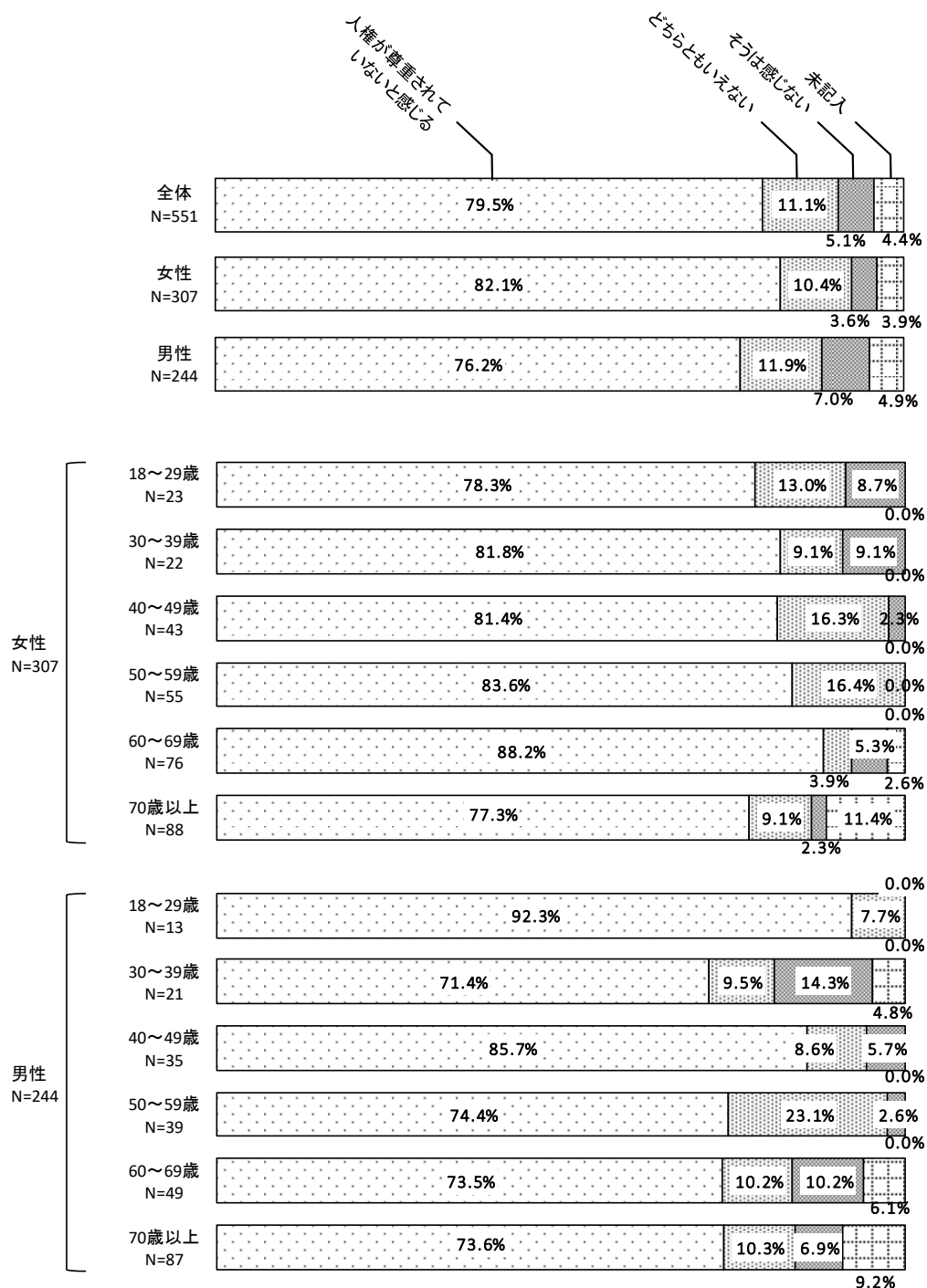
- 「そうは感じない」と回答した人の割合は、女性では18～29歳、男性では30歳代と40歳代で高くなっています。



⑤ 職場におけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)

～ 人権が尊重されていないと感じる人が8割弱 ～

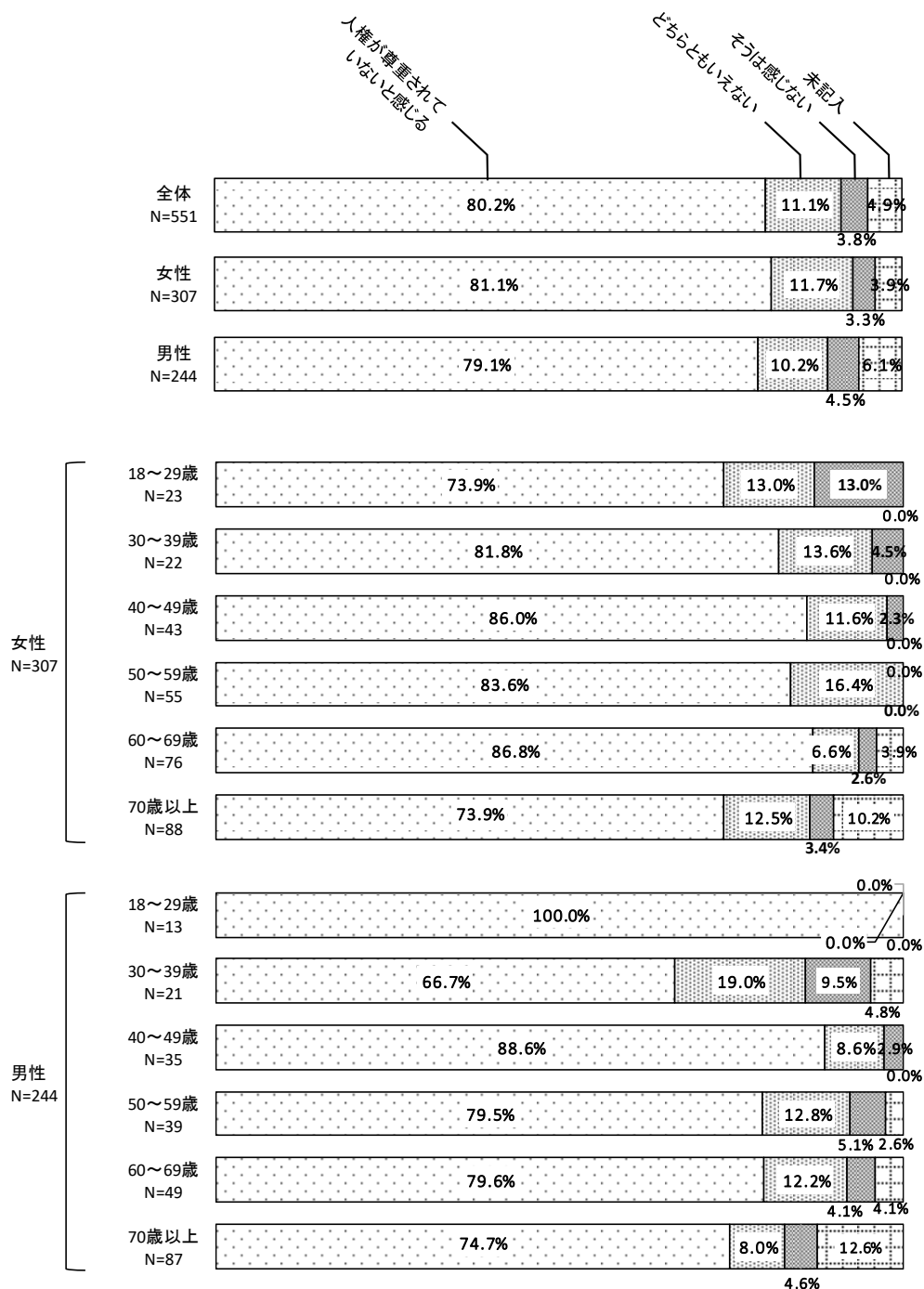
- 「人権が尊重されていないと感じる」と回答した人の割合は、男女ともにすべての年代で高くなっています。



⑥ 家庭内での夫から妻への暴力(酒に酔ってなぐるなど)

～ 人権が尊重されていないと感じる人が8割 ～

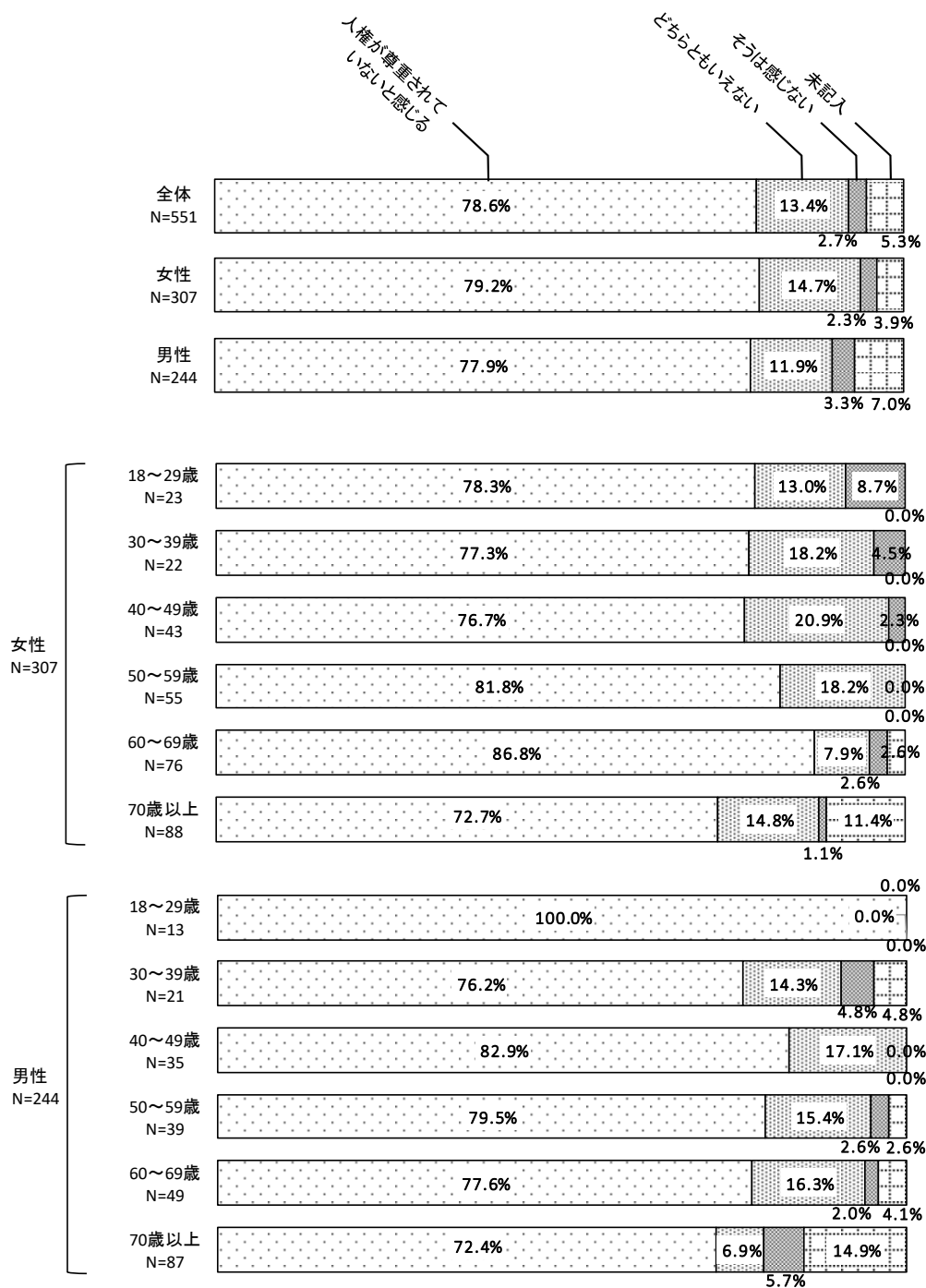
- 「人権が尊重されていないと感じる」と回答した人の割合は、男女ともにすべての年代で高くなっています。



⑦ 女性に対するストーカー(つきまとい行為)

～ 人権が尊重されていないと感じる人が8割弱 ～

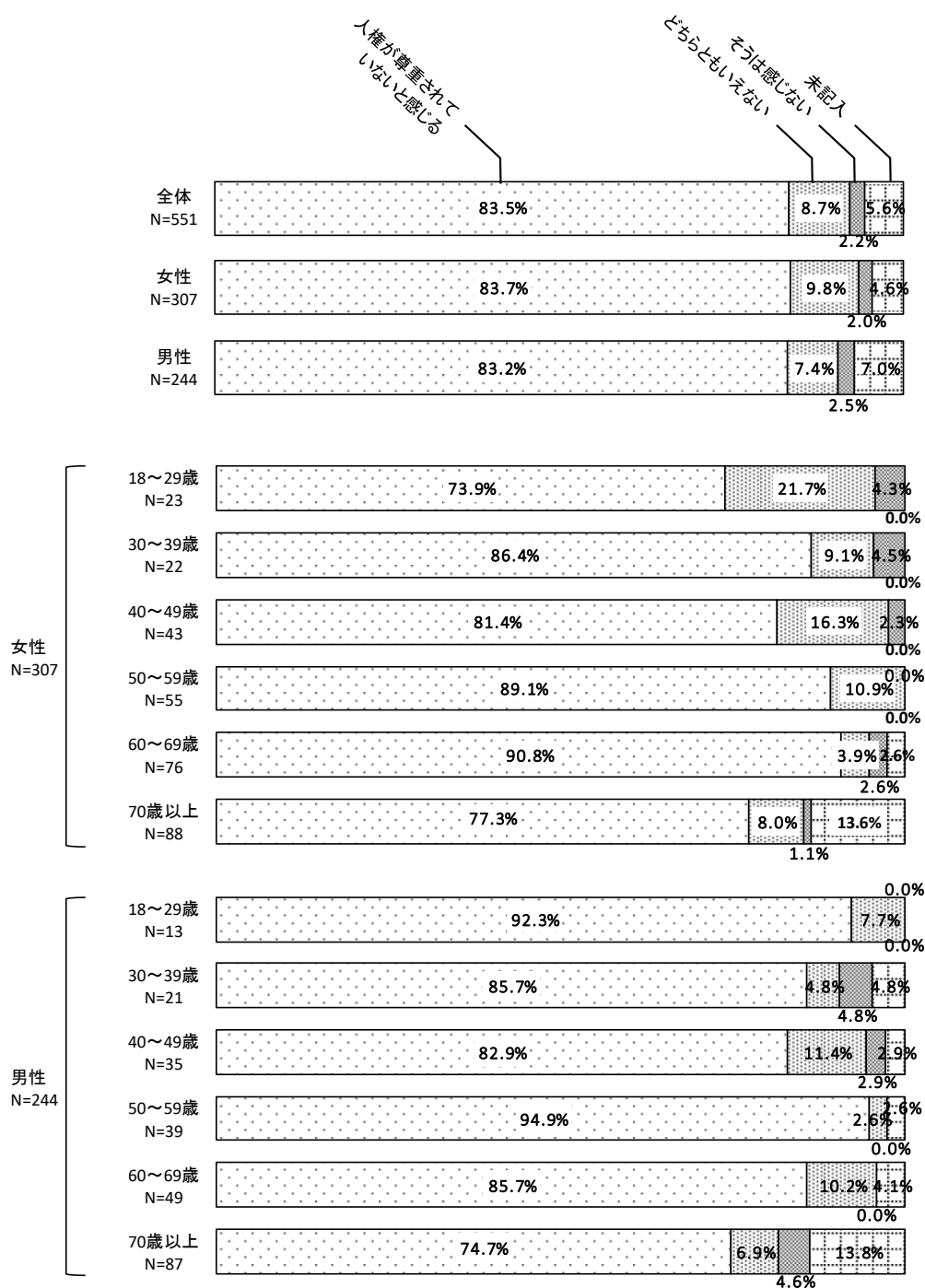
○ 「人権が尊重されていないと感じる」と回答した人の割合は、男女ともにすべての年代で高くなっています。



⑧ 痴漢行為

～ 人権が尊重されていないと感じる人が8割強 ～

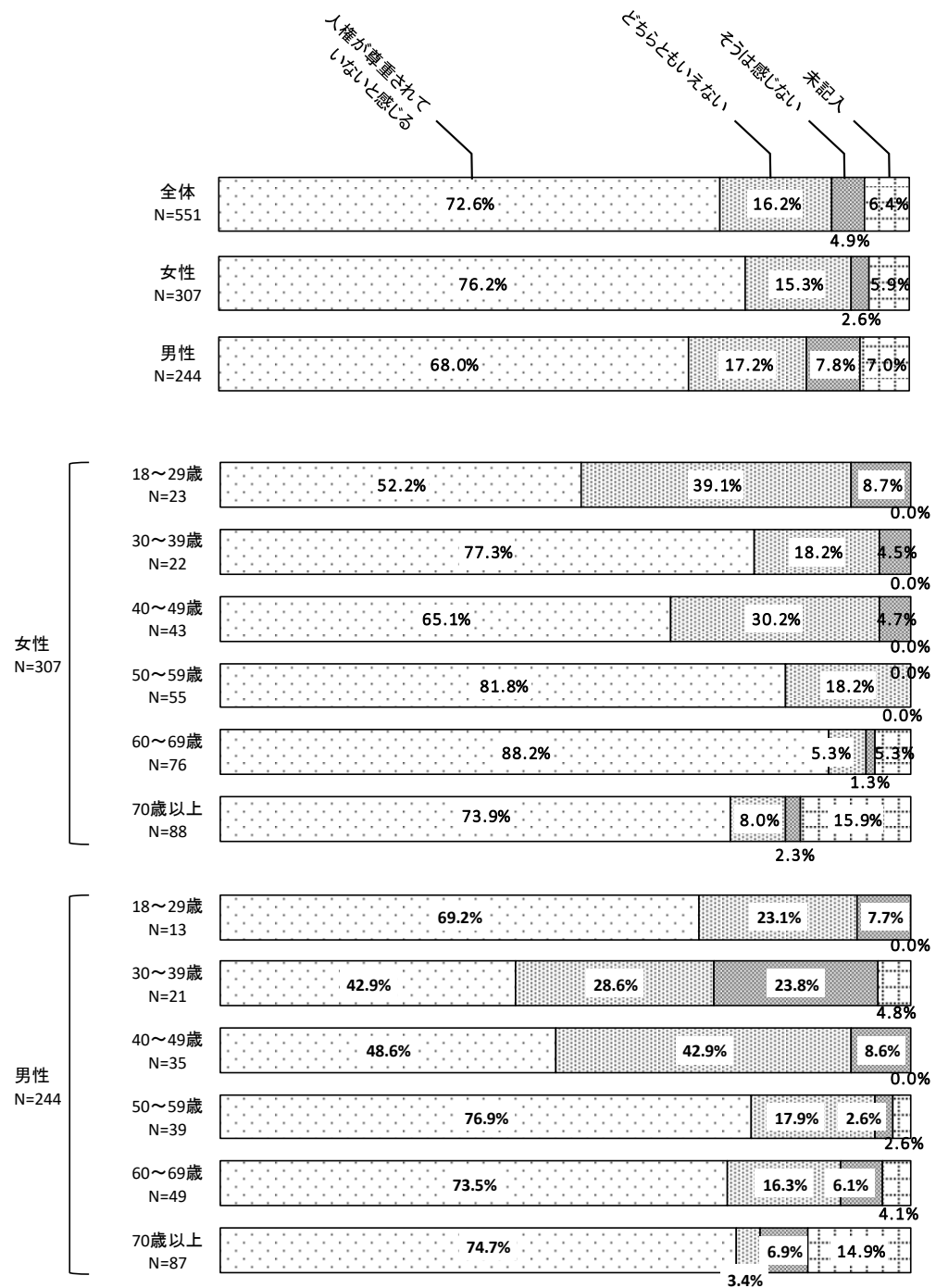
○ 「人権が尊重されていないと感じる」と回答した人の割合は、男女ともにすべての年代で高くなっています。



⑨ 買春

～ 人権が尊重されていないと感じる人が7割強 ～

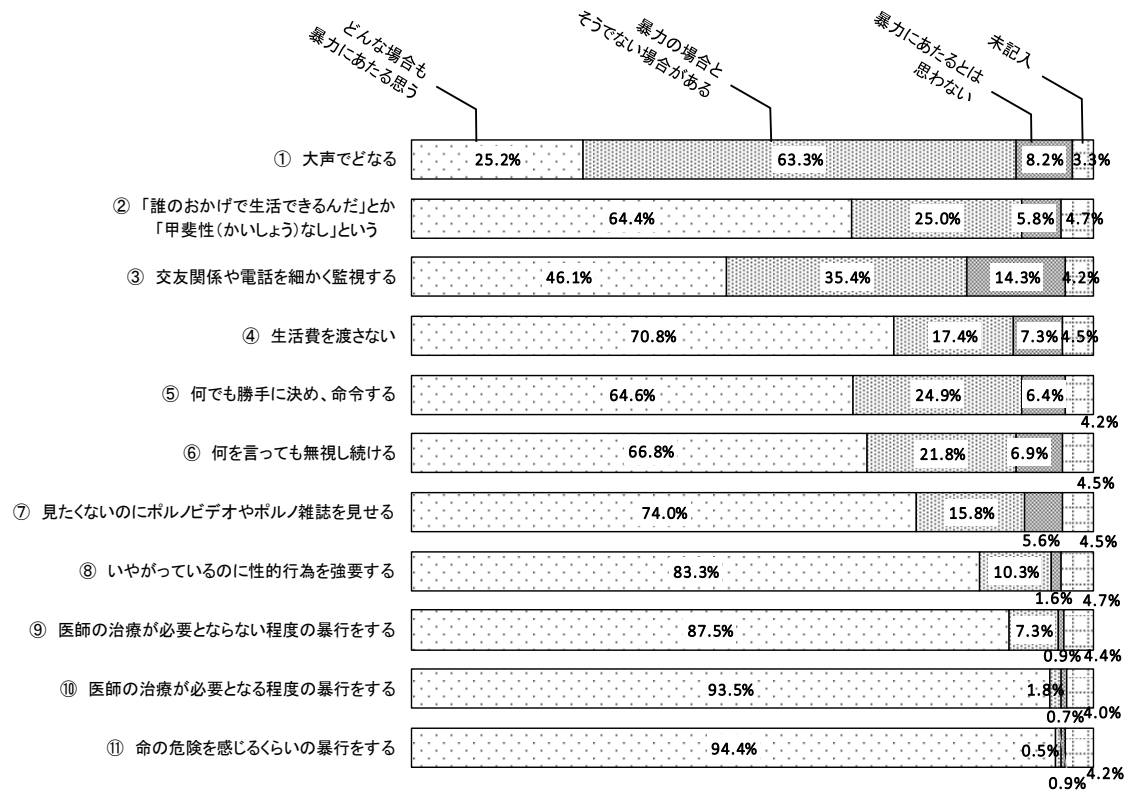
- 「人権が尊重されていないと感じる」と回答した人の割合は、男性の30歳代、40歳代で他の年代より低い傾向にあります。



問32 配偶者等からの暴力に対する意識

あなたは、あなたの夫や妻又は恋人が、次の①～⑪のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。
(○はそれぞれひとつずつ)

○ 暴行や性的行為の強要など身体におよぶ行為については、「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合は、8割～9割以上になっています。

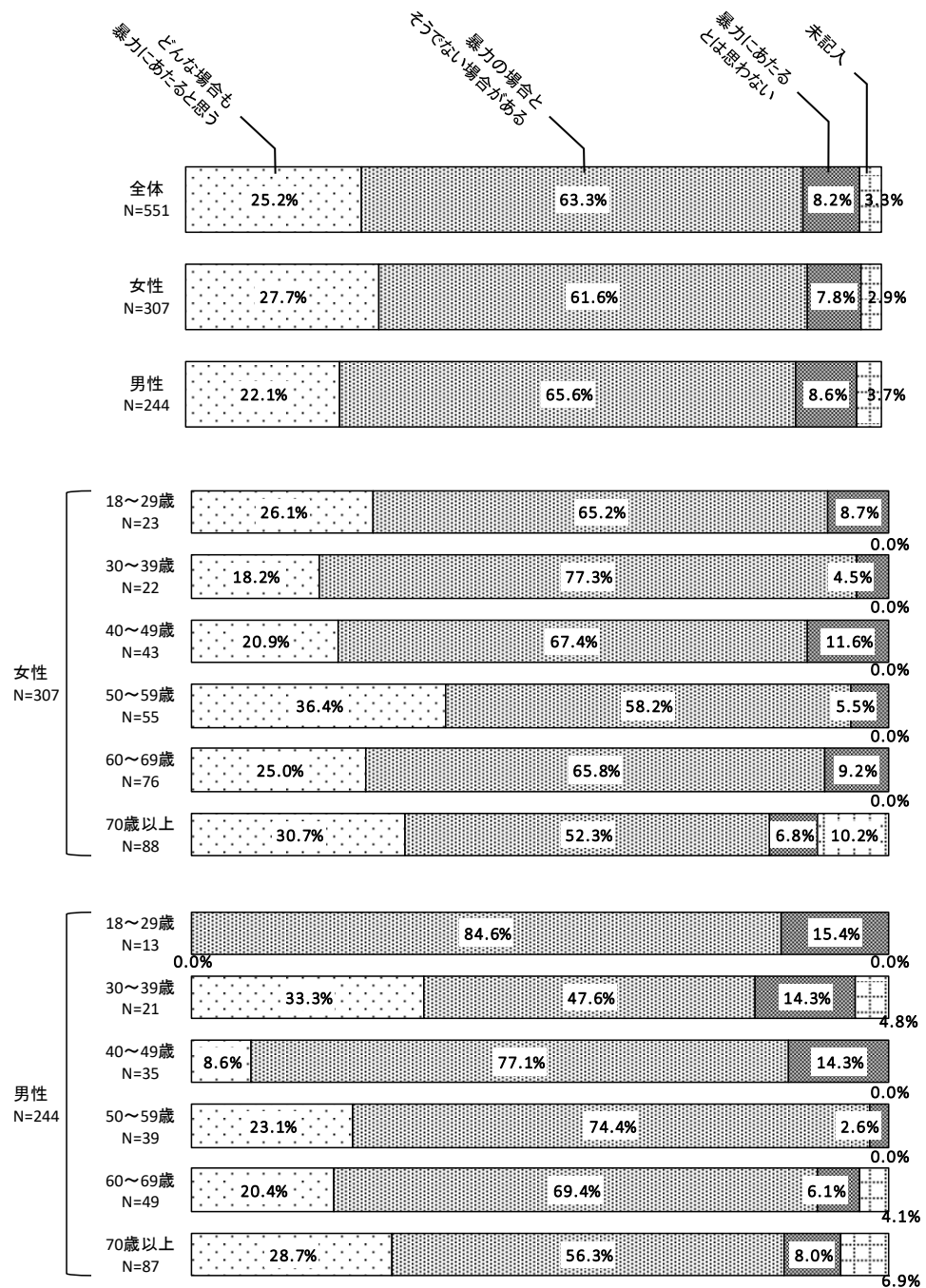


	どんな場合も暴力にあたると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	未記入	計
① 大声でどなる	139 25.2%	349 63.3%	45 8.2%	18 3.3%	551 100.0%
② 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性(かいしょう)なし」という	355 64.4%	138 25.0%	32 5.8%	26 4.7%	551 100.0%
③ 交友関係や電話を細かく監視する	254 46.1%	195 35.4%	79 14.3%	23 4.2%	551 100.0%
④ 生活費を渡さない	390 70.8%	96 17.4%	40 7.3%	25 4.5%	551 100.0%
⑤ 何でも勝手に決め、命令する	356 64.6%	137 24.9%	35 6.4%	23 4.2%	551 100.0%
⑥ 何を言っても無視し続ける	368 66.8%	120 21.8%	38 6.9%	25 4.5%	551 100.0%
⑦ 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	408 74.0%	87 15.8%	31 5.6%	25 4.5%	551 100.0%
⑧ いやがっているのに性的行為を強要する	459 83.3%	57 10.3%	9 1.6%	26 4.7%	551 100.0%
⑨ 医師の治療が必要とならない程度の暴行をする	482 87.5%	40 7.3%	5 0.9%	24 4.4%	551 100.0%
⑩ 医師の治療が必要となる程度の暴行をする	515 93.5%	10 1.8%	4 0.7%	22 4.0%	551 100.0%
⑪ 命の危険を感じるくらいの暴行をする	520 94.4%	5 0.9%	3 0.5%	23 4.2%	551 100.0%

① 大声でどなる

～ 暴力の場合とそうでない場合があると思う人が 6 割強 ～

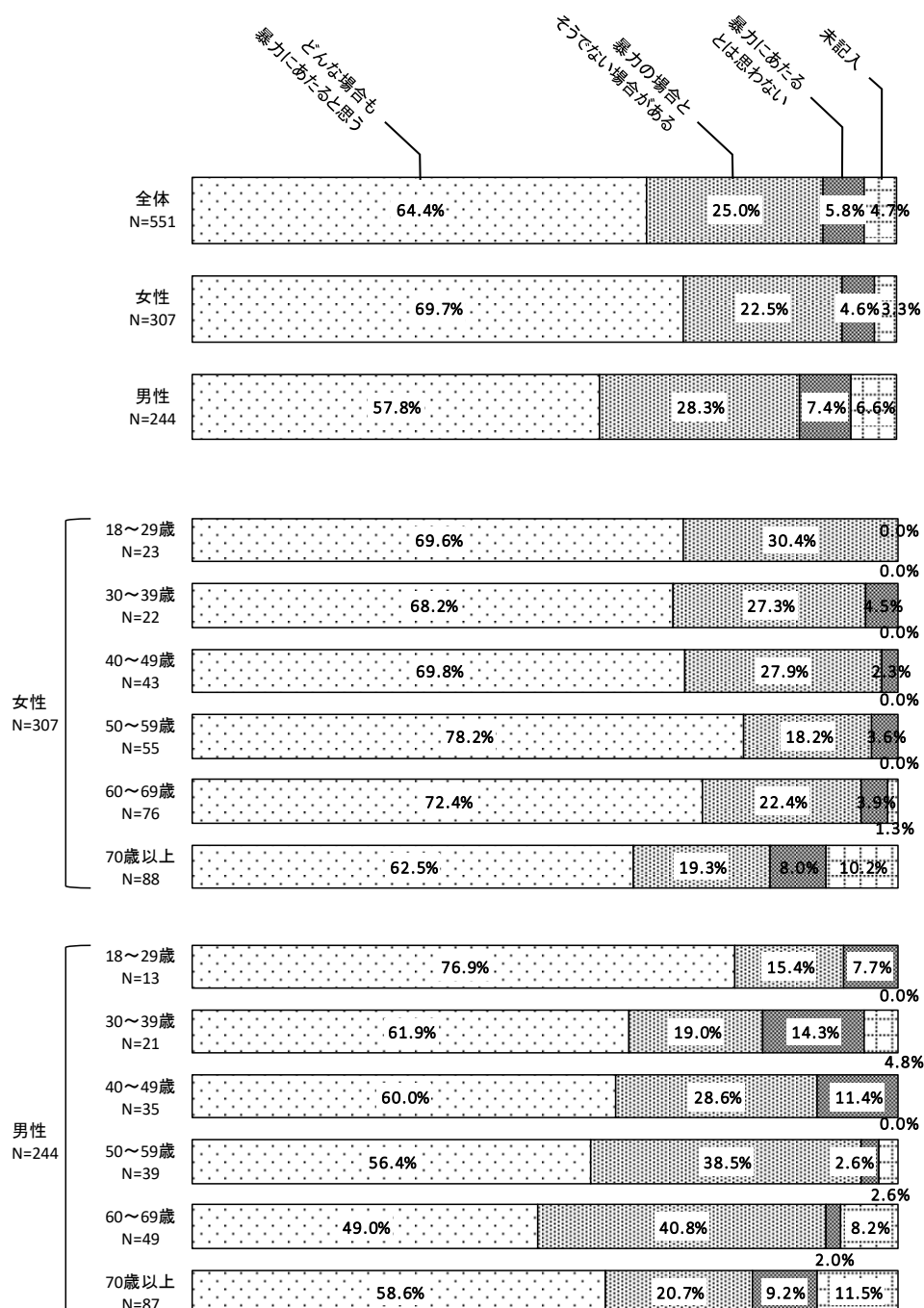
○ 男女ともどの年代でも「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が高くなっています。



② 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性(かいしょう)なし」という

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が 6 割強 ～

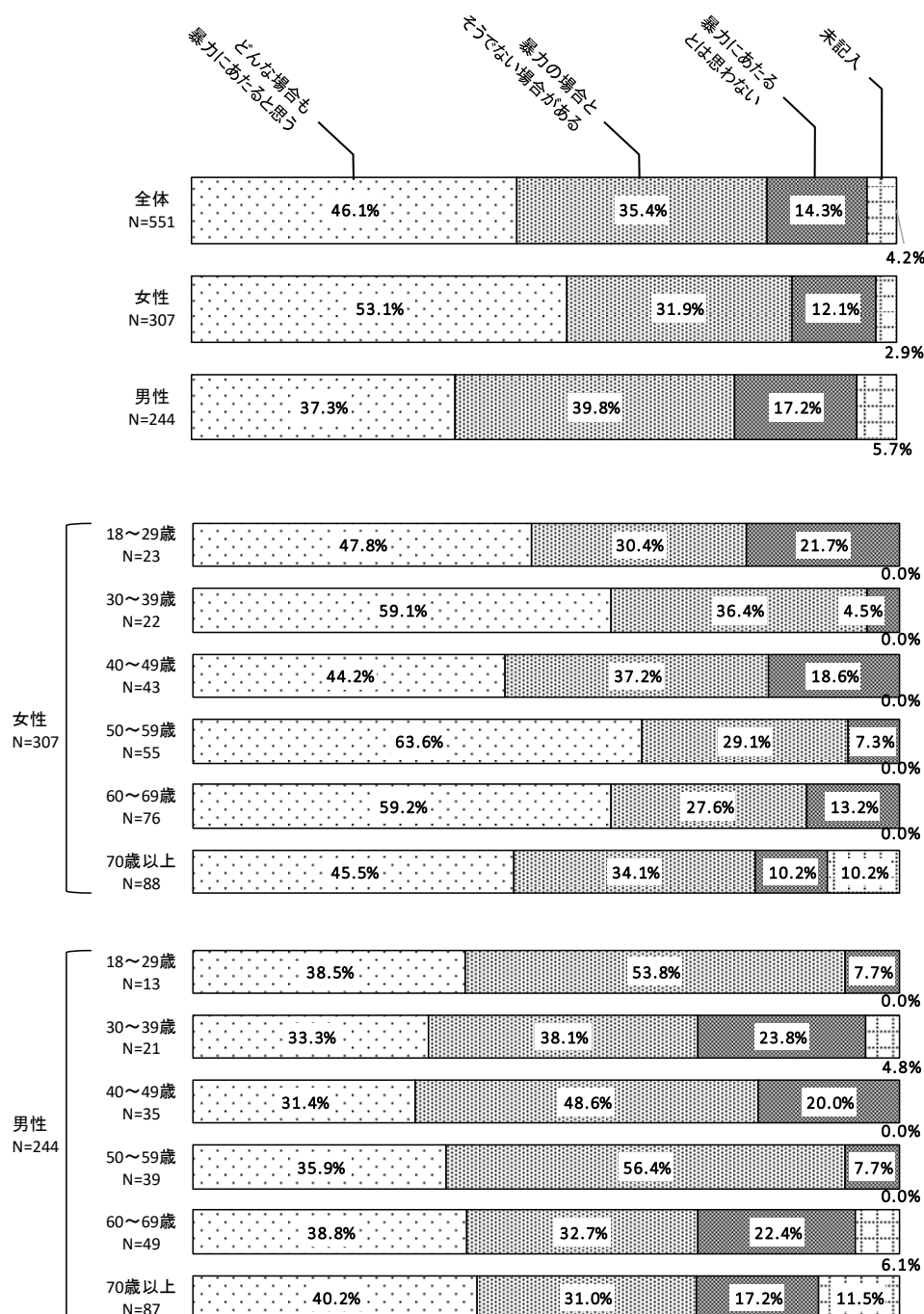
- 「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、女性では 69.7%、男性では 57.8%と、11.9 ポイントの差があります。



③ 交友関係や電話を細かく監視する

～ 暴力にあたると思わない人が1割強 ～

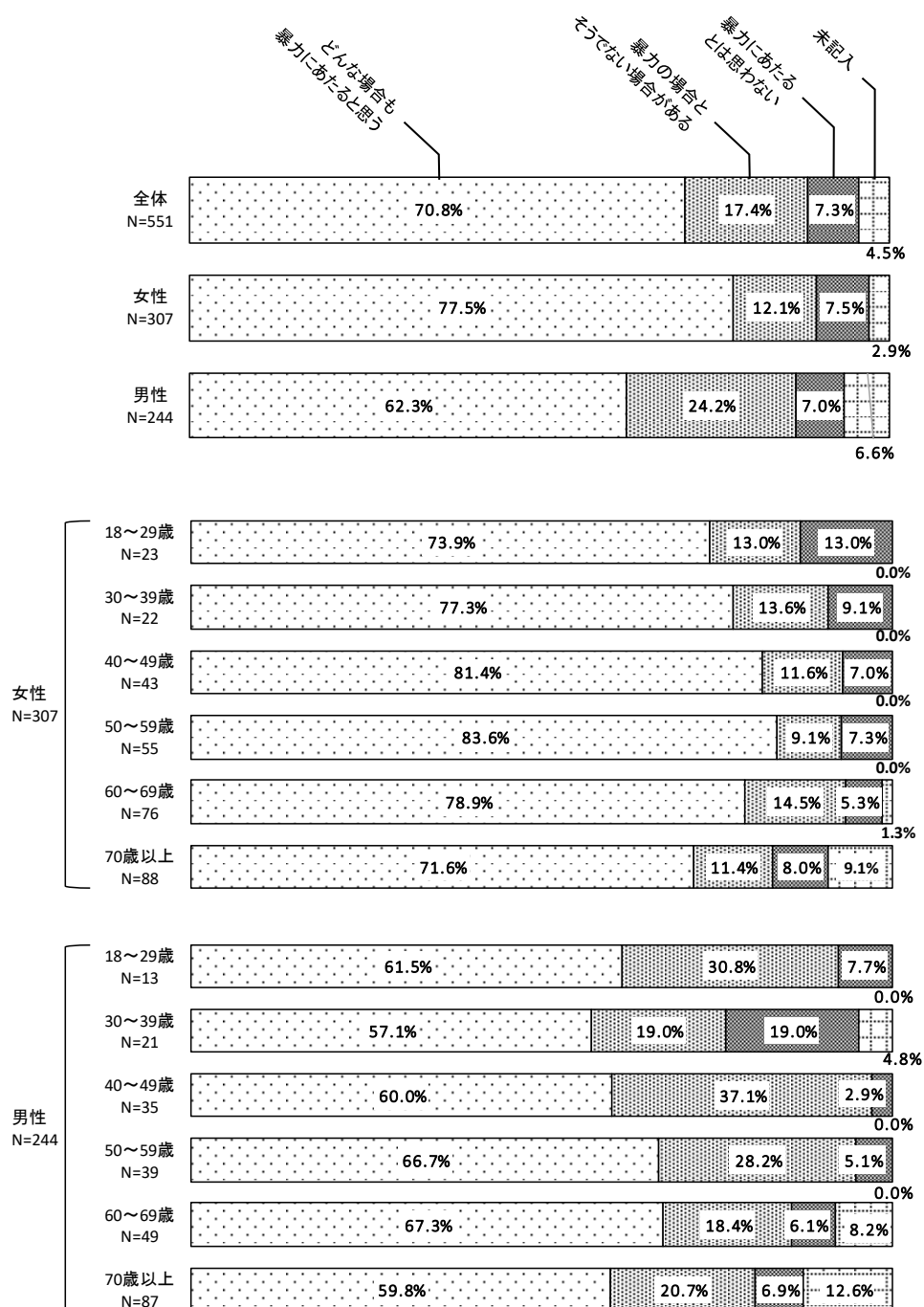
- 「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、女性では53.1%、男性では37.3%と、15.8ポイントの差があります。



④ 生活費を渡さない

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が7割強 ～

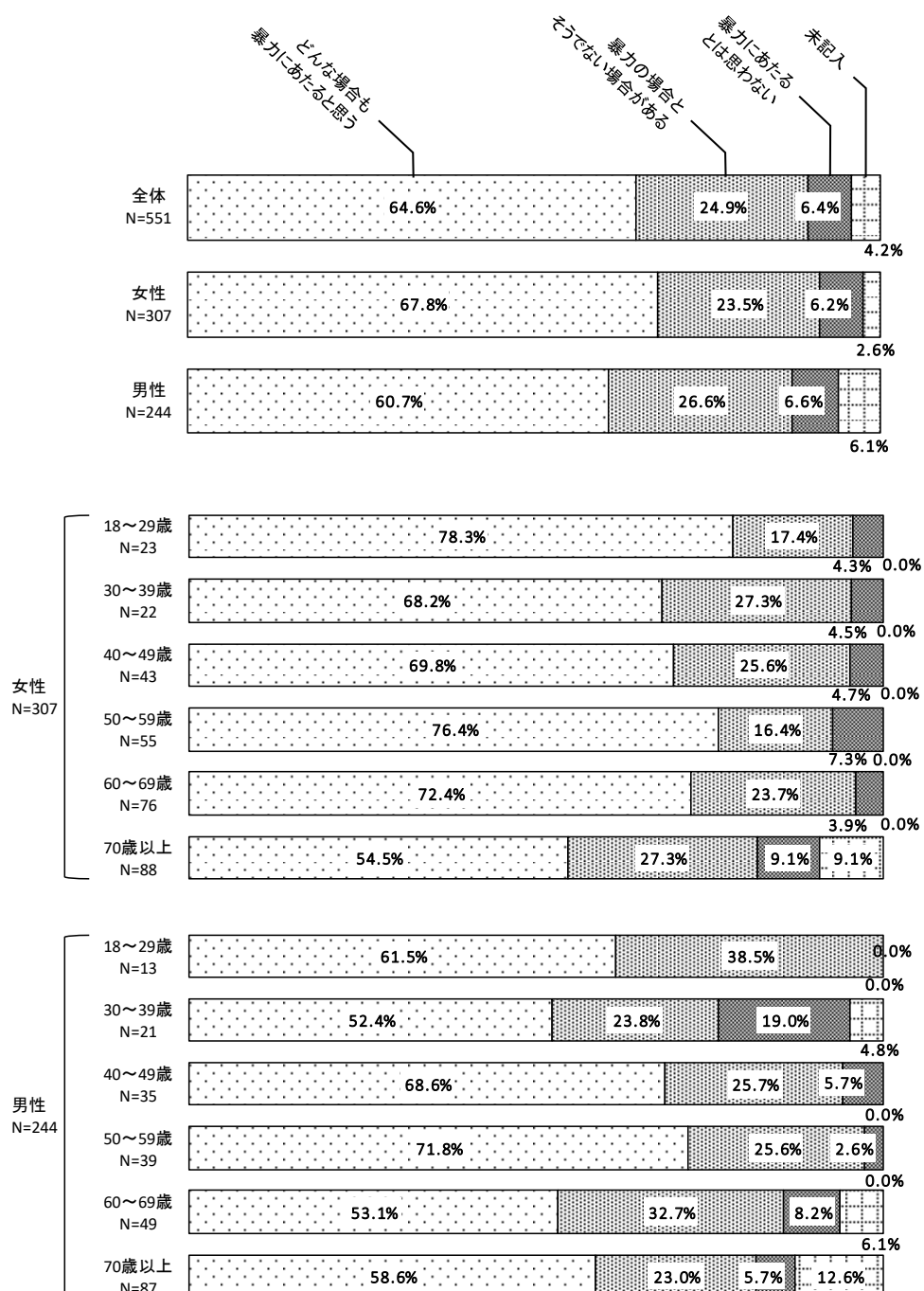
- 「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、女性では 77.5%、男性では 62.3%と、15.2 ポイントの差があります。



⑤ 何でも勝手に決め、命令する

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が 6 割強 ～

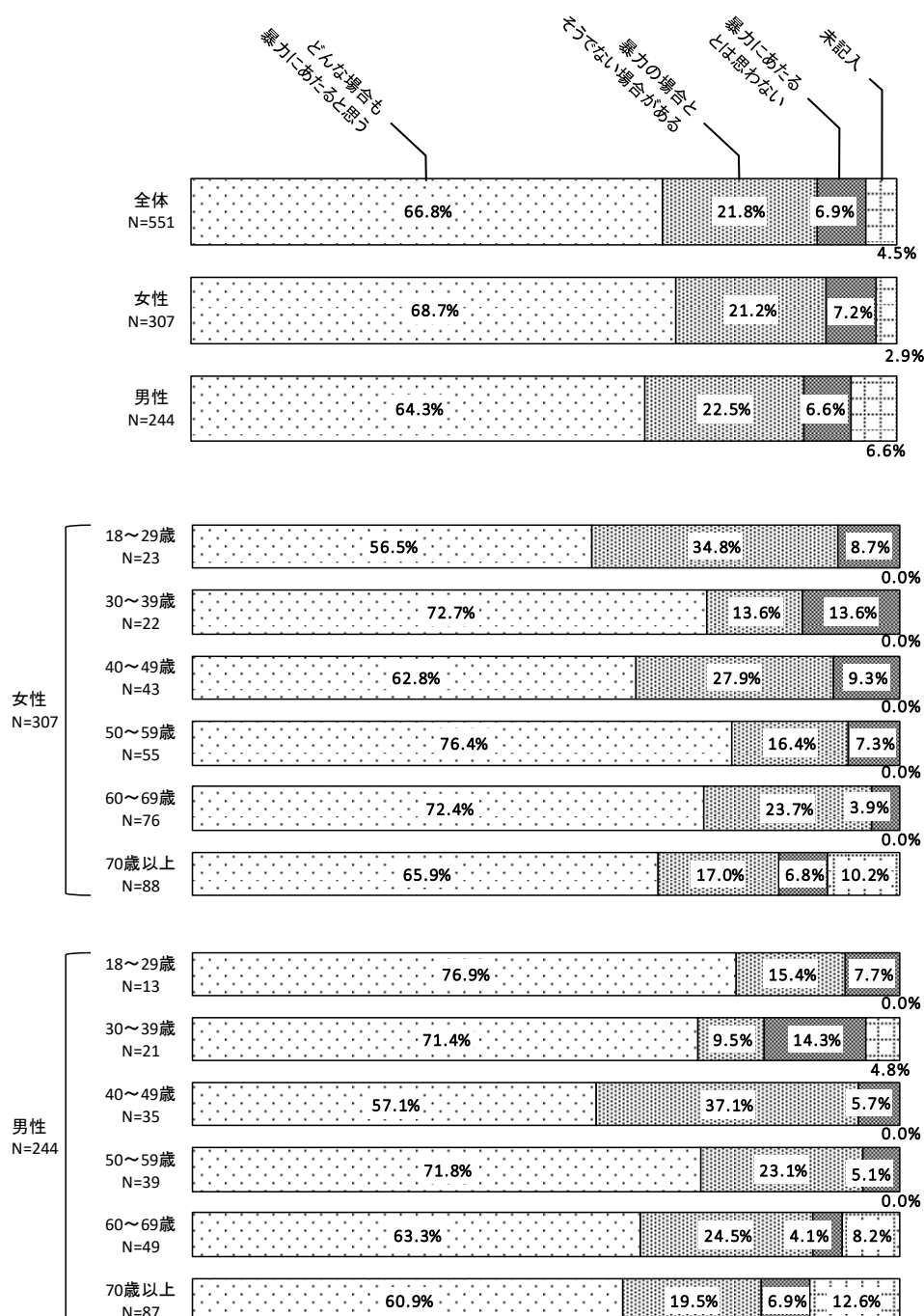
- 「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、女性では 67.8%、男性では 60.7%と、7.1 ポイントの差があります。



⑥ 何を言っても無視し続ける

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が 6 割強 ～

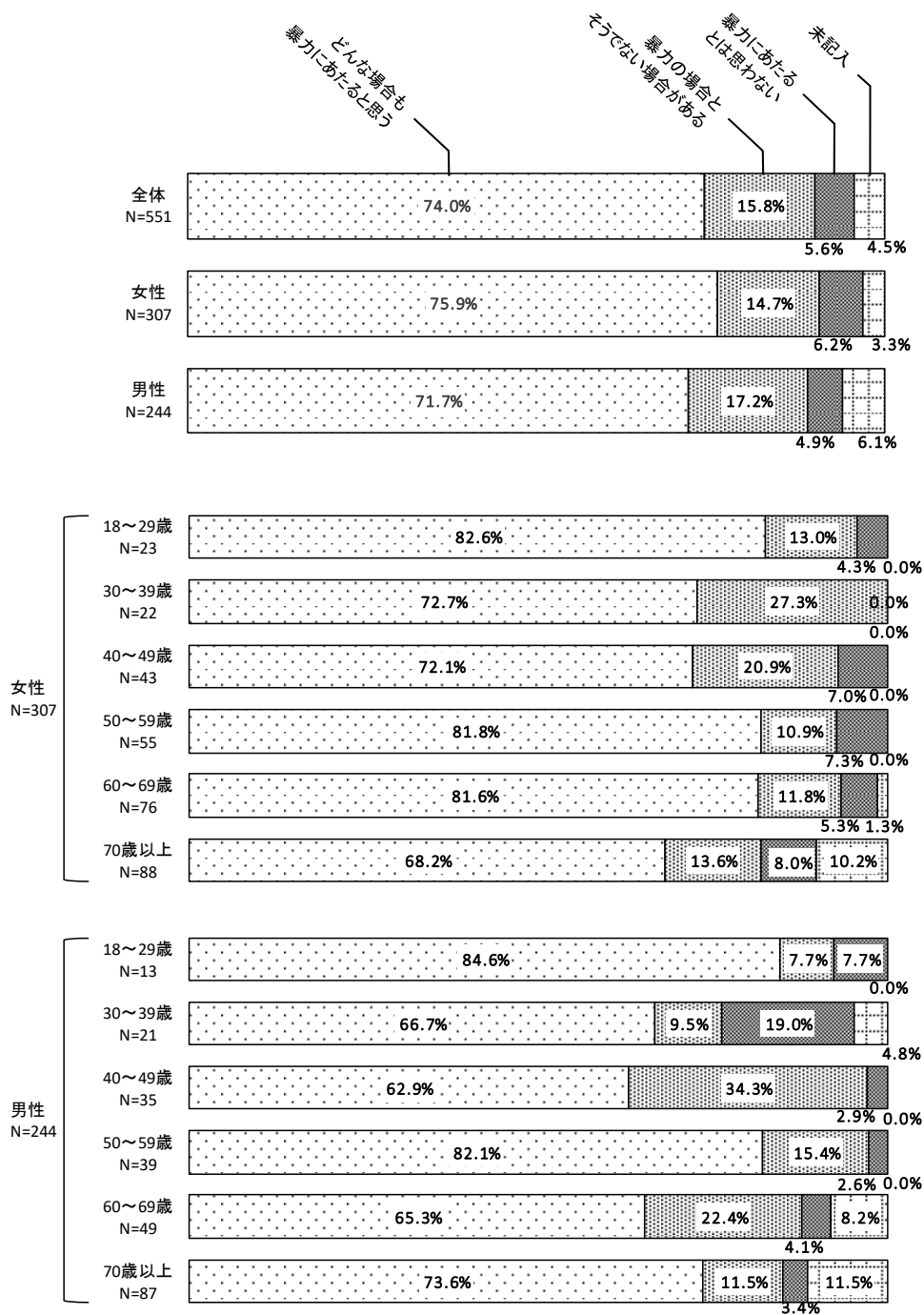
○ 「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、女性では 68.7%、男性では 64.3%と、差は 4.4 ポイントとわずかです。



⑦ 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が7割強 ～

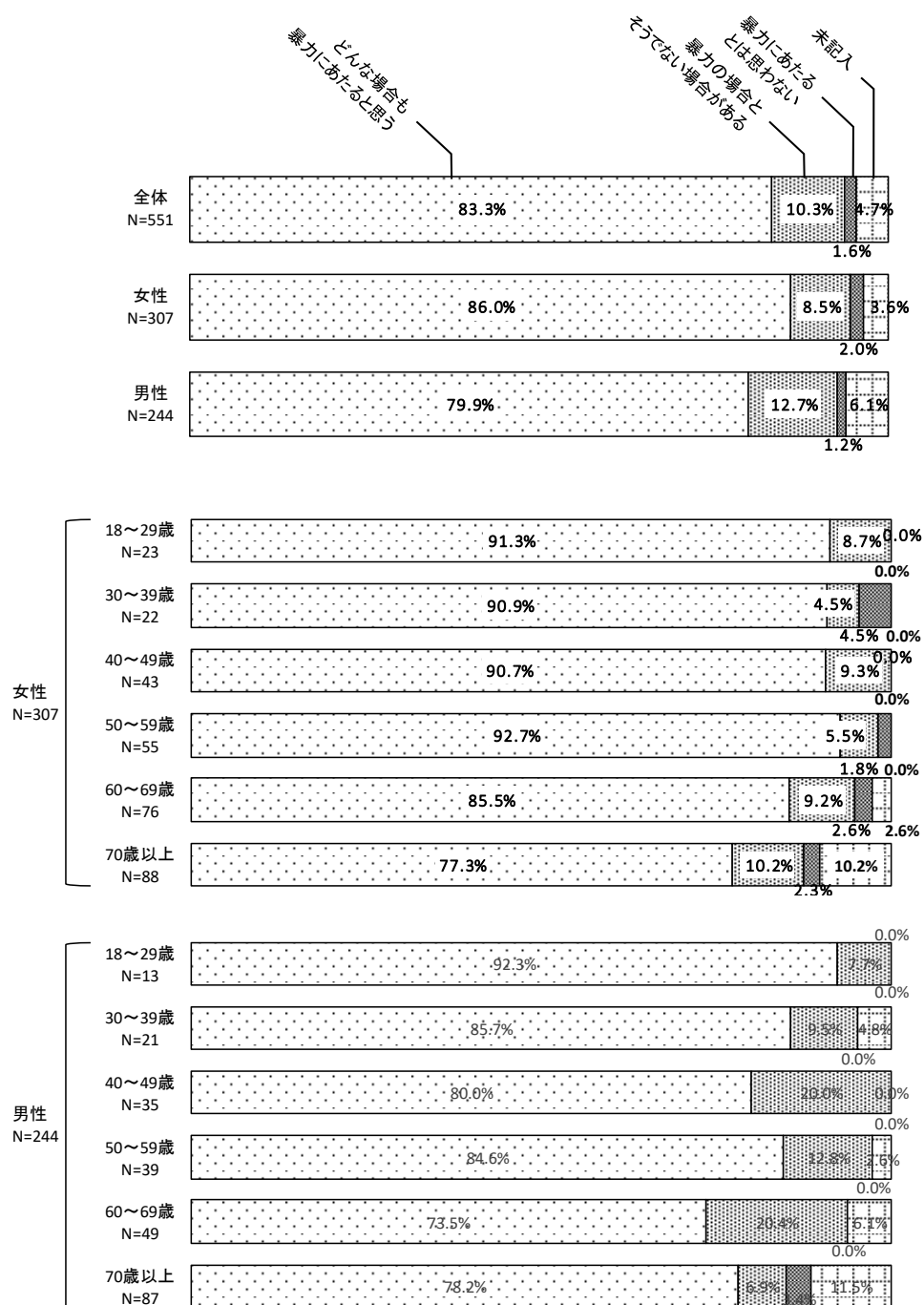
- 「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が、女性では 75.9%、男性では 71.7%と、差は 4.2 ポイントとわずかです。



⑧ いやがっているのに性的行為を強要する

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が8割強 ～

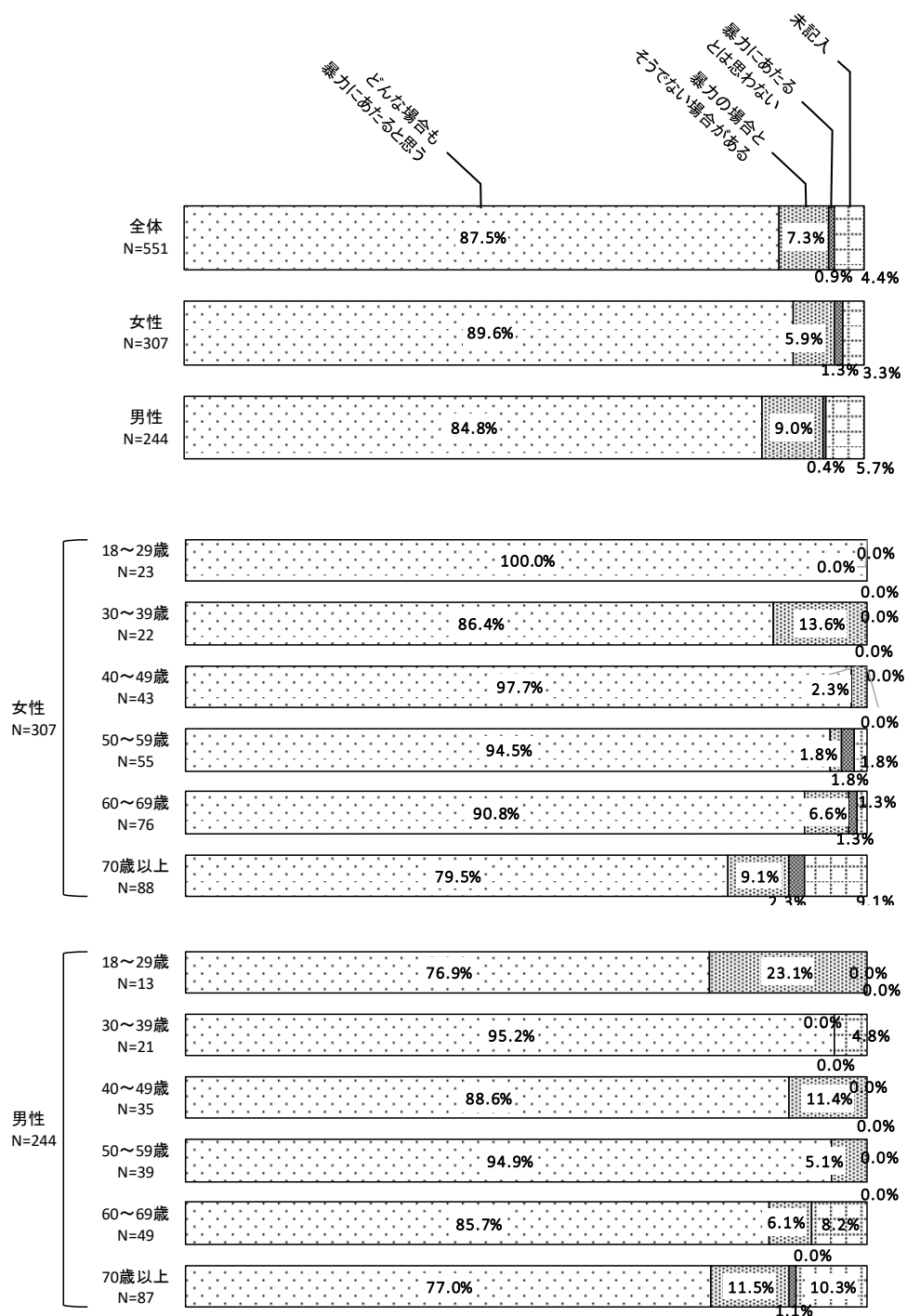
- 男女ともどの年代でも「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が高くなっています。



⑨ 医師の治療が必要とならない程度の暴行をする

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が8割強 ～

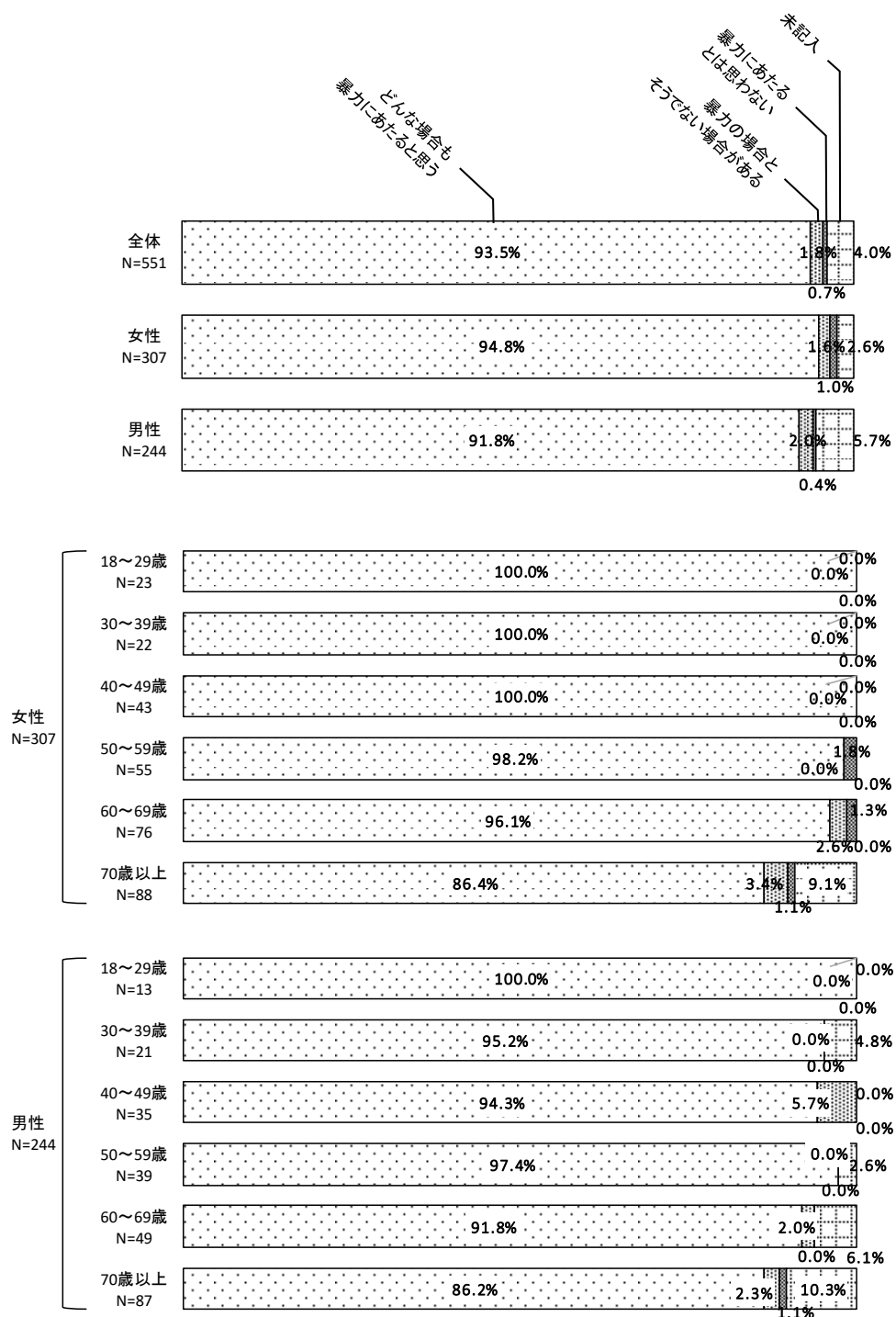
- 男女ともどの年代でも「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答した人の割合が高くなっています。



⑩ 医師の治療が必要となる程度の暴行をする

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が9割強 ～

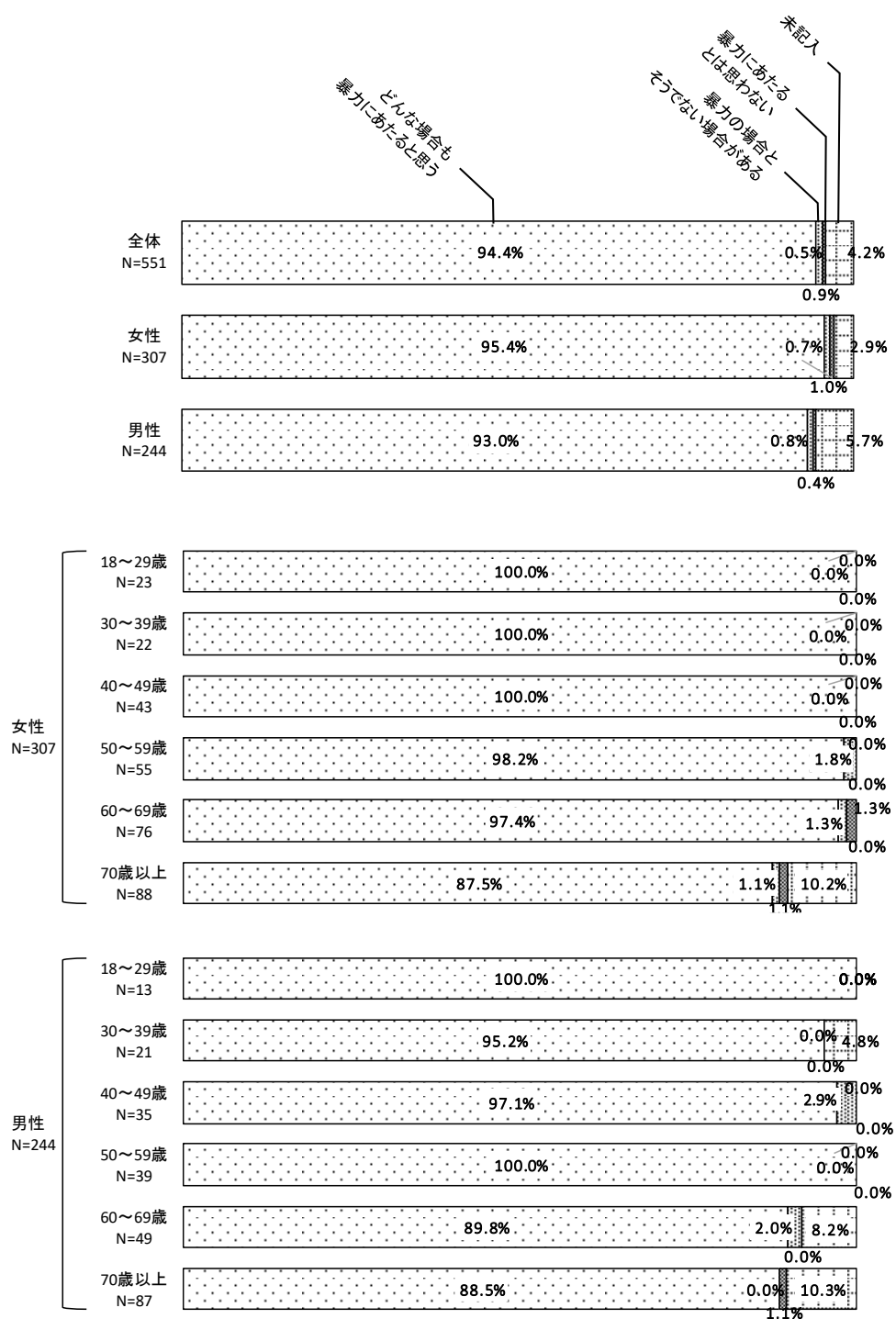
○ 男女ともどの年代でも、大多数が「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答しています。



⑪ 命の危険を感じるくらいの暴行をする

～ どんな場合も暴力にあたると思う人が9割半ば ～

○ 男女ともどの年代でも、大多数が「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答しています。



問33 配偶者等からの暴力を受けた経験

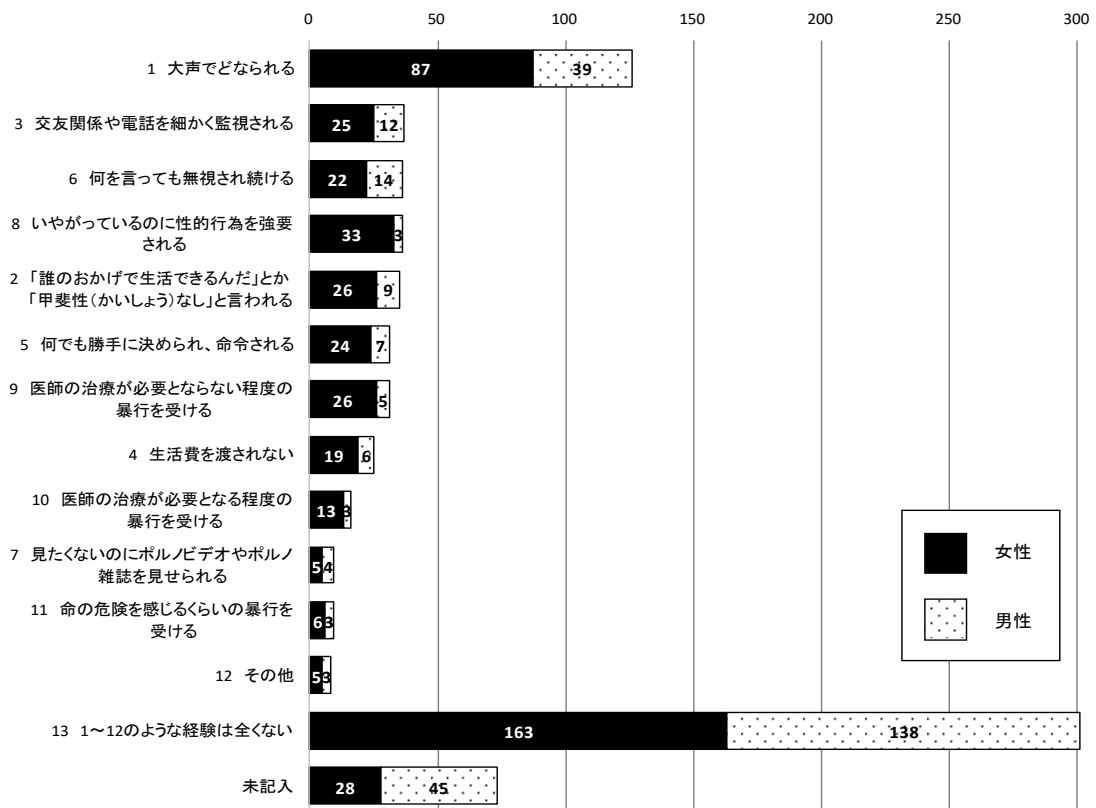
あなたは、あなたの夫や妻または恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

(○はい/いつでも)

～ 配偶者等からなんらかの暴力を受けた経験のある人は、女性 38%、男性 25% ～

○ 暴力を受けた経験は全くない人 (301 人) と未記入の人 (73 人) は、回答者 (551 人) の 67.9% になります。

○ これを除く 177 人 (回答者の 32.1%) は、なんらかの暴力を受けたことがあると回答しています。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
1 大声でどなられる	126	87	39	4	4	15	22	15	27	1	1	8	10	8	11
3 交友関係や電話を細かく監視される	37	25	12	6	2	4	2	4	7	1	2	3	1	2	3
6 何を言っても無視され続ける	36	22	14	2	2	3	5	4	6	0	2	5	2	4	1
8 いやがっているのに性的行為を強要される	36	33	3	2	1	7	5	12	6	0	0	0	0	2	1
2 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性(かいしょう)なし」と言われる	35	26	9	4	2	7	5	4	4	0	0	3	2	2	2
5 何でも勝手に決められ、命令される	31	24	7	3	2	4	5	3	7	0	0	1	2	2	2
9 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける	31	26	5	2	1	8	7	4	4	0	0	2	1	2	0
4 生活費を渡されない	25	19	6	2	2	4	4	3	4	0	1	1	0	3	1
10 医師の治療が必要となる程度の暴行を受ける	16	13	3	1	1	2	4	3	2	0	0	1	0	2	0
7 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	9	5	4	1	0	1	0	2	1	0	0	1	0	2	1
11 命の危険を感じるくらいの暴行を受ける	9	6	3	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	3	0
12 その他	8	5	3	2	0	1	1	1	0	0	0	0	2	1	0
13 1～12のような経験は全くない	301	163	138	11	17	22	28	45	40	8	15	21	22	28	44
未記入	73	28	45	2	1	4	1	3	17	3	1	1	3	10	27

〈問33で1～12を選択した人のみ回答〉

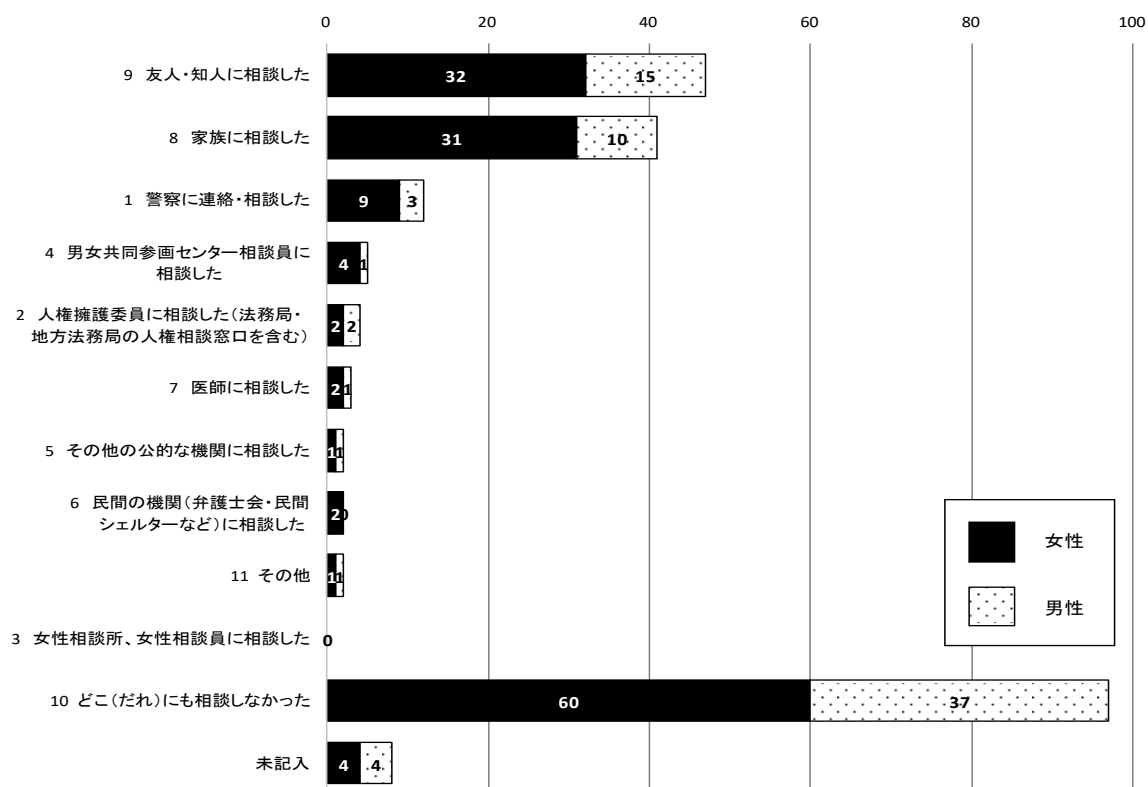
問34 配偶者等からの暴力を受けたときの相談先

あなたは、問33であげたような夫や妻または恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○はいくつでも)

～ 配偶者等から暴力を受けたとき「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も多く、女性 38%、男性 25% ～

○ どこ(だれ)にも相談しなかった人(97人)と未記入の人(8人)は、回答者(177人)の59.3%になります。

○ これを除く72人(回答者の40.7%)の回答では、「友人・知人に相談した」と「家族に相談した」が多くなっています。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
9 友人・知人に相談した	47	32	15	7	2	6	9	2	6	0	1	4	3	3	4
8 家族に相談した	41	31	10	4	2	8	7	4	6	0	1	1	2	3	3
1 警察に連絡・相談した	12	9	3	2	2	3	1	0	1	0	0	0	0	2	1
4 男女共同参画センター相談員に相談した	5	4	1	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
2 人権擁護委員に相談した(法務局・地方方法務局の人権相談窓口を含む)	4	2	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
7 医師に相談した	3	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
5 その他の公的な機関に相談した	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
6 民間の機関(弁護士会・民間シェルターなど)に相談した	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 その他	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
3 女性相談所、女性相談員に相談した	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 どこ(だれ)にも相談しなかった	97	60	37	1	1	4	11	23	20	2	3	8	10	5	9
未記入	8	4	4	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	1	2

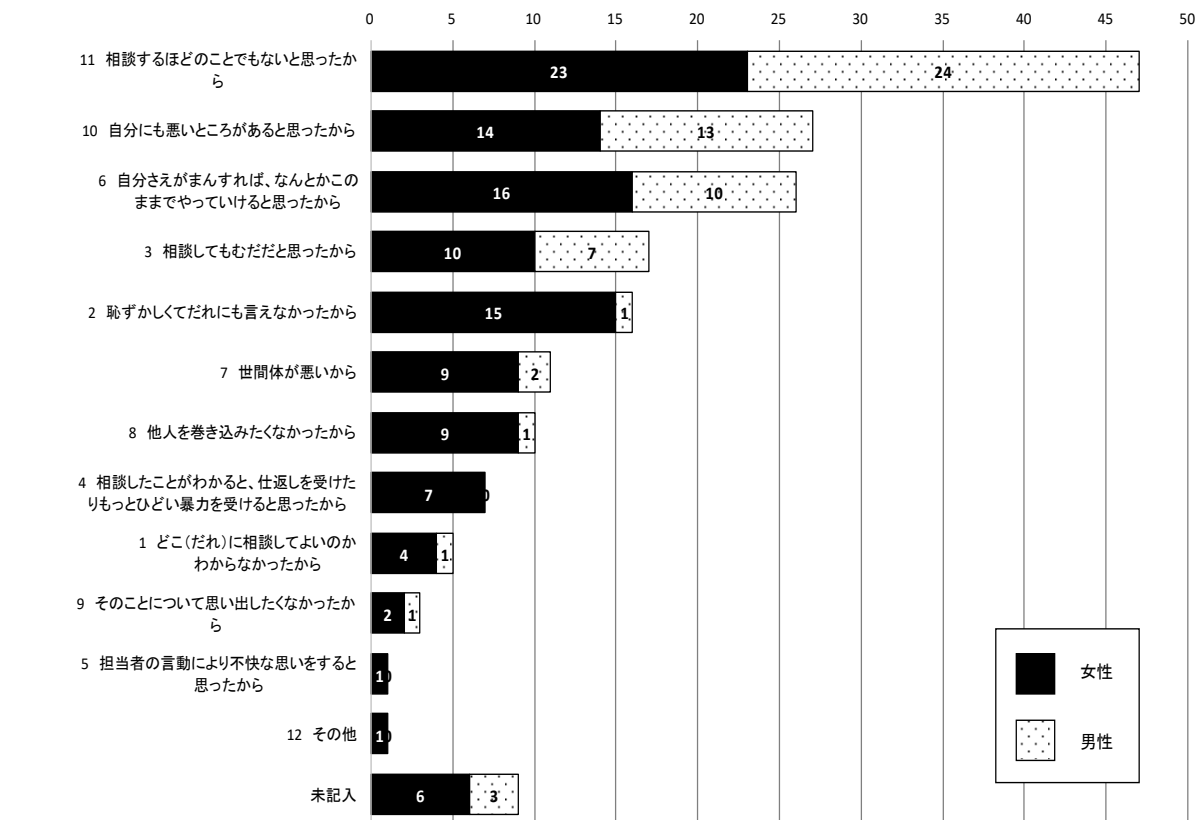
〈問34で10と答えた人のみ回答〉

問35 配偶者等から暴力を受けたときに相談しなかった理由

どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

～「相談するほどのことでもないと思ったから」が男女ともに最も多い～

〇 「相談するほどのことでもないと思ったから」との回答が男女ともに最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が多くなっています。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
11 相談するほどのことでもないと思ったから	47	23	24	0	1	2	2	8	10	2	1	7	4	3	7
10 自分にも悪いところがあると思ったから	27	14	13	0	0	1	2	5	6	2	0	2	2	3	4
6 自分さえがまんすれば、なんとかこのままでやっていけると思ったから	26	16	10	0	0	2	4	4	6	0	0	1	5	1	3
3 相談してもむだだと思ったから	17	10	7	0	0	1	1	5	3	0	0	3	2	1	1
2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから	16	15	1	1	0	0	3	7	4	0	0	0	0	0	1
7 世間体が悪いから	11	9	2	0	0	0	1	4	4	0	1	0	0	0	1
8 他人を巻き込みたくなかったから	10	9	1	0	0	2	1	4	2	0	0	0	1	0	0
4 相談したことがわかった、仕返しを受けたりもっとひどい暴力を受けると思ったから	7	7	0	0	0	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0
1 どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから	5	4	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	1
9 そのことについて思い出したくなかったから	3	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
5 担当者の言動により不快な思いをと思ったから	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
12 その他	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
未記入	9	6	3	0	0	0	1	2	3	0	1	0	1	1	0

問36 配偶者等に対して暴力を行った経験

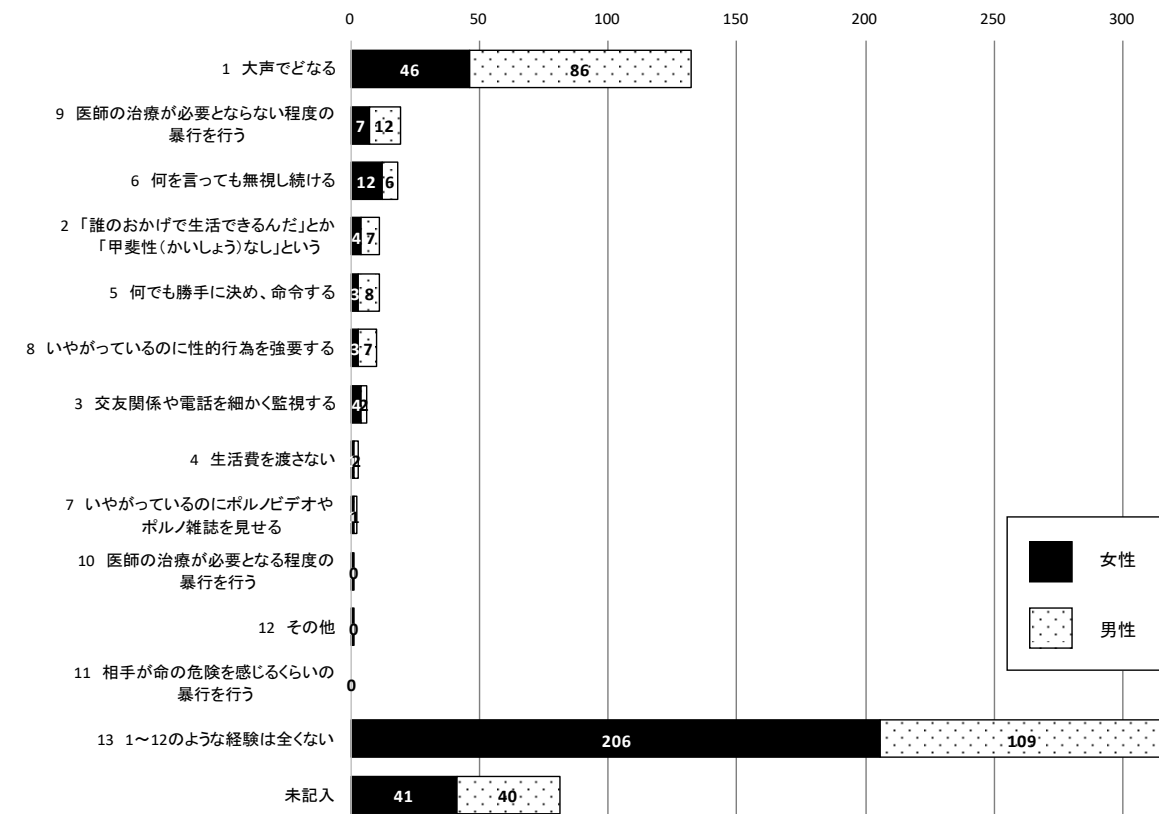
あなたは、あなたの夫や妻または恋人に対して、次のようなことを行ったことがありますか。

(○はいくつでも)

～ 配偶者等に対して何らかの暴力を行った経験がある人は、女性 20%、男性 39% ～

○ 暴力を行った経験は全くない人 (315 人) と未記入の人 (81 人) は、回答者 (551 人) の 71.9% になります。

○ これを除く 155 人 (回答者の 28.1%) は、なんらかの暴力を受けたことがあると回答しています。



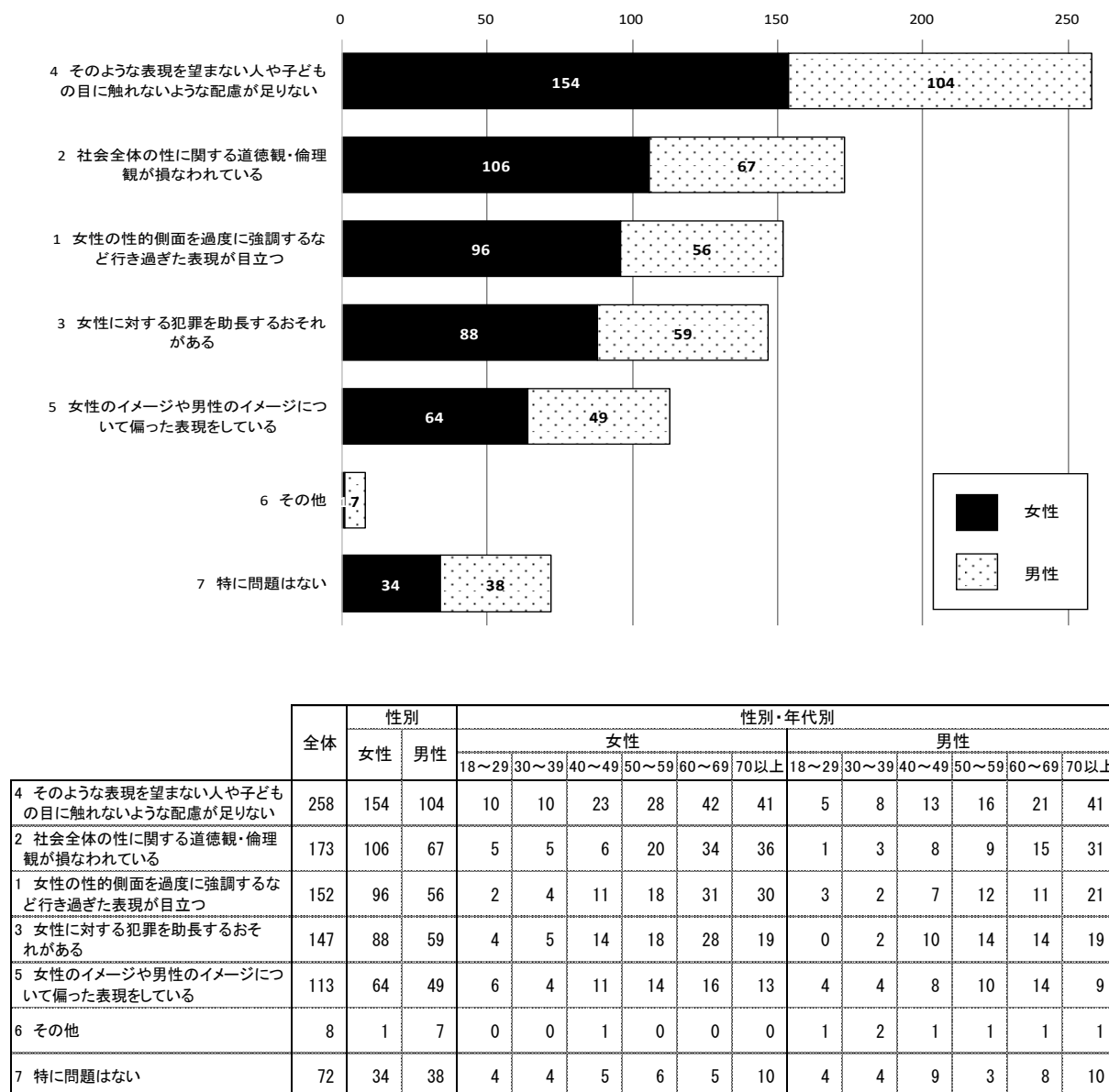
	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
1 大声でどなる	132	46	86	3	4	12	8	10	9	3	6	15	17	21	24
9 医師の治療が必要とならない程度の暴行を行う	19	7	12	0	2	3	1	0	1	1	2	2	2	0	5
6 何を言っても無視し続ける	18	12	6	3	0	1	3	4	1	0	1	1	1	1	2
2 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性(かいしょう)なし」という	11	4	7	0	0	0	2	1	1	0	0	3	2	1	1
5 何でも勝手に決め、命令する	11	3	8	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	1	5
8 いやがっているのに性的行為を強要する	10	3	7	0	0	0	0	3	0	0	0	2	2	3	0
3 交友関係や電話を細かく監視する	6	4	2	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	1	0
4 生活費を渡さない	3	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
7 いやがっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
10 医師の治療が必要となる程度の暴行を行う	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
12 その他	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 相手が命の危険を感じるくらいの暴行を行う	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13 1～12のような経験は全くない	315	206	109	18	16	28	40	53	51	9	13	18	15	18	36
未記入	81	41	40	1	2	3	4	7	24	0	2	0	5	8	25

問37 メディアにおける性・暴力表現についての意識

テレビ、新聞、雑誌等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。

(〇はいくつでも)

～ 「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も多い ～

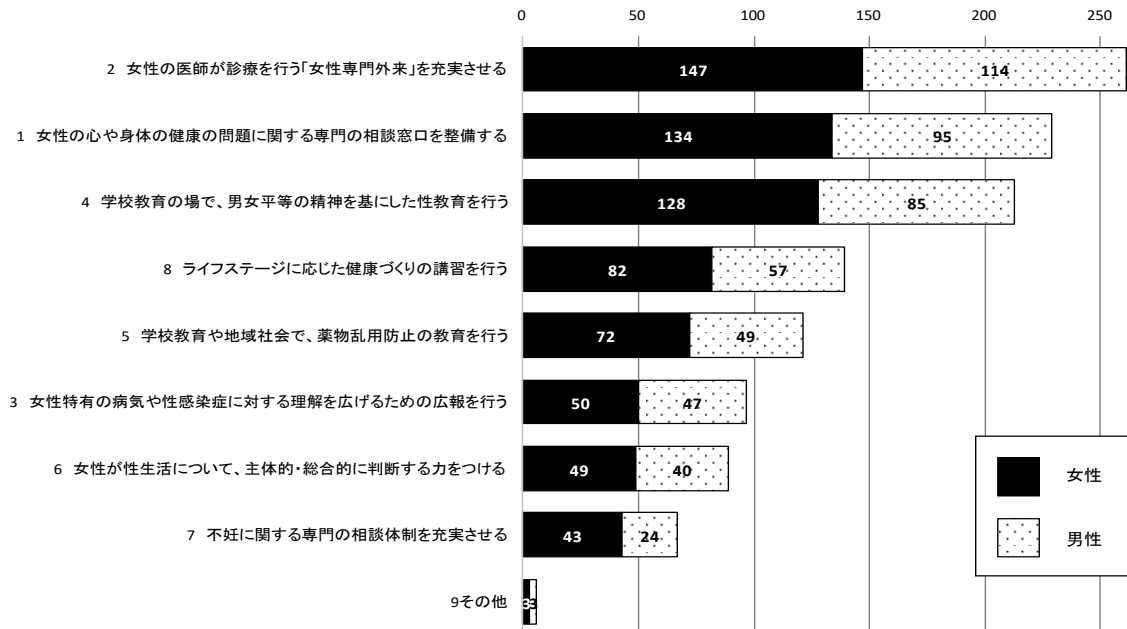


【その他の意見】

女性 70～79歳	事件だけを強調している。一部の偏った見方がさも今全体がそうになっているといった、小さなものを大きく報道しているように感じる。目に見えるものを強調し唯物主義にますます傾く感じがする。精神世界、心の大切さ、おもいやりが大切なのだという意見の報道があってもよいと思う。
男性 30～39歳	メディアの表現が大げさで誤解を招く
男性 40～49歳	逆に、表現に対する過度なさわざたてが多い。
男性 50～59歳	糞(あつもの)に懲りてなますを吹いている。ゆがんだ意識に表現の自由が侵されている。
男性 60～69歳	最近のメディアはまともに信用していない
男性 70～79歳	事件は殺人、ドラマも殺人、テレビは一日で何人殺す

問38 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために必要なこと
女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、特にどのようなことが大事だと思いますか。
(○は3つまで)

～「女性の医師が診療を行う「女性専門外来」を充実させる」が最も多い～



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
2 女性の医師が診療を行う「女性専門外来」を充実させる	261	147	114	10	11	21	24	45	36	5	9	19	23	21	37
1 女性の心や身体の健康の問題に関する専門の相談窓口を整備する	229	134	95	10	9	19	26	30	40	4	5	14	17	21	34
4 学校教育の場で、男女平等の精神を基にした性教育を行う	213	128	85	10	7	17	21	36	37	3	8	13	9	17	35
8 ライフステージに応じた健康づくりの講習を行う	139	82	57	1	8	13	16	23	21	4	6	8	10	14	15
5 学校教育や地域社会で、薬物乱用防止の教育を行う	121	72	49	3	3	4	13	21	28	2	5	6	4	9	23
3 女性特有の病気や性感染症に対する理解を広げるための広報を行う	97	50	47	8	5	2	10	9	16	4	4	7	6	12	14
6 女性が性生活について、主体的・総合的に判断する力をつける	89	49	40	2	2	11	4	12	18	3	6	5	7	6	13
7 不妊に関する専門の相談体制を充実させる	67	43	24	5	7	8	9	7	7	3	3	5	5	5	3
9 その他	6	3	3	0	1	1	0	0	1	0	0	1	2	0	0

【その他の意見】

女性 30～39歳	ガン健診等の年齢引き下げ
女性 40～49歳	ストレスをためない
女性 70～79歳	最近、メディアで、言葉の暴力、ちょっと触ったとかなんでもないようなことが、本人にそのように受け止めるのだろうが、ハラスメントとかすぐ事を大げさに取り扱うように感じる。私たちが育った昭和はもっとおおらかにコミュニケーションがとれていたように思う。人間関係がギクシャクして温かみがないように感じ、住みにくい世の中だと実感している。
男性 40～49歳	不妊治療など金銭的な社会からの補助等、お金の問題ですよ
男性 50～59歳	女性に特別な施策ではなく、性別に関係ない体制を作って。
男性 50～59歳	男女平等なのになぜ女性に特化することが必要なのか

8 男女共同参画センターについて

問39 延岡市男女共同参画センターの認知度

延岡市では、男女共同参画社会づくりの拠点として、「延岡市男女共同参画センター」を設置し、次のような事業を行っております。

所在地：延岡市桜小路360番地2（川中コミュニティセンター2階）

① 情報提供事業～関連図書の閲覧・貸出、ポスター・チラシの設置

② 啓発事業～情報誌「響」の発行、研修・出前講座の実施、講演会の開催

③ 相談事業～電話相談・面接相談

※一部事業を「のべおか男女共同参画会議21」に委託しています

あなたは、上記の事業についてどの程度ご存じですか。（○はひとつだけ）

○ 「内容まで詳しく知っている」および「おおよそ知っている」と回答した割合は、1割強となっています。

	内容まで詳しく知っている	おおよそ知っている	名前は聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	未記入	計
全体	6 1.1%	74 13.4%	245 44.4%	213 38.7%	13 2.4%	551 100%
女性	4 1.3%	35 11.4%	138 45.0%	123 40.0%	7 2.3%	307 100%
男性	2 0.8%	39 16.0%	107 43.8%	90 36.9%	6 2.5%	244 100%

問40 延岡市男女共同参画センターの利用の有無

実際に、延岡市男女共同参画センターを利用したことがありますか。（○はひとつだけ）

○ 「2度以上利用したことがある」および「1度だけ利用したことがある」と回答した人の割合は、合わせて6.7%となっています。

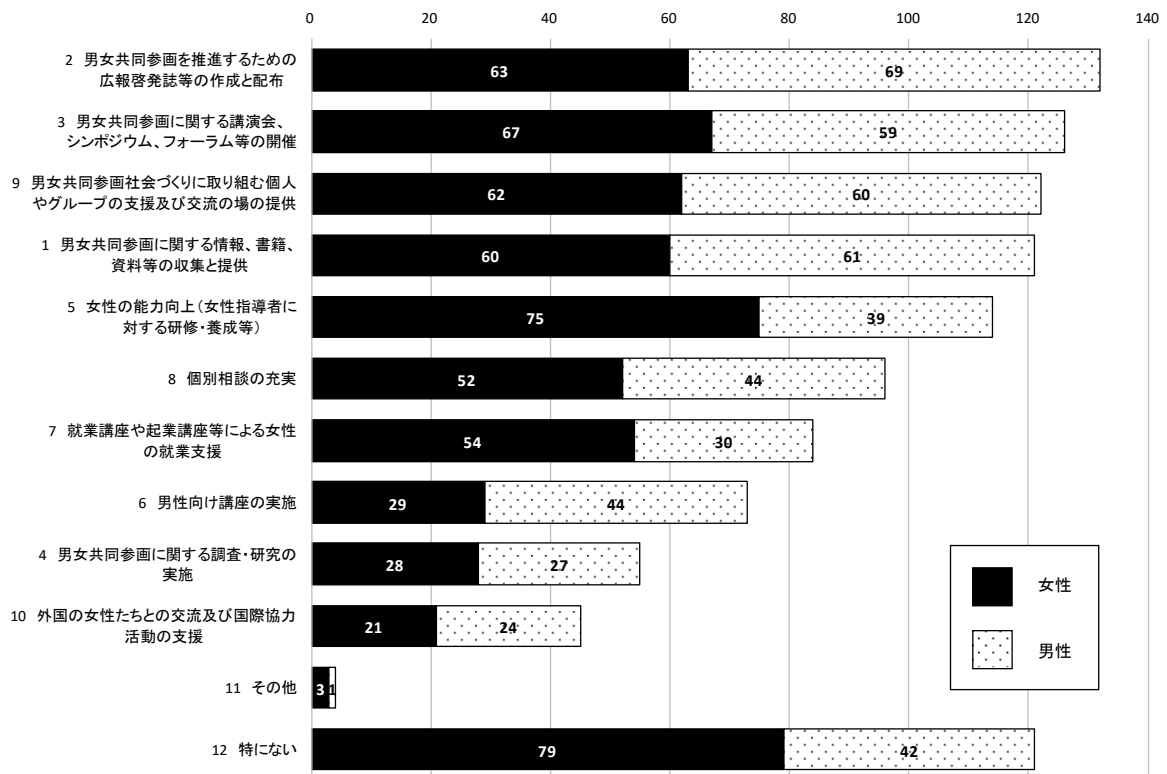
	1 2度以上利用したことがある	2 1度だけ利用したことがある	3 利用したことがない	未記入	計
全体	15 2.7%	22 4.0%	493 89.5%	21 3.8%	551 100.0%
女性	9 2.9%	14 4.6%	275 89.6%	9 2.9%	307 100.0%
男性	6 2.5%	8 3.3%	218 89.3%	12 4.9%	244 100.0%

問41 延岡市男女共同参画センターに期待すること

あなたが男女共同参画センターに必要だと思う、あなたが期待することは何ですか。

(〇はいくつでも)

- 「男女共同参画を推進するための広報啓発誌等の作成と配布」および「男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催」、「男女共同参画社会づくりに取り組む個人やグループの支援及び交流の場の提供」、「男女共同参画に関する情報、書籍、資料等の収集と提供」等を期待する、との回答が多くなっています。



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
2 男女共同参画を推進するための広報啓発誌等の作成と配布	132	63	69	6	4	7	10	19	17	0	7	5	9	15	33
3 男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の開催	126	67	59	3	4	5	10	22	23	1	4	8	12	17	17
9 男女共同参画社会づくりに取り組む個人やグループの支援及び交流の場の提供	122	62	60	2	3	12	11	18	16	3	4	9	6	15	23
1 男女共同参画に関する情報、書籍、資料等の収集と提供	121	60	61	5	5	7	7	20	16	2	7	8	11	10	23
5 女性の能力向上(女性指導者に対する研修・養成等)	114	75	39	4	7	9	15	18	22	3	3	2	9	13	9
8 個別相談の充実	96	52	44	3	5	7	15	13	9	7	6	4	9	7	11
7 就業講座や起業講座等による女性の就業支援	84	54	30	3	7	8	10	15	11	2	4	3	5	5	11
6 男性向け講座の実施	73	29	44	0	3	5	7	6	8	6	3	9	7	13	6
4 男女共同参画に関する調査・研究の実施	55	28	27	2	6	5	4	6	5	1	4	5	4	5	8
10 外国の女性たちとの交流及び国際協力活動の支援	45	21	24	0	2	5	4	7	3	2	3	2	7	4	6
11 その他	4	3	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0
12 特にない	121	79	42	9	8	8	14	19	21	3	4	8	8	6	13

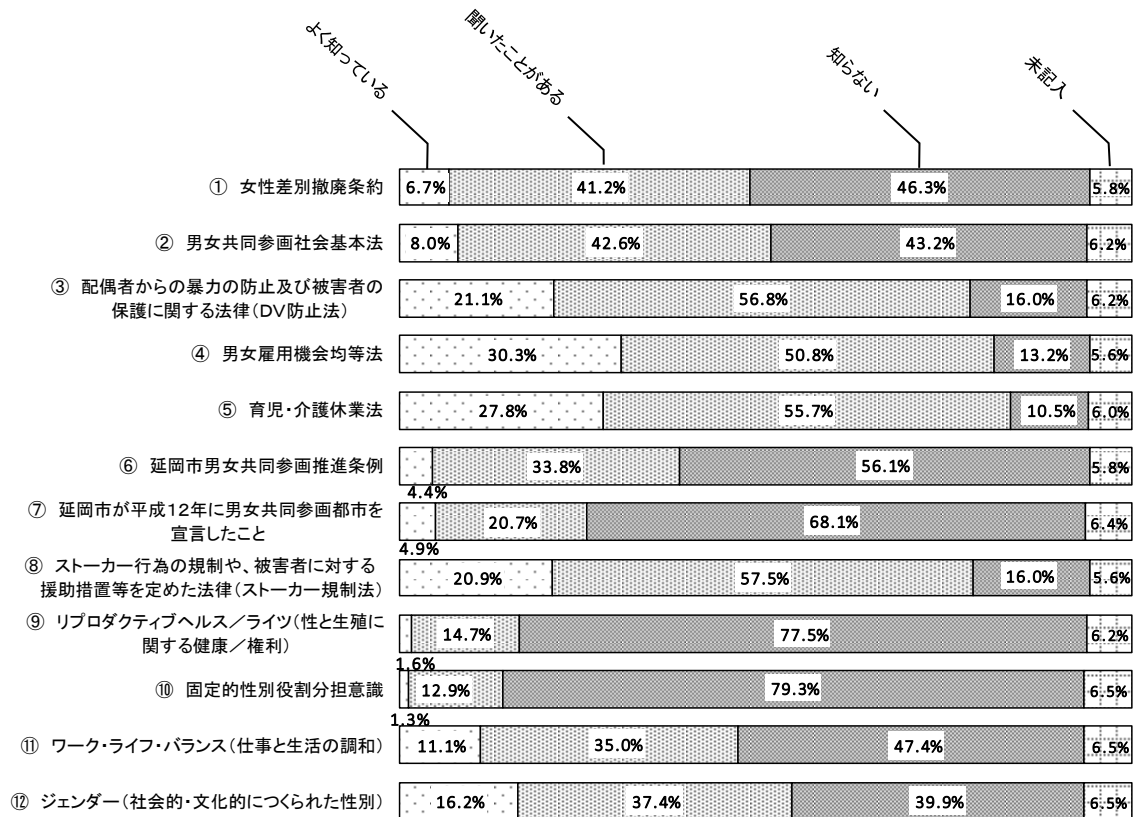
9 男女共同参画施策について

問42 男女共同参画に関する言葉の認知度

あなたは、次の①～⑫にあげる言葉をご存知ですか。

(○はそれぞれひとつずつ)

～「育児・介護休業法」、「男女雇用機会均等法」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」、「ストーカー行為の規制や、被害者に対する援助措置等を定めた法律(ストーカー規制法)」等の言葉は、比較的よく知られている ～



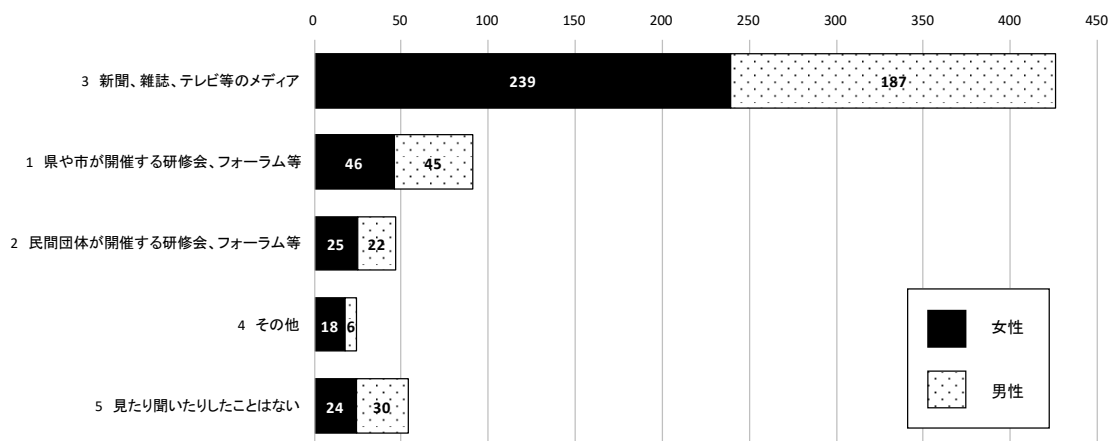
	よく知っている	聞いたことがある	知らない	未記入	計
① 女性差別撤廃条約	37 6.7%	227 41.2%	255 46.3%	32 5.8%	551 100.0%
② 男女共同参画社会基本法	44 8.0%	235 42.6%	238 43.2%	34 6.2%	551 100.0%
③ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	116 21.1%	313 56.8%	88 16.0%	34 6.2%	551 100.0%
④ 男女雇用機会均等法	167 30.3%	280 50.8%	73 13.2%	31 5.6%	551 100.0%
⑤ 育児・介護休業法	153 27.8%	307 55.7%	58 10.5%	33 6.0%	551 100.0%
⑥ 延岡市男女共同参画推進条例	24 4.4%	186 33.8%	309 56.1%	32 5.8%	551 100.0%
⑦ 延岡市が平成12年に男女共同参画都市を宣言したこと	27 4.9%	114 20.7%	375 68.1%	35 6.4%	551 100.0%
⑧ ストーカー行為の規制や、被害者に対する援助措置等を定めた法律(ストーカー規制法)	115 20.9%	317 57.5%	88 16.0%	31 5.6%	551 100.0%
⑨ リプロダクティブヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)	9 1.6%	81 14.7%	427 77.5%	34 6.2%	551 100.0%
⑩ 固定的性別役割分担意識	7 1.3%	71 12.9%	437 79.3%	36 6.5%	551 100.0%
⑪ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	61 11.1%	193 35.0%	261 47.4%	36 6.5%	551 100.0%
⑫ ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	89 16.2%	206 37.4%	220 39.9%	36 6.5%	551 100.0%

問43 男女共同参画に関する言葉を見聞きした場所

あなたは、問42の①～⑫の言葉をどういう場面で見たり聞いたりしましたか。

(○はいくつでも)

～ 「新聞、雑誌、テレビ等のメディア」という回答が男女ともに最も多い ～



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
3 新聞、雑誌、テレビ等のメディア	426	239	187	16	17	37	45	69	55	9	19	28	33	36	62
1 県や市が開催する研修会、フォーラム等	91	46	45	0	1	7	7	16	15	3	3	3	9	13	14
2 民間団体が開催する研修会、フォーラム等	47	25	22	1	0	6	4	8	6	2	2	3	4	4	7
4 その他	24	18	6	7	4	3	1	0	3	3	0	1	1	1	0
5 見たり聞いたりしたことはない	54	24	30	1	2	2	6	3	10	1	1	5	5	5	13

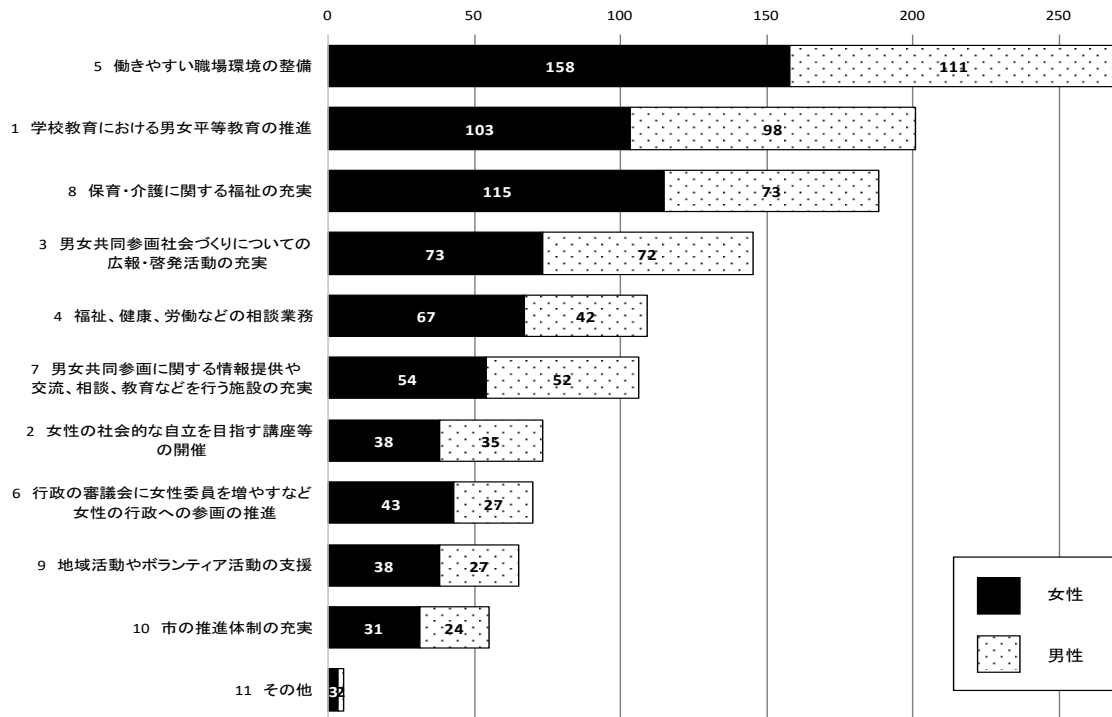
〔その他の意見〕

女性 18～20歳	学校、ユーチューブ、ネット
女性 21～29歳	学校、職場、SNS
女性 30～39歳	学校、大学、友人、男女共同参画センター
女性 40～49歳	SNS
女性 50～59歳	職場
女性 70～79歳	友人、知人
男性 18～20歳	学校
男性 21～29歳	学校、大学
男性 40～49歳	職場
男性 50～59歳	職場
男性 60～69歳	職場

問44 市が推進すべき男女共同参画施策について

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、市は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。
(〇は3つまで)

～ 「働きやすい職場環境の改善」との回答改が男女ともに最も多い ～



	全体	性別		性別・年代別											
		女性	男性	女性						男性					
				18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上
5 働きやすい職場環境の整備	269	158	111	15	17	28	36	32	30	8	12	22	24	16	29
1 学校教育における男女平等教育の推進	201	103	98	8	8	17	16	24	30	8	8	15	13	16	38
8 保育・介護に関する福祉の充実	188	115	73	8	14	14	20	35	24	2	9	8	15	19	20
3 男女共同参画社会づくりについての広報・啓発活動の充実	145	73	72	1	0	8	13	21	30	0	3	10	13	14	32
4 福祉、健康、労働などの相談業務	109	67	42	2	4	8	14	21	18	3	4	5	5	8	17
7 男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、教育などを行う施設の充実	106	54	52	3	1	6	11	15	18	2	3	8	12	6	21
2 女性の社会的な自立を目指す講座等の開催	73	38	35	2	4	1	8	7	16	0	4	5	6	8	12
6 行政の審議会に女性委員を増やすなど女性の行政への参画の推進	70	43	27	3	3	3	8	12	14	0	2	5	6	5	9
9 地域活動やボランティア活動の支援	65	38	27	2	2	4	5	10	15	1	1	2	4	6	13
10 市の推進体制の充実	55	31	24	3	3	3	3	8	11	1	3	4	2	5	9
11 その他	5	3	2	0	0	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0

〔その他の意見〕

女性 40～49歳	賃金格差のない延岡市にして欲しい。
女性 60～69歳	市の広報で毎月Rする
男性 30～39歳	女性優遇ではなく活躍の場を(職務を)作るべきだと思う
男性 40～49歳	会社に対する市からの協力

◎男女共同参画社会づくりに関する市の施策について（自由意見）

性別・年齢 等				自由意見
女性	18～20歳	就業している	未婚	同じ内容の質問が多すぎてしつこい。 問15③「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうが良い」の内容の意味が分からなかった。
女性	21～29歳	未就労	既婚	保育施設の充実をお願いします。 兄弟でも別々に入所しないといけないとか大変です。 2人目以降が産後8週すぎて育休とるなら退園（上の子がいた場合）というのは、親を苦しめるためですか？ 1人でも大変なのに、育休をとるなら2人みてくれ・・・とはおかしいと思います。 産休だけで復帰できないから育休をとっているのに・・・。
女性	21～29歳	就業している	未婚	働きやすい環境、休みが取りやすい環境をつくってほしい。 「男(女)だから～」で片づけることが多いので、そういうコトバが簡単に出ないようにしてほしいです。
女性	30～39歳	就業している	既婚	0才～3才が一番子どもは、手がかかるのに仕事してないと、保育園等に預けられない。 3才以上は、保育料無償化で幼稚園に預けられるのは、矛盾していると思う。 お金がかかる0～3歳の時に何かしら支援がないと、これから働きたい女性も動けずに、現状のままだと思う。 職場、企業に対して、共同参画社会にするための一定のノルマをかけて、達成企業への優遇措置など考えてほしい。
女性	30～39歳	就業している	既婚	子どもを持ちながら働く女性が不利になりすぎている。 正社員で働きたくても子どもが小さいうちは、病気で休むことも多く、今の世の中では競れでは正社員で働けないか、パートの道を選ぶ女性が多いと思うが、それでは所得も低く、自分のためにお金を遣うことなどあまりできない。 胸がつまる毎日です。 女性が働き十分なお金を稼ぎ子育てをできるようにすると女性がイキイキとでき、よりよい社会になると思う。 また、女性のお金の余裕、心の余裕は子どもたちにも良い影響があると思う。女性がキラキラしていると笑顔でいられると、子どもの未来も明るいと思う。 どうか、諦めないで女性・男性とで差のない待遇・給与・人々の意識になるようにしてください。
女性	30～39歳	就業している	未婚	質問に答えていくうちに違和感を感じました。「男」「女」と分けて考えるのではなく、個人個人の生き方、選択を尊重される社会になっていくといいなと思いました。
女性	40～49歳	就業している	既婚	お母さんは大変です。 夫、子供の世話、家のこと、学校、地域、親・・・ 会社からも、何かセミナー等参加するようにしてほしい 奥さんにゆとりできる時間がほしいです
女性	40～49歳	就業している	既婚	男女共同参画推進大会に何度か行ったことがありますが、参加されているのはほとんどが女性です。 男性向けの講座を開いたりして男性の意識改革(特に田舎の50代以上)を進めていかないと本当の男女共同参画社会にはならないと思います。
女性	40～49歳	就業している	未婚	男女ともに意見を出し合い、それぞれの視点で意見交換をしていくことは重要ですが、男と女はそもそも身体づくりも得意分野も異なるわけでそれぞれの特技がいかせることが一番だと思う。 男性の方が市議に多いとか社長部長が多いとか、反対になれば別の問題がおき、必ず同等平等というのは無理だと思う。
女性	40～49歳	就業している	未婚	アンケートをきっかけに気づきがありました。 いろいろと思いを書きたいところですが、まずは、アンケート用紙を返信する封筒の大きさがあっていないと思います。 集計する人は折り目がたくさんあって大変かと思います。折りたたんだ物を伸ばして集計する時間がなければ早く帰れます。
女性	50～59歳	就業している	既婚	私たちの世代と比べ、学校が男女混合名簿になり、家庭科の授業も男女一緒に受ける世代は、家庭生活においても 家事の分担は進んでいると思う。 早朝のコインランドリーで若い父親が妻の洗濯物を畳む姿は非常に多い。 子供を生むという女性にしかできないこと、また授乳等はしっかり女性が中心となり母性を育むことが大事だが、それ以外の家事は女性が主で 男性が従でいいけない。 そのためには会社で「男性の方が残業しやすい」という考え方をまず改め、若い世代は男女とも家事をしっかりできる環境にしてあげべきだと思う。 市には以上の様な啓発活動を是非行って頂きたい。
女性	50～59歳	就業している	既婚	そもそも、男女は平等とは思えないので、協力し合い尊重し合うように考えます。 “感謝”の気持ちで互いに持てるような心のゆとりがあるとよいのですが、やはり、収入の面になるのでしょうか。 介護の近い親(身体は元気)、高齢者のデデイサービスの充実。
女性	50～59歳	就業している	既婚	近くの人を利用することがあると思いますが、まだ、男女共同参画をどこでどんな時どのようなことで利用できるか知らない人も多いと思うので、情報提供して身近で利用したい。
女性	50～59歳	就業している	既婚	女性だからと言って特別な支援は必要ないと思います。 男女平等な社会をつくるうえで女性側だけに特別な支援をすれば平等ではなくなると思うから。 女性が働きやすくするには、完全な男性からの上司からの偏見、圧力が無くならない限りは無理だと思います。 政治の世界がまざしく古い考えを持った圧力重視なことが答えだと思います。 地元、延岡は好きです。 でも昔に比べたら住みにくく感じます。
女性	50～59歳	就業している	離別・死別	別れない。何も変わらないから。
女性	60～69歳	就業している	既婚	介護の仕事に携わって24年、全くと言っていいほど労働条件は改善されていない。 最近では、若者の介護職離れにより、職場の平均年齢(私の職場)は55才、賃金は安い、きつい、など最悪の状態です。 その上、年配のバワハラ等も多々あります。 介護の施設の現状を知っていただくためにも、積極的に調査を行ってほしい！！ これからの高齢化社会は、前途多難だと思います。

性別・年齢 等				自由意見
女性	60～69歳	未就労	既婚	私も以前、映画活動に従事していたことがありますが、役員とか市職員の方々の熱心さだけが浮いている感じで、“あたたかさ”を感じられませんでした。色々な「言葉」だけを追ってもダメだと思います。“心”がともなわないと！
女性	60～69歳	就業している	既婚	今の社会で、男女平等とか全くないと思う。まず、身近からそういう考えを定着させるよう、市、組織の場から始めなければ、その下の企業や家庭に広がらないと思う。
女性	60～69歳	就業している	離別・死別	学校教育の場で一人の人間の命の大切さ、男女がかけがえのない存在であること、お互いに尊敬あって生きることを教えられたら素晴らしいと思います。 男性も生涯に渡り心身ともに健康であることが必要です。 人格については、男女平等だと思います。
女性	70～79歳	未就労	既婚	男女共同参画社会という言葉は以前からよく耳にしますし、とても大事なことと思いながら、いざ自分のものと考えると少し他人ごとのように考えてしまいます。いけないことと思いつつ。
女性	70～79歳	就業している	離別・死別	はっきり言ってしまうと成果を出している推進室かわかりません。消費生活相談もしているとのことですが、県の消費生活センターとかぶっていると思ふ無駄ではないかと思ふ。また相談業務もどれくらいあつてどのような結果を出しているのかまた困った人がこの推進室の存在を知らないと思ふ。ただ事務所があるだけで機能を果たしていないようにあります。
男性	21～29歳	就業している	既婚	男女平等と女性優先は違うということを考えて、優遇や優先ではなく、女性自身の自主性を引き出せられるようになれば理想としては思っています。
男性	21～29歳	就業している	未婚	社会に進出しようと思っている女性の割合を考えると、実際に進出している人数は少ないと思う。 社会進出する女性の人数を増やすには、それを目指す人の割合を増やさないとイケないのでは？
男性	30～39歳	就業している	既婚	男性用トイレにも子ども用のおむつ替えベッドやアメニティを充実させてほしい。
男性	30～39歳	就業している	既婚	主婦のための健康診断をしてほしい
男性	40～49歳	就業している	既婚	男女にとらわれず、様々なジェンダーのあり方(同性愛、レズビアン等)に対する社会認識を広げていく必要があると思う。 「男女」という考え方が既に古いと思う。
男性	40～49歳	就業している	既婚	今回のアンケート全体的に女性に～～するためにどうするかということが多くありますが、男性も子育てや悩みをたくさん抱えている方がいると思います。 仕事、家庭を両立させるためにも男性のパワーは必ず必要です。 男性、女性で交流や相談できる場所があると良いですね。
男性	40～49歳	就業している	既婚	男性は男性にしかできないこと、女性は女性にしかできないことを忘れずに生活していくことが大事と考えます。 特に、子どもを産むことは女性にしかできないことです。意識していただきたい。
男性	40～49歳	就業している	既婚	どうして女性が働かなくてはならないのかよく考えるべき 男性の給与が上がれば保育園とかに預けなくて済む
男性	40～49歳	就業している	既婚	市の施策自体が不明。 まずは市民へ啓発し認知してもらう活動に注力すべきと思います。 延岡市として他にないオンリーワンの活動を期待します。
男性	40～49歳	就業している	既婚	男女共同参画社会、男女平等、よく耳にするのですが、特に女性のほうが平等を望んでいない人が多い様に感じます。 ある一定のキャリアを持たれている女性の平等への意識は高い方もいらっしゃると思いますが、延岡の場合、ごく一部ではないでしょうか。 男女平等になり、男性のように仕事に従事したいと思っている女性の割合が、熱意が、正直あまり感じられないのです。 それも有り、市民意識も上がらないと感じています。
男性	40～49歳	就業している	未婚	しんとうしていない。個々の問題ではなく、会社のトップが変わらないと、下の人間は無理でしょう。
男性	40～49歳	就業している	離別・死別	このプラン自体知らなかった。 多分、知っている人はほとんどいない。 認知度がなさ過ぎる。
男性	50～59歳	就業している	既婚	社会の熱意を変える取組
男性	50～59歳	就業している	既婚	地区の区長に女性を増やすための説教的な呼びかけを行う。 地域の清掃作業や道路道路作業などで、女性が活躍できるように作業用機械の技術を身につけるようになるための施策等。
男性	50～59歳	就業している	既婚	不妊治療支援をもっと 手厚いものにしなければならぬと思います。 子供が欲しいと思っている人は 子供を大切に育て立派な社会人として教育できると思います。 子供が増え安心して育てられる 市ではないと市の繁栄はないと思います。
男性	60～69歳	未就労	既婚	現在、定年退職後に休職中の立場にてアンケートさせていただきました。 全体的には、広報不足かと感じております。
男性	60～69歳	未就労	既婚	意識変化には時間と教育が必要と感じる。 各家庭でもここ数年で変化あり

性別・年齢 等				自由意見
男性	60～69歳	就業している	既婚	男女共同参画社会づくりの根底にある問題点が理解できていないので回答しづらかった
男性	60～69歳	就業している	既婚	延岡市と市民との間に、男女共同参画社会作りの意識が、まだ薄いのでは、と思う
男性	60～69歳	就業している	離別・死別	戦後70年余。真の男女共同参画は、道遠しの感があります。市長におかれましては、長期的な視野を持たれ、市政の運営に尽力されたく思います。
男性	70～79歳	未就労	既婚	いろいろな職場、いろいろな役職、いろいろな地域・団体から男女共同参画社会の委員を選んだ方がよい。
男性	70～79歳	未就労	既婚	男女の身体的な違いなど考慮に入れて、いかに平等に男女が共同参画できる環境を確立できるかを踏まえ進めていくのではないのでしょうか。また、これらについての、理解を社会に求めることも必要ではないでしょうか。
男性	70～79歳	未就労	既婚	市政の色々な施策を実現させるには、まず市政への関心度を高めること、それには各々選挙での投票率を最低でも60%以上とし以下の場合場合は極論だが無効とし再選。 (また税金を遣うのか!と市民を怒らす)(国政も然り)国民皆参政権を無駄にするなど!(今の香港を見よ!) ぐらいのこともしても文字通り市民を参画させねば皆吹けども踊らぬになっている。 ”ばんば”は踊るけどね。 ”延岡市民は全国一の高投票率を目指せ”そして、市民参画の市政へ。
男性	70～79歳	未就労	離別・死別	社会風潮の変革を推進する施策
男性	80歳～	就業している	既婚	国連が「持続可能な発展のための目標SDGs」を決議しました。 延岡市でも、男性女性50/50の委員会を組織して環境改善活動を推進してください。 2050年には、世界の人口は100億人に達し、それに対応できる食糧と水は不足し、地球温暖化は果てし無く続きます。スウェーデンの女子高校生は自分達の生存権を奪った大人たちに怒っています。 カナダの女子大学生はこんな未来に絶望して赤ちゃんを産まない運動を始めました。 日本の若者たちも自分の未来の人生を取り戻すために立ち上がるべきです。延岡市もそれを支援してください。
男性	80歳～	未就労	既婚	私は、90歳を超えた高齢者で認知症にならないために野菜づくりに専念しています。 一方、家庭では妻の世話までしており一日も気を許すこともできない生活をしています。 だが、妻も私も人のお世話は辞退して二人で気楽な生活を営んでいる毎日です。
男性	80歳～	未就労	既婚	市の職員中女性の管理職が少ないようだ
男性	80歳～	未就労	既婚	定期的実施されている男女共同参画活動や地域活動は、いつ、どこで、だれが、内容等具体的に広報して欲しい。 働き方改革を推進すれば男女共同参画がより実現、加速すると思います。

